【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　中部西小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	○確かな学力の定着　○論理的思考力向上を意識した授業 ○図書館教育の充実	3
主な方策 成果と課題	（１）論理的思考力の育成 ・単元ごとに付けたい力を明確にし、課題の精選をして授業づくりに取り組んだ。児童が主体的に自分の考えを表現する姿を大切にして、「目と耳と心で聴こう」を合言葉に友だちの意見を聞き合い、学びを深めていった。 （２）ICT教育の充実 ・昨年度に引き続き、積極的に授業でタブレットを活用していった。また、タブレットを毎日持ち帰ることにより、家庭でもタブレットドリルでいつでも学べる環境を整えたり、コロナによるオンライン授業に備えたりした。 （３）図書館教育の充実 むくちゃんスタンプラリーを実施する等、図書館祭りの内容を工夫することで子どもたちが主体的に読書に親しむことができた。	

重点目標２	○心の教育の充実　○生活習慣の向上　○問題行動の未然防止	3
主な方策 成果と課題	○心の教育の充実　「教育相談」「Q-U調査」「代表委員によるいじめ防止劇（人権教育）」 ・個々の把握に務めて、指導に生かせた。 ・劇について考えることで、様々な立場に立って自分はどう行動すべきかを考えられた。 ○問題行動の未然防止　「児童集会」「職員間の情報共有」 ・たてわり活動を通して、達成感や自己有用感を持たせることができた。 ・全職員で全児童の情報を共有し、指導に生かせた。 ○生活習慣の向上　「きらきらあいさつ」「きらきら金曜日」 ・あいさつや校内美化を促せた。	

重点目標３	○健やかな体づくり　○運動好きな子を育てる授業の実践 ○健康に関する教育の充実	3
主な方策 成果と課題	○健やかな体づくり　「５分間走」「体力づくり月間」「なわとび週間」 ・授業で持久走に取り組み、自分なりに目標を立ててペース配分をすることで、どの子も最後まで学習に取り組むことができた。 ・体力づくり月間には、休み時間に体育館の開放を行うなど、子どもたちが楽しみながら体を動かす機会をつくることができた。 ○運動好きな子を育てる授業の実践 ・職員会議において、授業等でも活用できる５分間運動や簡易で楽しく取り組める運動を紹介し、各学年で実践した。 ○健康に関する教育の充実 ・学期に１回、担任と栄養教諭で食育指導を行っているため、朝ご飯を食べる子どもの割合が多くなっている。 ・保健委員会・給食委員会を通して、手洗いの大切さや適切な給食の配膳方法について子どもたちに発信し、意識化に努めた。	

重点目標４	○問題解決能力の育成	3
主な方策 成果と課題	（１）１学期と３学期に児童アンケートを行い、児童の実態把握に努めた。学習規律の徹底を図るため、返事・姿勢・机上の整理整頓を年間通して定着を図った。 「聴く」ことの大切さと、「話す・聴く」ポイントを具体的に示して指導したことで、力がついてきている。 （２）1人1台のタブレットを日常的に活用することができた。こにゅうどうくんの部屋とミライシードを活用することで個別最適な学習を行うことができた。今後もさらに有効活用できるように研修を進め、楽しく学び合うことができる授業づくりに取り組みたい。	

重点目標５	○学校参画委員会（コミュニティ―スクール）の推進	3
主な方策 成果と課題	○参加参画型授業 百五十周年記念式典は、子どもたちも地域の学校の一員としての意識を強く持つことができ、また、たくさんの人に支えられていることを知る良い機会となった。秋の学校公開は、時間や参加方法を工夫し、密にならないように実施することができた。 ○ふれあいパトロール 地域の方に見守っていただくことにより、安心して下校することができた。 ○学校支援員（ボランティア・学習アシスタント） 家庭科などで、学習を支援してもらうことで、効果的に学習を進めることができた。読み聞かせ、クラブ活動にボランティアに入ってもらうことで、生き生きと取り組む姿が見られた。	

２　改善方針

・コロナ禍で体を動かす機会が減っている児童の体力向上のために、体育の時間における運動量の確保や内容の充実を図るとともに、体力づくり月間中の体育館の開放のように、運動の機会と場の提供を行い、運動の機会の確保に取り組んでいく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　浜田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	支え合う仲間がいる学校	4
主な方策 成果と課題	授業づくりでは仲間づくりとして、児童の困り感に寄り添い、自尊感情を持てるように取り組んできた。「わからないことがあったとき『わからない』と聞くことができますか」の項目で、昨年度は24%の児童が不十分と回答したが、今年度は12.5%に減った。これは、全教職員の提案授業研究や仲間づくり研修等、日々の地道な授業づくりや子ども理解によるものと考えられる。 居心地の良い学校・学年・学級づくりとして、学級問題を自分事として考える学級づくり、いじめ調査後の教育相談の充実、学年の運営強化に努めた。また、外国にルーツのある児童が多い本校の実態に対して全教職員で指導に取り組み、教職員や児童の人権意識の向上に努めた。教職員アンケートの生徒指導の充実の3項目全てにおいて100%の肯定的回答があった。次年度も低学年の時から「人を支える仲間づくり」の指導の徹底を図る。 保護者・地域への情報発信については、学校づくりの冊子、学校・学年・学級だより、HPの掲載など発信に努めてきた。保護者アンケートの「学校教育に参画できる機会を学校は進めることはできていると思いますか」の項目では94%の肯定的回答があった。情報発信と共に学校教育への参画を進めることで、開かれた学校づくりができた。	

重点目標２	問題解決的な授業ができる学校	4
主な方策 成果と課題	１時間学び続けられる子どもの育成を目指し、全教職員で全体研修会及び学年部提案授業、事後研修会を実施し、実際の授業を基に話し合いを進めた。「少人数の授業はわかりやすいですか」の項目に対し、90%の肯定的回答があった。高学年で少人数の授業を前年度より増やしたことが、子どもの学習理解の深まりにつながった。また、全体研修会の授業においてタブレットを効果的に活用する提案がなされ、新しい授業のあり方について議論がなされた。しかし、「教育活動全般において積極的にICT機器を活用することができたか」の回答に対し、否定的回答が16.7%あり、全職員がICT機器を効果的に活用した授業ができているとは言えない。「何のためにタブレットを活用するのか」「目指す新しい授業像とはどんなものなのか」を具体的に共通理解し研修を積んでいく必要がある。 確かな学力の定着について、6年生学調、4・5年生みえスタ、3年生NRTの全てにおいて、全国や県平均を上回る結果を得ている。子どもたちの「学ぶことが楽しい」「授業中に聴き合い学び合っている」というアンケート項目も肯定的回答が80%を超えており、意欲的に学習に取り組んでいる成果が出ている。一方で、保護者の教育に関する意識は高いが、学力は二極化しており、学校での授業の取り組み方や個別の支援体制、授業と家庭学習の連携をさらに強化し、一人ひとりの学力向上に努める必要がある。	

重点目標３	学習・生活の支援ができる学校	3
主な方策 成果と課題	特別支援教育の推進として、月1回の校内特別支援検討委員会や職員打ち合わせでの報告を行ってきた。検討委員会では各学級の支援を必要とする児童の実態に応じ、組織的な支援が行えるよう体制を組んだ。特別支援教育に関する全ての職員の専門性や指導力向上のための校内研修・ＯＪＴについて、さらに推進していく必要がある。 保護者が家庭でのタブレット管理に苦慮していることがアンケートの記述回答から分かる。使い方のルールは年度初めに学校から周知しているが、デジタルシティズンシップ教育を学校教育だけではなく各家庭と連携して進めていく必要がある。 読書活動推進校として図書の整理・入れ替えを進め、低学年を中心に図書館利用が増えている。並行読書や長期休暇の貸し出し数増だけでなく、高学年において読書活動の充実を図ることで、児童・保護者共に本に親しむ環境づくりを進める必要がある。 ５分間運動や日常的に運動に親しむ運動を仕組むことで、運動習慣の定着を図ることができた。しかし、児童アンケートにおいて否定的回答が20%あった。そこで、他者と競うのではなく体力向上の楽しさを感じさせたり、動きや記録を視覚化し把握できるようにしたりしながら学ぶ機会を仕組むことで、運動への多様な親しみ方を感じさせていく。 生活習慣の定着に関する項目で、否定的回答率が高かった。学校保健員会で生活習慣の大切さに触れさせたり、食育の授業や保健指導で生活習慣を見直したりし、家庭と連携して生活習慣の大切さを意識させていく必要がある。	

重点目標４	安全で安心できる学校	3
主な方策 成果と課題	子ども・保護者の困り感に寄り添うために、子どもと話す機会を増やし解決策を一緒に考えて取り組んだり、保護者やSC、関係機関と連携したりして取り組みを進めた。成果として、保護者アンケートの「お子さんは気づいたことや心配なことなど学校に伝えることができていますか」の項目では、肯定的回答が昨年度より10%高くなり70%になった。児童アンケートの「困った時に寄り添ってくれる友だちがいますか」の項目でも肯定的回答が90%を超えた。成果が出ているので、次年度も、取り組みを継続していく。 教職員にとって働きやすい学校づくりとして、教材などの共有、校務支援システムや業務アシスタントの活用、働き方改革へのCSや地域・保護者の協力依頼を行った。しかし、教職員アンケートでは、働き方改革が十分であるとは言えず、一層の改革が必要である。教育活動の充実を目指すために、会議や研修内容を精査し、優先順位を意識したり経年的な見通しをもった教育活動の計画立案をしたりしていく必要がある。	

重点目標５	地域の方に学ぶ学校	4
主な方策 成果と課題	地域の教育力の活用としては、各学年で地域の人を活用した授業を年１回以上行ったり、学校支援ボランティアを活用した外国語活動、読み聞かせ、クラブ活動等を行ったりと、コロナ禍の制限はあるが取り組んできた。CSの委員の方には地域の人との連携調整役や学校教育活動への支援役を果たしてもらった。児童アンケートの「地域の人たちや地域にあるものから学んでいますか」の項目では80%が肯定的回答をしている。また、保護者や地域の方の学校教育への参画を進める取り組みも行った。保護者アンケートの「学校は、保護者や地域の方々のボランティア活動を計画的に取り入れていると思いますか」の項目では、80%の肯定的回答がある一方、わからないとの回答も多く、保護者の学校教育への関心が二極化している。	

２　改善方針

【重点課題１】
①「支え合う仲間がいる学校」を目標に、授業の中で子ども一人ひとりの分からないを大切にした困り感に寄り添った授業づくりを目指す。
②外国にルーツのある児童理解を中心とする人権教育を継続して取り組み、居心地の良い学級の基盤づくりのためにＱ-Ｕの活用や児童の細やかな情報交換も図っていく。
【重点課題２】
①問題解決的な授業ができる学校として、45分間学び続けるための手立てを学び合う研修を進める。「四日市モデル」を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
②ミニ研修会等で教員のタブレット活用能力を高めたり、タブレットを使って授業する意義や新しい授業観等を学んだりして、全教職員の意識改革や一定水準のICTの技能習得を図る。
【重点課題３】
①全教育活動を通じたICT機器の積極的な活用及び家庭学習でのICT機器の活用を図る。
②家庭と連携したデジタルシティズンシップ教育の推進を図る。
③高学年に重点をおいた読書推進活動の展開を図る。
④学校保健委員会で生活習慣の大切さに触れさせたり、振り返りシートで生活を見直したりして生活習慣の定着を図る。
⑤家庭学習の適切な内容・量や授業につながる評価について再検討し、保護者への発信を図る。
⑥運動習慣の定着を図るために、他者と競うのではなく体力向上の楽しさを感じさせる。また、ICT機器を活用し動きを比較したり、記録をグラフ化したりして動きや記録を視覚化する機会を仕組む授業づくりを目指す。
【重点課題４】
①SCや専門機関と連携、SSWの活用をすることで子ども、保護者の困り感に寄り添える学校づくりを目指す。
②勤務時間内で効率的な職務遂行を図るために、会議や研修内容を精査し、優先順位を意識したり経年的な見通しをもった教育活動の計画立案を組織的に行う。
③安全意識向上のために、港中学校や地域防災組織との連携を図り、様々な災害に対応できる地域づくりを目指す。
【重点課題５】
①地域の教育力の活用を学校運営協議会（コミュニティースクール）主導で進める。
②各学年が地域の人や学校支援ボランティアを活用する教育活動を年１回以上行う。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　塩浜小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着～思考力・判断力・表現力をバランスよく育成し、問題解決能力、情報活用能力等を育みます～	3
主な方策 成果と課題	・学習内容を工夫し、タブレットを活用した表現力の向上に努めた。 ・教職員間でICT活用に関しての研修を積極的に行い、効果的なICT活用に関して実践を重ねることができた。 ・ICT活用と同時に、自分の考えを「話す」「書く」、相手の意見を「しっかり聴く」ことを意識した授業づくりを行った。 ・ペアやグループでの交流は活発に行えるようになったが、コロナ禍の中で制限があり、さらに伝え合い、聴き合い、考えを深める取組の必要性を感じる。 ・家庭学習の手引きを活用し、自主学習に取り組む意欲を育てる手立てを工夫した。児童の良いノート例を掲示し、お互いの学習方法の参考になるよう環境づくりを行った。 ・外国語科では、児童の意欲を高める掲示を行った。 ・他校とのオンライン交流会を行い、児童の視野を広げコミュニケーション能力を育てる取組を行った。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成～自分のこころとからだの健康や安全を意識し、行動できる子どもを育みます～	3
主な方策 成果と課題	・図書館祭りやペア学年での読み聞かせ、中庭図書館の環境整備など児童の意欲を高める取り組みを中心に、読書活動に全校で取り組むことができた。 ・コロナの影響で制限がある中、学校行事や縦割り班活動など工夫して、異学年交流を行うことができた。 ・学習規律や生活規律の定着に向けて、毎月の目標達成への手立てを各学年で話し合い、月末には振り返りを行った。掲示物の工夫をし、あいさつや廊下歩行、トイレのスリッパをきれいに並べるなど、学校のルールを守ろうとする児童の意識を高めることができた。 ・全校で業間かけ足や業間なわとびに取り組み、体力向上につなげることができた。また、換気タイムを設け、保健委員会の呼びかけなど健康教育につなげる取り組みを行うことができた。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成～自分を見つめ、塩浜地区の未来を担う子どもを育みます～	3
主な方策 成果と課題	・遠足や運動会、縦割り班遊びなど、きょうだい学年を軸とした縦割り班での活動を行うことで、高学年のリーダー性を育むことができた。 ・キッズ農園や、建設業出前授業、防災授業、図書館ボランティア等、地域や保護者の方の協力のもと児童が多様な体験活動を行うことができた。 ・塩浜音頭愛好会、町探検、獅子舞など、塩浜地区の良さを見直し、再確認できた。 ・地震や津波を意識した防災教育を通して、「自分の命は自分で守る」など、児童が危機意識を持って各訓練に取り組むことができた。 ・教職員で避難訓練のフィードバック研修を行い、危機管理に対する意識を高めることができた。 ・キャリア教育の一環として、様々な職業についている方から話を聞かせてもらい、自分の将来について児童が向き合う機会をつくることができた。（住職・建設業・市民センター職員・コンビナート企業・窯業者等）	

重点目標４	すべての子どもの成長をサポートする教育の実現～一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行います～	3
主な方策 成果と課題	・習熟度別の少人数教育、教科担任制、ティームティーチング（T.T）の活用により、効果的な学習指導の推進を図った。 ・学習支援員、学習ボランティアの適切な配置を行い、きめ細やかな指導につなげることができた。 ・職員間で常に情報交換を行い、児童の様子について多面的に把握できるよう心がけた。課題解決のため、職員が迅速に動ける体制づくりに努めた。 ・スクールカウンセラー（SC）の児童観察や、児童のカウンセリングを行っての情報共有で、児童理解に繋げることができた。 ・不登校対策委員会を定期的に開催し、職員で情報共有することができた。 ・特別支援教育担当教員を中心に、教職員間で連携を図り、課題を共有して取り組みを進めることができた。 ・Q-U調査の結果を校内研修会で考察することで、児童理解やそれぞれの子どもたちへの接し方、日々の指導についての手立てなどを考え、教育の実践に生かすことができた。	

重点目標５	学校教育力の向上～子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、学校経営の充実を図ります～	3
主な方策 成果と課題	・登下校の歩き方や自転車の乗り方等について繰り返し指導を行い、通学路を見守ってくださっている地域の方々との連携を図り、児童の交通安全に対する意識を高めた。 ・天候等心配される時は、登下校の児童の見守りや通学路の安全確認を必要に応じて行った。 ・HP更新や学校だよりの発行にて、児童の様子や学校の取り組みを地域や保護者の方に伝えられるよう、継続して発信を行ってきた。 ・行事と授業の兼ね合いも見つつ、スムーズな学校運営ができるようにしていきたい。 ・ICT活用に関する研修（タブレットの効果的な使い方）を職員間で行い、日々の授業に活用した。 ・新型コロナ感染予防に気をつけながら、学びの一体化の取り組み（来入児と1年生の交流会・人権フォーラム・塩浜中文化祭での合唱発表）を行うことができた。異校種間での児童・生徒理解につなげ、指導の手立てを考える上で参考にした。	

２　改善方針

・職員で学校の課題について現状を周知し、支援体制を組む等、職員間で迅速に動ける体制づくりを継続していく。 ・お互いの授業を参観し合い、同僚性を発揮して授業づくりについて積極的に学ぶ体制づくりを進める。 ・子どもたちにどのような資質・能力を育むべきを職員が共通理解し、どこに重点を置いて取り組むべきかについて常に意識できるよう、カリキュラム・マネジメントの研修を行う。 ・家庭学習については家庭訪問等で「家庭学習の手引き」を活用し、保護者と共通理解を図って指導を進めていく。 ・児童の運動能力を高めるため、年間計画に基づき、系統立てた体育活動の推進を行う。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　羽津小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着～学び続ける力の育成～	4
主な方策 成果と課題	【方策】 １基礎的･基本的な知識･技能の定着①わかる楽しさが実感できる授業づくりに取り組む②内容を聞き取る力･読み取る力を高める ③少人数授業の実施等きめ細かな指導を行う④短時間学習･授業始めを活用した基礎･基本の学習内容の定着を図る⑤保護者と連携し家庭学習の習慣化を図る ２問題解決能力の向上 ①子どもが問いを持ち主体的に学ぶ力を育てる②思考を広げ深める力･表現する力を高める③対話的に学び合う授業づくりに取り組む④ICTの効果的な活用 ３特別支援教育の推進①個に応じた指導の充実に取り組む②個々のニーズに迅速に対応できるよう特別支援委員会の取組の充実を図る③専門機関との連携など組織的に特別支援教育を進める 【成果】 〇全国学力学習状況調査・みえスタディチェックやＮＲＴでは、ほとんどが全国平均や県平均を上回った。今までの方策を継続し、更なる向上のため改善していく。 〇個別最適化を研修の重点に置き、個々の理解や力がつくように方策を考えることができた。子どもが、めあてや見通しを持って探求し説明したり活用したりすることにより、一人ひとりの学びを深めることができた。ペアやグループでの活動やICTの活用が、自分の考えを表現する有効な手立てとなり、表現力の向上につながった。 〇定例の校内支援委員会で、情報共有・協議を行った。専門機関に相談し、助言をもらって、児童・保護者の支援に役立てた。サポートルームの活用や転籍につなげることができた。 【課題】ICTをさらに効果的に活用できるよう授業改善に取り組み、思考力・表現力を培う。支援の必要性を早期発見し早期対応することに努める。	

重点目標２	心の教育の充実	3
主な方策 成果と課題	【方策】 １人権を尊重する仲間づくりの推進① 自分を大切にし、互いの違いを尊重する態度を養う② いじめや差別に気づき、許さない心を育む③いじめや体罰などの調査を定期的に実施し、実態把握や早期対応に努める④ 生活ノートの充実を図る ２規律ある生活の確立①道徳教育の充実を図り、 ルールやマナーを守る規範意識を育む ３豊かな心の醸成① あいさつをはじめとするコミュニケーション力を伸ばし、互いに思いを伝え合う力を育む　② 読書活動を通して、感性を磨き、創造力を豊かにする③ キャリア教育の充実を図り力を合わせて最後までやり遂げる粘り強さを育む 【成果】 〇毎学期のいじめ調査により、いじめにつながりそうな出来事を早期発見し対応ができた。いじめを題材にした授業を全学年で行い「いじめをしてはいけない」という意識づけができた。 〇「羽津っ子のきまり」や道徳の授業で、ルールやマナーを守る規範意識を育むことができた。 〇児童会活動とタイアップして子ども発信のあいさつ運動で意識づけができた。 【課題】今後も児童の様子の変化をよく観察し、道徳・人権学習と具体的ないじめ防止活動をよく連携させて、差別やいじめを防ぎ、早期発見に努める。挨拶は、生活の中で自然にできるよう家庭や地域と連携して繰り返し指導する。	

重点目標３	健康・体力と安全意識の向上	4
主な方策 成果と課題	【方策】 １健康の維持･向上① 生活習慣を見直し、「学校の新しい生活様式」の中で健康を維持･向上する力を育む② 食育を推進する ２体力･運動能力の向上① 運動好きの子どもを育む授業づくりに取り組む　② 体育科授業や体育的行事、日々の遊び等を通して体力･運動能力の向上を図る ３安全な学校づくり① 生活に必要な安全意識を育む　② 食物アレルギー管理を徹底する　③ 避難訓練や防災学習を充実する　④ 危機管理意識を高め、安全･安心な学校づくりに取り組む 【成果】 〇保健だよりや委員会活動を通して健康な生活について啓発することができた。各学年、学期に1度食育の授業を行うことで系統的な指導をすることができた。 〇運動用具や環境の整備・充実に取り組み、運動好きの児童を増やすことができた。コロナ禍においても、感染症対策を講じながら体育的行事を行った。手洗いの指導を徹底することで、子どもの様々な運動遊びの機会を保障することができた。 〇日常的な指導に加え、避難訓練、交通安全教室、防犯教室、不審者対応訓練（教師対象）などを行い、児童、職員ともに意識と対応能力を高めることができた。誤食のないように情報共有を徹底することができた。施設や遊具の点検を確実に行い、修繕につなげることができた。 【課題】コロナ禍の影響もあり、体力が低下している。調査を続けて検証し体力向上の取組を行っていく。運動好きの子どもを増やすため、引き続き家庭とも連携して取り組む。	

重点目標４	家庭・地域との連携の推進	4
主な方策 成果と課題	【方策】 １開かれた学校づくりの推進①コミュニティスクールの推進②教育活動アンケートをもとに、学校運営協議会と連携した学校評価を行い、学校づくりを進める　③学校だよりや学年だより、ホームページ等による情報発信の充実を図る ２地域・家庭との連携の推進①地域や保護者の学習支援ボランティア（読み聞かせ等）やゲストティーチャーの活用を進める②羽津の郷土や萬古焼など地域の特色を活かした地域学習・体験活動に取り組む③地域･家庭と連携し、登下校時の安全確保を図る 【成果】 〇地域・家庭の協力で登下校が安全にできている。 〇地域や保護者の学習ボランティア方に、読書週間における読み聞かせや社会や総合的な学習の時間のゲストティチャーとして活動していただくことができた。 【課題】下校時も交通ルールを守りながら安全に帰宅できるよう指導を重ねる。今後も、地域に根差し保護者と連携する取組を実行していく。	

重点目標５	学校の教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【方策】 １確かな教師力の育成① 校内研修を充実させ、教職員の能力向上を図る　② 各種研究会に参加し研鑽を積み、指導力向上を図る　③ 「学びの一体化」により中学校区の連携を図る ２教職員の学校づくりへの参画① 学校教育目標の具現化に向けた具体的な取組の焦点化と責任の明確化を図る　② 各指導部で改善活動に取り組む ３各種会議や業務の改善・効率化① 職員会議、各種会議の効率化を進める　② 定時退校日を実効あるものにする　③ 働き方を改善し、総勤務時間の縮減を図る 【成果】 〇授業研究会や課題づくり研修会を実施したり、授業公開週間を設置して授業力向上を図ったりして、授業改善に努めた。 〇研究協議会、市の研修会などに積極的に参加。学びの一体化により、他の学校とも授業を見合い意見交流をしたり、情報交換を行った。 【課題】 定時退校日の設定などにより、勤務時間の管理を一人一人が意識することはできたが、全員が目標を達成することは難しかった。時間外労働の削減など働き方改革を今後も進めていく。	

２　改善方針

・児童アンケート「学校に来ることが楽しい。」では、楽しいと感じる児童が93%である。今後も学ぶ場・楽しみの場・安心できる場としての学校の役割をしっかりと果たしていく。また、学校生活に対しての不安や悩みを抱いている児童もいるので、一人一人の児童としっかりと向き合い、適切な支援をしていくとともに、児童が活躍できる場や認められる場となるような授業や行事、学級づくりに努めたい。
・「あいさつをきちんとしている。」では、継続的な取り組みを続けてきたことで、児童アンケートでは90%以上の肯定的な回答が５年間以上続いている。しかし、保護者アンケートの回答では肯定的な回答は90%に届かず、児童と保護者の意識に差がみられる。相手を認め、大切にする姿勢を表すものとして、繰り返し挨拶の指導をしていく。また、学校だけではなく家庭地域で日常的に身に付けていくものなので、引き続き家庭や地域と密接に連携した取り組みが必要である。
・これまではコロナ禍にあり大人数の行事に制限が必要だったが、保護者や地域の人々の学習参加や地域に学ぶ学習の推進し、地域性を生かした教材の開発に努める。
・専門機関と連携を取って、情報共有したり研修を行ったりして、教職員の特別支援教育に関する専門性をさらに高めていく。
・避難訓練について、予想される被害にあった方法の避難ができるように情報を収集し改善していく。
・体力面では、環境整備に努め、バランス力・調整力、投力を向上させていく。また、学年学級間で競い合ったり協力したりする機会（なわとび週間、かけ足週間など）を計画し、運動が苦手な児童も友だちと体を動かしていけるような取り組みを行う。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　海蔵小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	○毎日の授業の充実	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ○授業を通じ、子どもたちが学ぶことの楽しさや大切さを感じ、確かな学力やより広く深く学ぼうとする意欲を高める。 ○体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにするとともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。 【成果と課題】 ○授業の中で「子どもにつけたい力」を明確にし、子どもたちに「めあて」として示すことで、より注意深く子どもたちを見つめ、具体的な手立てを検討し、子どもの実態に即した指導を進めることができた。 ○めあてや課題を提示したことで見通しを持て、「わかる」「できる」と実感している子が増えてきた。 ○ＩＣＴを活用して、考えを見える化したり、話し合いの土台を与えたり、自らの学びを調整したりすることができるように、指導の更なる工夫改善をしていきたい。	

重点目標２	○道徳的実践力と自尊感情の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ○道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえのない存在と感じる）を高める。 ○なかまづくり研修会の実施 ○四同研の提案や研修会への参加　　など 【成果と課題】 ○人権教育推進計画に沿って、全職員共通理解のもと「なかまづくり」を進めることができた。なかまづくり研修会を通して学年の教師全員で子どもを理解し、自尊感情を高めていく取組を行うことができた。 ○道徳授業を深めるために、提案授業や職員研修を行った。各学年の実践や研修会での学びを交流し、道徳心を高める「考える道徳」につながる指導に結び付けたい。	

重点目標３	誠実な態度　規律ある態度　勤勉な態度の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ○自分からあいさつ・礼をする習慣の育成　　○授業に真剣に取り組む態度の育成 ○きまりの順守（整った身なり・体育の服装・名札の着用・右側歩行） ○そうじの取組（黙って、進んで、最後まで） ○なかまづくり（相手の気持ちに寄り添った言葉づかい） 【成果と課題】 ○学校のきまりをまとめた冊子「海蔵っ子になろう」をもとに、昨年度より「あいさつ」に重点を置き、学校全体で指導と取組を続けた結果、校内だけでなく校外でも自分から進んで挨拶する児童が増えてきた。 ○家庭学習の手引きをもとに、家庭への協力と児童への指導を続けているが、なかなか定着しにくい現状がある。タブレット学習も含め、今後も、家庭との連携や啓発を続けていく。 ○地域の方々による工作教室や地場産業である萬古焼体験、また、保護者による学習支援ボランティアなど、地域や家庭の協力を得て、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。	

重点目標４	教職員の研鑽と協働	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇教職員一人ひとりが、年１回以上の研究授業を行い研鑽を深める。 〇「自己目標設定シート」を作成し、能力、意欲、組織力の向上を図る。 〇生徒指導、特別支援委員会等による情報共有と組織的、効果的な対応 〇学年・全職員の共通理解による一致・連携した指導 〇教職員が連携し生き生きと効果的に働くことのできる環境づくり 【成果と課題】 ◯校内研修では「きき合う力」の育成に力を入れ、発問や場の設定等の工夫により、ふりかえりの中に、他者の考えに対する自分の考えを書く児童が増えてきている。 〇研究授業では、事後研修会を大切にして、授業改善につなげている。 〇ＩＣＴに関する職員研修や実践交流を年間計画に位置付けて継続して行った。授業に効果的に活用できる場が増え、子どもたちの主体的に学習に臨む姿勢や、自分の考えを説明する力が向上している。	

重点目標５	家庭・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇コミュニティースクールの推進　　〇学びの一体化の推進 〇学校からの情報発信・啓発 〇地域の人材、素材を活用し、地域に根差した学習活動の推進 〇学習環境整備の推進　　〇家庭学習習慣の定着 【成果と課題】 〇児童の登下校時の様子から、地域の方へのあいさつが不十分であるという課題が把握できた。そのため、児童会活動や機会をとらえての全校への講話など、子どもたちが進んであいさつできるよう、より一層の指導の強化を図った。 〇地域や家庭の協力を得て、工夫して運動会や海蔵っ子走ろう会等の学校行事を効果的に、また、安全に進めることができた。 〇登下校の安全や下校後の安全について更なる指導や見守りが必要な現状があるため、地域や家庭と連携して取組を進めたい。	

２　改善方針

・子どもの意欲を喚起するようなめあてや多様な課題の設定を行うとともに、自分で考える時間と話したりきいたり伝え合ったりする場を十分に保障する。
・ＩＣＴの活用や、少人数教育などの授業形態の工夫を行い、個別最適化した学びにつながるように指導を工夫改善していく。
・指導者の肯定的な評価によって、子どもの学習意欲を喚起するとともに、自信とやる気をつけさせていく。さらに、それを繰り返すことによって、子どもたちの自尊感情・自己肯定感の向上につなげていく。
・家庭学習の手引きを年度初めや、学期初めに確認する。また、学年通信等による家庭への啓発を続ける。
・朝の読書では、読書のよさや面白さを実感できるように、読み聞かせ、おすすめの本紹介、図書館まつり、入選や出品した読書感想文を還流など図書館教育を充実させていく。
・「こんな海蔵っ子になろう」の実現に向け、週に１度の打ち合わせで情報共有を図り、全職員による統一した指導と児童会を中心とした子どもによる活動を引き続き進めていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　富洲原小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	主な方策　（１）授業づくり　（２）学習集団づくり　（３）学習環境の整備 （４）読書活動の充実 成果と課題 ・児童アンケートにおいて、「授業中に友だちの考えをよく聴いている」児童が９５％で、「聴く」ことについては概ね達成できてきたが、「授業中に自分の考えや分からないことを発表したり伝えたりしている」児童の割合は６０％にとどまっており、考えや思いを「伝えあう」ことがまだまだ十分にできていない現状が明らかになった。どんなことでも言い合えるなかま関係を日常から築いていく必要がある。また、保護者アンケートで「お子さんは、授業が分かりやすいと言っていますか」の肯定的回答が前年度比で１５％も下がった。「学び合い」を基盤とした授業づくりに取り組んではいるが、より一層授業改善を図る必要がある。 ・読書活動については、いつでも図書室を活用できるようにしたり廊下の一角に読書コーナーを設置したり読書環境の整備に努めた。その結果、休み時間に図書室や読書コーナーを活用している児童の姿がみられた。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	主な方策（１）人権教育・道徳教育の充実 （２）深い児童理解に基づく心豊かな仲間づくり （３）体力・運動能力の向上　（４）健康教育・食育の推進 成果と課題 ・児童アンケートの「自分にはよいところがある」や「相手の気持ちを考えた言動をしている」の項目が、昨年度よりもそれぞれ４ポイント上昇した。北勢同研の発表会に向けて人権教育の取組を推進した成果の表れであると考えられるが、まだ１０数％の児童は否定的な回答をしているので、次年度もさらに取組をすすめていく必要がある。また、児童理解のために家庭訪問を行う頻度が高まり、学校での姿だけでなく、家庭での様子をふくめた児童の生活背景をつかむことの重要性を全教職員で確認することができた。 ・９０％以上の児童が「感染症予防に気をつけている」、「安全に気をつけて行動している」について肯定的な回答をしており、そうした意識は高まっているものと思われる。しかし、日常の児童の様子を見ていると、廊下歩行ができていない、防げると思われるけがが多い等、実践力をつけていかなくてはならない。	

重点目標３	よりよい未来社会を創出する力の育成	3
主な方策 成果と課題	主な方策（１）キャリア教育の充実 （２）地域資源、人材を活用した教育活動の工夫・充実 （３）防災・安全教育の推進 成果と課題 ・児童アンケートで「すすんであいさつをしている」や「時間を守って行動している」に肯定的に回答した児童がともに９０％以上で、昨年度よりも７～８ポイント上昇した。児童会でも取組をすすめたこともあり、あいさつやルールを守るといった、社会に出た時に必要不可欠な力が着実についてきたと言える。しかし、挨拶をすることに抵抗がある児童もいることから、今度も取組をすすめていきたい。 ・総合的な学習の時間や社会科等で、地域の方の来校していただいて話を聞く機会を持つことができ、児童の学びを深めることができた。まだまだ富洲原小校区には、活用できる人的・物的資源があると思われるので、各学年の取組に活かしていけるようにしたい。 ・地域の消防団や自主防災隊と連携した防災・安全教育を実施することができた。児童にとって大変貴重な体験であるとともに、地域の方と交流することができるよい機会となった。地域との連携を今後も大切にしていきたい。	

重点目標４	全ての子どもたちの能力を伸ばす教育の実践	3
主な方策 成果と課題	主な方策（１）学びを支える指導体制の充実　　（２）特別支援教育の充実 （３）三錨コミュニティスクールとの連携 成果と課題 ・一部教科担任制の導入や、少人数授業の工夫、教材研究など、指導体制の充実に努めた。また、特別支援教育の充実として、個々の教育的ニーズに応じた指導に取り組んだ。その結果、児童アンケートで「学校生活は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合が９０％となった。 ・一方で１０％の児童が「学校生活が楽しい」と感じられていないという現実にも直視しなければならない。学習や人間関係に課題やしんどさを感じている児童にこれまで以上に寄り添い、家庭とも連携しながら個々に応じた指導を継続していかなければならない。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	主な方策（１）教職員の資質・能力の向上　　（２）働きやすい職場環境の推進 （３）「学びの一体化」の推進　　（４）学校情報の適切な発信と公開 成果と課題 ・今年度は人権・同和教育を柱として校内研修に取り組んだ。年間で２０回の全体研修会を実施するとともに、各学年部で教材研究や指導案検討会の機会をもって、人権学習の授業づくりや子ども理解について議論を深め、実践につなげることができた。来年度も人権・同和教育を研修の柱として位置づけて研修を深め、教職員の資質・能力向上を図っていきたいと考える。 ・今年度、教育委員会の教育アドバイザーに定期的に来校していただき、全教員が、年間で複数回授業を参観、指導をいただいた。そのなかで、１年間で授業力が向上した教員がいることをアドバイザーから言っていただけたのは成果である。	

２　改善方針

【確かな学力の定着】
基礎・基本的な「知識」「技能」の定着と、主体的に学習に取り組もうとする意欲と態度の育成を図る。そのために、効果的な少人数教育が実施して、一人ひとりにとって「分かる授業」づくりを行ったり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ったりする。
【ＩＣＴを活用した授業づくり】
ＩＣＴに関わる研修を継続的に行い、教員のＩＣＴ機器活用スキルを高め、タブレット端末を活用した学習活動の充実を図る。児童の情報活用能力を育成する。
【人権教育のさらなる推進】
今年度作成した「人権教育カリキュラム」をもとに、各学年の児童の実態も踏まえて、人権教育のさらなる推進を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　富田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	（１）基礎学力を定着させる ・基礎的・基本的な学力の定着のために、漢字習熟・計算習熟、朝学の取組を行った。学年配当漢字の９０％以上が書ける児童は、全校児童の９４％（２学期）となった。計算については、学年重点計算問題の習熟に取り組んでいるところである。 ・学調・みえスタディチェックで把握した間違いやすい問題について、下学年の学習時期を明らかにし、授業改善に努め、重点指導週間を設け間違いやすい問題について指導を行った。今後も継続的に繰り返し、指導改善を行っていく。 （２）家庭学習の習慣をつける ・復習に毎日取り組み、長期休業中を中心にタブレットを用いた家庭学習にも取り組んだ。読み書き計算などの学習の仕方が身につき、家庭学習に対し意欲的に取り組んでいる児童が多い。宿題を忘れてしまった児童には、声をかけ、みんながきちんと家庭学習できるように指導し、児童も粘り強く取り組んでいる。 （３）個に応じた指導を行う ・授業では、学習課題を把握しやすいよう導入で工夫をし、見通しを持って取り組めるようにしてきた。問題に取り組んで戸惑いが見られる時には、教師がアドバイスをすることで、粘り強く学習に取り組むことができた。 ・３年生以上での算数習熟度別少人数授業について、毎学期指導の検証を行い、授業改善を行った。児童アンケート（２学期）では「よくわかるようになった」児童の増加・「わかるようにならなかった」児童の減少という成果が見られている。	

重点目標２	心の教育の充実	3
主な方策 成果と課題	（１）規律を守って生活させる ・児童アンケート「学びのマナー（富田中学校区共通の学習ルール）を守っていますか」について肯定的回答100%から学習規律を守って楽しく学習しようとしている子どもたちであることが分かる。 ・廊下歩行については、見かけたときに指導を継続してきたが、まだ廊下を走っている児童が見られる。右側通行も定着していない。委員会等を活用し、児童から自主的な発信ができるような手立てが早急に必要である。 ・決まりをもとにした指導については、年度当初に共通理解の文書を提案することで共通理解を図った。何か課題があればその都度生活指導部で検討し、職員会議等で提案することで一貫した指導ができるようにしてきた。 （２）おもいやりの心を育てる ・代表委員会が毎朝の挨拶運動に取り組んだ。コミュニティスクール委員や外部講師等の方々からは、校内で子どもたちから進んで気持ちのよい挨拶をしてくれると好評価をいただいている。 ・年２回の教育相談、年３回のいじめ調査、４年生以上の年２回のＱＵ調査により各学級や児童の実態を把握し、その結果をなかまづくりや学級経営に役立てるとともに、学年間及び職員間で児童の情報を共有し対処した。 ・生徒指導に関わる問題が発生した際には、速やかに学年間で情報共有し対応するとともに、管理職へも報告し組織的に早期解決に向けた取組を進めた。 （３）よりよく生きる心を育てる ・読書については、毎学期、読書週間や家族読書に取り組んできた。学校では本に親しむ姿が多く見られるが、一方、家庭では読書をする時間がとりにくい様子が伺える。心の情操を養う観点においても、今後も保護者の協力を得ながら家族読書に取り組めるよう啓発をしていく必要がある。	

重点目標３	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	（１）運動に楽しむ態度を育てる コロナウイルス感染防止対策を講じながら、運動会をはじめ、かけ足や縄跳びの取組等を実施した。縄跳びの取組は今年度から異年齢交流を通じた実施方法に変更し、交流を通じて技術の伝達等縄跳び運動により親しむことができた。児童アンケート「体力向上のために、運動や体育に取り組んでいますか」では、肯定的回答が７割程度にとどまり、体力テストでも全国平均を下回った。全校での年間計画の策定や５分間運動の紹介等学校全体で体育の授業改善をおこなう必要がある。 （２）基本的な生活習慣をつける ・学校栄養職員を中心として、保健室前の掲示物作成や給食だより配付の取り組みを通して、食の大切さを伝える活動を実施することができた。 ・養護教諭を中心として、保健室前の掲示物作成や保健だより配付の取り組みを通して、継続的な保健指導を行うことができた。感染の予防、歯磨きや早寝早起きなどの学習も積極的に指導することができた。ゲームへの依存や早寝早起きなど、これからも改善すべき課題は残るため、家庭に向けた発信、児童への指導を継続していく。 ・保護者アンケート「早ね・早おき・朝ごはんを実践していますか」は、昨年度を上回る肯定的な結果となった。 （３）安全意識の向上を図る 今年度も計画的に、地震・津波・火災の避難訓練、職員訓練をおこなった。児童数が700名を超える規模となり、全児童・職員の安全を考えるとともに、本校は津波避難区域であることも踏まえ、児童捜索などより実際的な想定で取り組むことができた。	

重点目標４	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	（１）新学習指導要領に対応できる力量を高める ・教職員一人ひとりの授業力向上を目指し、年度当初に個人で今年度の研修計画と重点教科を設定するとともに、学年でも目指す子どもの姿を明確にした上で学年研修テーマを設定し、それに応じた取組や授業改善を進めた。授業改善の視点として、昨年度設定した「学年に応じた子ども姿を目指すための手立て」について年間を通して考察する中で、その学年に応じた手立てや、その学年の伸ばすべき力は何かを明確にすることができた。重点教科については個人設定としたが、重点教科・領域別のグループをつくることで、学年を超えて教材研究や指導案作りを行う教職員が増え授業改善への意識が向上した。 ・今年度も指導主事や教育アドバイザーを招いての授業研究を多く実施した。校内の教員だけでなく中学校区教員や指導主事等から多くの意見や助言をいただき、それを記録したり指導案の再案を考えたりする中で自身の授業を振り返るとともに、全教職員で学びを共有することにより、さらなる授業改善に生かすことができた。 （２）教職員の資質向上を図る ・教職員の資質向上の取組では、年４回の人権・同和教育推進研修会を実施し、教職員の人権感覚を養う取組を行った。また月１回ほど、ＯＪＴ研修を計画し主に若手の要望に応じた場を設定し実施することができた。 （３）保・幼・中との連携を強化する ・学びの一体化による連携として、１１月末に各学年１クラスの公開授業を行い、保幼小中それぞれの立場で意見交流を行った。また、人権フォーラムや乗り入れ授業などを実施し連携を図ることができた。	

重点目標５	組織的な指導体制の構築	3
主な方策 成果と課題	（１）個に応じた指導を行う ・個に応じた指導を行うために、3～6年生の算数科は、学年を習熟度別に６つのクラスに分け少人数授業を実施した。児童の能力に応じたクラス分けをすることで、それぞれの児童に適した指導ができ、学校全体として児童全員に学習内容を確実に身につける体制を作ることができた。 ・児童の学力向上を図るため、高学年において教科担任制を導入し授業をおこなってきた。教科指導の専門性を持った教師が指導を行うことで授業の質が向上し、複数の教師がかかわることで多面的な児童の捉えができ、よりきめ細やかな指導につながっている。 （２）子どもたちが安心して安全に過ごせるようにする ・校内特別支援委員会や不登校対策委員会を定期的に行い、児童の情報交換及び指導体制についての検討等を組織的に行ってきた。特に、通常学級籍において特別支援を要する児童の指導や、不登校傾向の児童への対応について、関係機関との連携を適切に行い学校全体で対応してきた。 （３）教職員が本来の任務に専念できる学校運営を行う ・従来の教育活動の意義について全職員で見直し改善を図るとともに、業務アシスタントを適切に活用し、任務に専念できる学校運営を進めることができた。	

重点目標６	家庭・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	（１）地域とつながる活動を推進する ・地域の伝統行事である「くじら船」の学習をはじめ、伝統文化の学習やクラブ活動などの活動において、地域の方を招き有意義な学習活動を行った。 （２）積極的な情報発信・受信を行う ・学校の様子をより多くの方に知って頂くために「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等を活用してより多くの情報を発信している。一方で、個人情報保護については全職員の共通理解のもと、十分配慮している。 （３）コミュニティ・スクールの取組を発展させる ・地域の「ひと、もの、こと」との出会いを大切にする活動を推進するため、学年ごとに活動を計画し、ゲストティーチャーを招いたり、地域に出て見学したり話を聞いたりして学習を進めた。学んだことを掲示物にまとめて全学年に発信したり、発表会を開き他学年に発信したりする学習もおこなった。地域の方の話に興味を持ち、さらに深めていこうと意欲を示す様子が見られた。 ・コロナ禍を経験し、地域とのつながりを今後も大切にしていくために、新たな取り組みの形を工夫しながら、家庭・地域と学校との連携をさらに進めてく必要がある。	

２　改善方針

【学校教育力の向上に向けて】
・コロナ禍が続き、子どもたちの体力の低下、コミュニケーション能力の低下、保護者間での人間関係の希薄さが浮き彫りになってきている。また、学級担任のほぼ半数が教職経験6年未満教員であることからの若手教員育成という課題もある。
・ＰＴＡの自治能力の高さ、鯨船保存会の取組を中心とした地域資源の豊富さ、コミュニティスクール等地域教育力の高さを活かした「家庭・地域との連携」に来年度も力を入れていく。
【学力向上に向けて】
・今年度までの算数少人数授業の効果的な指導体制についての成果と課題を明らかにし、来年度学年習熟度別少人数授業を円滑に実施できる方法を探る。一人でも多くの子どもが「授業がわかる、楽しい」と実感できることを目標に、学習規律の徹底、なかまづくり、全国学力学習状況調査・みえスタディチェックの活用、ＩＣＴ活用等教員一人ひとりの授業力向上をめざす。
・家族読書に課題がみられるため、学校での読書活動の取組を積極的に保護者に発信し年2回の読書週間での家族読書啓発を実施する。
【体力向上に向けて】
・体力向上につながる授業づくりを目指すために、健康安全部が中心となって体力テストへの全学年での系統的な取組、基本的な生活習慣を始めとする健康教育と食育、運動に親しむことができる環境づくりに力を入れていく。
・運動会、かけ足の取組等の学校行事において、子どもたちが主体的に運動に親しむことができるよう、取組について検討を行う。
【組織的な指導体制の構築に向けて】
・高学年において教科担任制の運用を進め、学校全体で効果的な指導体制を整えていく。
・学年主任、指導部長、教務による学校運営への積極的な参画をめざす。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　日永小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成 （主体的に粘り強く学習に取組み、心豊かに学ぶ子の育成）	3
主な方策 成果と課題	基礎学力の定着を目的に、毎日１０分間の朝学習時間を確保した。また、自ら学ぶ力をつけるため、共通の宿題に加え児童が自身で課題設定をして取り組む家庭学習（プラスワン）を実施した。プラスワンにおいては、グッドモデルを掲示等で紹介し、学習方法を児童同士が参考にできる場を作り、学習意欲の向上を図った。授業の中では、発表やグループ活動の時間など、お互いの意見を聞き合う機会を設けた。さらにICT機器を活用することで、子どもたちが考えを共有しやすくなった。 外国語活動においては、専科教員と担任がＴＴで授業にあたるとともに、ＨＥＦや中学校英語教諭の乗入指導も活用し、コミュニケーション力育成を図った。 学習に集中できる環境づくりの一環として、授業開始チャイム時の着席、学習用具の準備を徹底する取組を続けている。	

重点目標２	豊かな人間性、健康な心と体の育成（いじめや差別を許さず多様性を尊重して共に育つ子・きまりを守り場に応じた行動ができる子・命と健康を大切にし運動を楽しむ子　の育成）	3
主な方策 成果と課題	各学年での情報共有をはじめ、週に一回の学校全体での情報共有や管理職との連絡・相談を行ったり、いつでも支援ができる体制を整えたりすることなどを通して、学校として組織的に対応する指導体制を構築している。 また、人権教育カリキュラムのもと学校全体で人権教育を進めている。地域や家庭も含めて、連携をして取り組みを進めていきたい。 体育の授業で体を動かす時間を多く確保したことで、体を動かす楽しさを知り、児童が主体となって外遊びする時間が多くなった。体育の専門的知識・実践力のある教職員を中心に研修会を開き、児童が達成感を感じられる授業の進め方の検討を行った。 心身のバランスが取れた成長を意識できる児童が増えてきている一方、生活リズムが不規則で、頻繁に遅刻するなど基本的生活習慣が身についていない児童が少なからずいる。	

重点目標３	よりよい未来をつくる力（未来の姿や新たな目標・課題解決に向かって前向きに行動する子の育成）	3
主な方策 成果と課題	本校では、児童が直接、事物や人とかかわりながら問題を探り、解決していく問題解決型の学習を大切にしている。そこで、地域の自然や歴史を学習素材として取りあげると同時に地域の人とかかわる機会を積極的に設け、児童が興味・関心を持てる探究活動を進めてきた。具体的には、総合的な学習で「日永つんつくおどり保存会」、「見守りボランティア」の方々からの聞き取り、近隣の高等学校主催の「ものづくり体験【本年度は学年閉鎖により中止】」などを進めた。このほかにも、本校保護者らで組織された、読書支援サークルによる読み聞かせ、異学年との交流および児童が主体となって取り組む児童会行事を実施した。 成果として、どの学年でも年度初めにカリキュラムマネジメントに取組み、六年間を見通した系統的計画的に学習を行うことができた。近年、コロナ禍で学習の内容を吟味縮小する活動があるので、よりいっそう、「つけたい力」「学習のねらい」を明確にしたうえで、学習内容を進化させていく必要がある。	

重点目標４	子どもの能力を伸ばす教育の育成	4
主な方策 成果と課題	「３つの読みを通して文学的な文章を読み味わい、論理的に自分の考えを伝える子どもの育成」を研修主題として、国語科を中心に授業研究を進めた。校内研修を充実させるため、三重大学より守田教授を招聘し、指導・助言を受ける機会を設け、授業改善と教職員の資質の向上に努めた。研修の成果として、文中から根拠となる必要な情報を集め、わかりやすく論理的で説得力のある文章が書ける児童が増えてきている。また、校内研修を通し、学年に応じた系統的指導内容を構築できている。 また、日本語指導が必要な児童生徒の現状と課題や、学習におけるその支援のあり方と授業づくりについての理解を深めることを目的に、外部講師を招いて研修を行った。在籍学級や国際教室での支援について、具体的な事例、演習をもとに学ぶことができ、理解を深めることができた。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	生徒指導体制の充実の取り組みとして、週1回の児童の情報交換の場に加え、不登校対策委員会を定例化し、情報共有と迅速な対応を行った。 研修主題の副題を「学び合う授業づくりを通して」として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んだ。担任は１人１回の授業提案を行い、授業改善を推進した。 業務改善については、定時退校日の設定や校務の電子化、業務アシスタントの活用を通して、業務時間の削減を行い、その分を子どもと向き合う時間や心のゆとりを確保に努めた。 コミュニティスクール運営協議会を年5回開催し、9名の委員の方に授業の様子を見てもらったり、学校運営や教育活動に対する意見を伺ったりして、今後の学校運営の改善点とした。 成果としては、今年度の学校評価アンケートにおいて、「日永小学校の教育について満足している。」の項目では、９７%の保護者の方が肯定的な評価となっていることである。	

２　改善方針

○児童が「わかりやすさ」「楽しさ」「達成感」を感じられるように、実態を丁寧に把握したうえで、つけたい力を明確にした授業改善に取り組む。 ○児童が人権課題を身の回りの出来事とつなげ、自分事として考えられる人権学習を進めることで、人権を尊重する態度を伸ばす。 ○家庭への啓発を進めるとともに、保健学習、食の学習を充実させ、児童が自らよりよい習慣とリズムで生活しようとする実践力を養っていく。 ○授業研修と教職員同士の授業実践交流を積極的に進め、ベテラン、中堅、若手が共に学び合うことで、教職員の資質、授業力の向上を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　四郷小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、読解力・問題解決能力を育む 〇朝の学習や家庭学習など、読解力向上に係る取組を積極的に取り入れた。 〇漢字の学習などの基本的な内容については、子どもたちの日々のがんばりを繰り返しテストをして確かめることで理解が深まった。 〇「ミライシード」や「こにゅうどうくん学びの部屋」などの学習支援コンテンツを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。 〇国語科を中心にして各教科で新聞教材や作文に取り組み、書く力を高めた。 〇朝読、スピーチ活動、英語によるスピーチなど、言語活動の充実に努めた。 ●読書に親しむ取組等を進めているが、語彙力が付いていかない。 ●考えや思いを書くことができても、積極的に発表することができない子がいる。 ●プログラミング教材を十分に活用できなかった。 ●家庭学習の習慣がついていない子、外国にルーツを持つ子への効果的な指導などが今後の課題である。	

重点目標２	心と体の健全な育成	3
主な方策 成果と課題	自他を大切にするとともに、心と体の健康を意識し実践できる子どもを育む 〇児童会等が中心になってあいさつ運動に取り組んだことによって、およそ９割は子どもは意識して行動できていた。 〇日々の学校生活の中で、相手に合わせた声かけなど、自分とは違う他者を考えた行動が増えてきた。 〇定期的な情報交換や登下校の指導等によって、子どもたちの規範意識は育ってきた。 〇５分間走では、めあてを作り記録を残すことで体力を高めようと走る姿が多く見られた。 〇食育の授業によって、朝ご飯への意識付けができた。 ●差別の実態を学年の実態に合わせて指導し、意識付けはできたが、実際の行動に変えていくことは課題が残る。 ●いじめ標語に取り組み、いじめについて考える機会を持つことができた。 ●手洗いキャンペーンによって、一定の意識付けはできた。今後は、学年が上がるにつれ手を洗う子どもが減る実態を改善することが課題である。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	夢や志の実現に向け、学ぶ意欲・コミュニケーション能力を育む 〇キャリアパスポートを活用し、組織的・系統的なキャリア教育に取り組んだ。 〇コロナ禍においてもゲストティーチャー（萬古焼、助産師等）を活用できた。 〇各学年の実態に合わせて、ＳＤＧｓに関連する環境教育に取り組めた。 〇避難訓練では、緊張感に欠ける様子を見られたが、毎学期訓練していることによって、抜き打ち訓練をしても自身で判断し行動できるようになっている。 〇交通ボランティアさんの講演会や日々の指導によって、道路を横断する際に周りを確かめて渡る子どもが増えた。	

重点目標４	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	一人ひとりの子どもの特性や能力に応じた、適切な指導・支援を行う 〇教務を中心に校内支援体制を構築し、全教職員で協力して対応できた。サポートルームも計画的に活用できた。 〇ＳＣ、ＳＳＷに特別支援委員会に出席してもらい、専門的な視点から指導助言をもらい、日々の指導にいかすことができた。 〇西日野にじ学園との交流について、コロナ禍ということで対面での交流ができなかったが、掲示物の交換や動画などを通した交流は実施できた。また、３年生は居住校交流をオンラインで行った。 〇「相談支援ファイル」の研修を行い、書き方や活用の仕方について共通理解できた。 〇日本語指導が必要な児童を対象とした日本語指導教室「いっぽ」を開設し、日本語能力の合わせた取り出し指導を行った。 ●個別指導やクールダウンに活用できる教室が足りない。また、よりきめ細やかな対応をするための人員が必要である。	

重点目標５	家庭・地域との連絡・協働	4
主な方策 成果と課題	学校・家庭・地域が連携・協働し「地域とともにある学校」づくりを進める 〇ホームページ、通信、学校公開などを通じて、学校の指導方針、子どもたちの学習の様子や成長した姿を保護者等に発信することができた。 〇コミュニティースクール（くろがねもち協議会）の活動を充実させ、学校や地域の課題等について共有するとともに、改善方法等について協議することができた。 〇交通安全・図書・学習・クラブボランティアを活用し、教育活動の充実につなげた。 〇児童・保護者アンケートを分析し、教育活動の改善にいかした。 ●働き方改革の推進を目指し、定時退校日の設定など様々な取り組みを進めたが、教職員の時間外労働については、さらに減少させていく必要がある。	

重点目標６	教職員の資質・能力の向上	4
主な方策 成果と課題	子どもたちの生きる力・共に生きる力を育むため、教師力の向上を図る 〇「主体的・対話的で深い学び」の授業を目指し、校内の研究授業や中学校区（学びの一体化）における提案授業など、全教員が自分の授業を公開し、指導主事や同僚等から指導・助言を受けた。 〇笹川中学校区において、問題解決能力の育成といった「学習の基盤となる力」を意識して系統的に取り組んでいる。今年度は、本校の授業を公開することで中学校区で目指す子どもの姿を確認したり、指導の在り方を確認したりすることができた。 〇タブレットの効果的な活用を目指し、自主的に学び合うミニ研を複数回実施し、指導力向上に努めた。 〇仲間づくりレポートを書き、子どもの見方や指導の在り方について学び合った。 〇三泗小中学校教育研究協議会に参加し、学んだことを学校に還流するようにした。 ●日々の授業において、互いに見合うことが時間的に難しい。	

２　改善方針

令和４年度は、第４次四日市市学校教育ビジョンを踏まえて、学校づくりビジョンを改訂した。これからの社会を生き抜いていく子どもたちが、自分の良さや可能性を伸ばしながら、多様な人々と共に変化を乗り越え、豊かで充実した人生を送れる基盤を築く資質・能力を育てることができるように、学校づくりビジョンに示す６つの取組を推進してきた。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策によって、通常通りの方法で行事が実施できなかったり、日々の授業において制限がかかったりするなど難しさを感じる場面はあったが、今できる範囲で工夫して取り組み、地域やＰＴＡ、外部協力者の方々などの力を借りながら教育活動を進め、子どもたちの資質・能力の育成に努めてきた。令和５年度においても、本学校づくりビジョンを継承していく。

令和５年度は、感染症対策が緩和されることが想定できる。１日の中で最も長い時間である「授業」を充実させることで、子どもたちの自らの夢や志の実現に向け、ひたむきに歩む姿を育てていく。

また、令和５年度は、四日市市人権・同和研究大会の提案を控えている。この提案を機に、教職員の人権意識の向上につなげ、一人一人が大切にされる学級・学校づくりを目指す。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　高花平小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	○論理的思考力の育成を目指す研修をして思考スキルを意識して授業作りに取り組むことができた。 ○スタディタイムとして朝や昼の帯時間帯を利用して基礎学力の定着を図ることができた。 ●教員の人員が足りず、ＴＴや少人数学習を実施する体制を十分に整えることができなかった。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	○道徳や人権の年間計画に沿って学習を進めてきたことで、道徳的価値を理解して生活に生かす姿が見られた。 ○「あいさつ」と「黙働清掃」に力を入れて指導を行った結果、昨年に引き続き、しっかりとした「あいさつ」「黙働清掃」ができた。 ○図書館司書に学習に関連した本の紹介や準備をしてもらったことで、読書活動の充実につながった。 ○学校職員で協力して複数体制をとって、児童の様子に目を配り、いじめ野崎未然防止に努め、早期発見できるよう指導を続けてきた。 ○校舎改築による工事関係者や通学路の安全に関わっていただく地域の方等、様々な人たちにと接する機会が多くあり、子どもたち自ら感謝の気持ちを伝える場面が多くみられた。 ○毎週金曜日に図書館司書の来校時に低学年の図書の時間を割り当てることで、図書室の使い方を指導してもらったり、学習や季節に関連した本の紹介や準備をしてもらったり、図書室だけでなく教室まで読み聞かせに来てもらったりすることで、読書活動の充実につながった。 ●いじめの早期発見、早期解決に向け、全職員での情報交換の場を設けたり、全職員での見守り体制を行なったりしてきたことで、いじめを見逃さない意識は教職員も児童も高まってはきている。継続していくことが大切であり、更に研修部と協力しなかまづくりの研修も深めていけるとよい。	

重点目標３	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	＜体育科授業の充実＞ ○体育科授業の充実を図るため、学年部間の教師を中心に、授業についての交流を行った。 ○運動の領域によっては、５分間運動の実施がなされるようになってきた。 ●５分間運動の取組が徹底できていない部分がある。 ＜運動の日常化の推進＞ ○２０分休みに教師が率先して外に出ることで、子どもたち外遊びを促しており、多くの子どもたちが外遊びしている。 ○体育的行事の実施と関連させ、休み時間にも取り組む姿が見られるようになった。 ＜体育的行事の工夫＞ ○地域と連携を図り、運動場の代わりとなるスペースを確保し、体育的行事の実施に努めた。 ＜食育・保健指導及び生活リズムチェック指導を活かした生活指導の推進＞ ○食育に関して小山田小の栄養教諭と本校の担当教員が連携を取り、計画的に実施をした。 ○保健指導に関して、子どもたちの発達や状況等に応じて、必要な保健指導を計画的に実施した。 ○保健室前の掲示物を定期的に更新することで、子どもたちの保健意識の高まりにつながった。	

重点目標４	家庭・地域との協働	4
主な方策 成果と課題	〇コロナ禍による学校行事の変更が今年度もあり、保護者の方々に子どもたちの様子を存分に見てもらう機会が少なかった。今年度もオンラインを活用して６年生を送る会を公開するとともに、ホームページをほぼ毎日更新した。日々の学校の様子を発信することにより、保護者や地域の要望につなげることができた。 〇コミュニティスクールを年５回（臨時含）開催した。授業や子どもの様子をみていただいた感想や意見をもとに教育活動の改善に活かした。また、今年度も引き続き地域人材の発掘に取り組み、３年生の学習に１０名程の地域先生に来ていただいた。 〇合同防災訓練に向けて、地域の方々と話し合いを進める等、連携が強化され、充実した学習を行うことができた。 ●家庭学習習慣の定着に向けて学年に応じた取り組みを進めた。昨年に引き続いた家庭学習の習慣がついてきたと感じる面も見られるが、今後も更に向上するよう強く取り組む必要がある。	

重点目標５	教職員の協働	4
主な方策 成果と課題	〇秋からほぼ毎日の打合せを行うこととしてきた。その中では、打合せ事項だけでなく、子どもたちに関する情報共有も行い効果的な打合せとなった。 〇別室登校児童や支援が必要な学級に対して、全職員でシフトを組む体制をつくるなど、組織的に対応することができた。また、いじめ根絶に向けた学級づくりも生活指導部が中心となって取り組んだ。 〇安心して過ごせる学校を目指して、細かい生活規律を見直し、徹底した指導を行った。これにより子どもたちが落ち着いて学校生活を送る様子がどの学級でも見られるようになってきた。 ●年度当初と比べると全職員で情報共有することが向上されてきたが、まだ課題が残る。非常勤講師の方々にも情報がきちんと伝わることができる環境整備を進めたい。	

２　改善方針

＜確かな学力の定着について＞
　校内研修に進んで取り組むことで主体的に学ぶ児童を育てる。更に児童の学力定着が結果として現れるよう検証を行っていく。
＜豊かな人間性の育成＞
　児童の日常の様子に目を配り、困っていることや悩んでいることをよく聞いて、解決に向かうようにする。
＜健康・体力の向上＞
　限られた環境、設備で善処する。
＜家庭・地域との協働＞
　家庭学習の定着に向けた児童への指導内容や保護者への働きかけ方について、職員間で共有していく。
＜教職員の協働＞
　情報の共有が徹底できるような環境整備を整えるとともに、会議や委員会の内容を精選していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　常磐小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	「読書」【児童アンケート結果68.3%】〇クラスの子どもたちの興味関心に合わせた担任教師による選書、おすすめの本紹介を行うなど各教室の読書環境を整えることで、空いた時間に読書に親しむ機会を増やした。また、図書まつりの取り組みや図書ボランティアによる読み聞かせなどを通して、読書に触れることで図書室に足を運ぶ児童が増やす取り組みを行った。コロナ禍で制限されてきた図書委員の活動を活発に行い、図書館司書や図書ボランティアなどの積極的な活用、図書館まつりの拡大を検討したい。▲高学年では、質問に対し否定的な回答（D回答）が20%程度となっている。高学年になると、空いた時間には読書以外にもタブレット端末を活用している児童が多く見られるためである。継続的な読書指導が必要である。 「家庭学習」【児童アンケート結果82.9%】〇保護者の自由記述では、「だんだん難しくなっていくので大丈夫か心配」「字が乱れがち」「宿題の目的やねらいなどが共有できたらいい」と家庭学習に関心が高いことが分かる。タブレットや学びノートなど、家庭学習にどう関わっていけばいいのかという保護者の不安を取り除けるよう、家庭学習の内容や取り組み方法について情報を共有したい。学びノートやタブレット端末を活用した家庭学習には継続的に取り組み、学習習慣の定着をめざす。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	〇系統的な年間指導計画を基に、体力の向上のための授業実践を行うことができた。教師間での学び合いも積極的に行い、授業改善に努めてきた。１人に１台タブレットが導入されたことにより、休み時間にタブレットで学習を行う児童が増えたが、外で体を動かすことも大切にしてほしいと考え、２０分休みはタブレットの使用を控え外での遊びを推進してきた。２０分休みには担任が子どもたちとともに運動場で体を動かす姿も見られ、外で遊ぶことの促進につながったと考えらえる。体育科の授業ではICT機器を活用し、児童の参加意欲を上げたり、運動技能の向上や学びの場づくりに活かしたりすることができた。また、業間なわとびなど、全校的な取り組みにより、学級単位で外に出て体を動かす機会が持てた。今後も継続して体力の向上に関する取り組みを進めていきたい。 〇1日に1回以上のはみがきができるよう、「歯みがきチャレンジ週間」に取り組み、家庭での歯みがきについての啓発につながっている。う歯の保有率は年々減少傾向にある。早ね早起きチャレンジ週間の取り組みと共に、生活習慣アンケートをとっている。視力検査での視力低下の児童の増加が著しく、タブレット、ゲーム機などの使用時の姿勢や目の健康についても、生活習慣アンケートもふまえ、今後ほけんだより等で児童の実態や家庭での過ごし方を発信していきたい。 〇食育は各学年の教科と関連付けたものを多く行った。そのため、食育の授業では既習の学習を生かしたり、これからの学習の意欲につなげたりすることができた。今後も「食べるものが体を作る」ということを意識させる食育や自分の食べ方を振り返り、工夫できる知恵をつけるような内容を積み重ねる必要がある。さらに給食委員会の活動も見直し、片付け方や残菜減らしの活動をする際、ＩＣＴを活用するなどして今後も工夫していきたい。 〇今年度は、受診を必要とするけが等が２０件（R4年度４月から12月末まで）であったが、昨年とほぼ変わらず、この数年減少傾向である。今年度は、保健室の来室が１７６８人（R4年度4月から12月末まで）となり、昨年度の１４５５人（R4年度4月から12月末まで）から増加がみられた。不安を抱えている心のケアや教室での日々の取り組みについて、今後も継続して教職員で話し合っていきたい。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	〇地震や火災、交通安全、不審者対応、緊急避難下校など様々な場面を想定した訓練や安全指導を通して、子どもたちの安全に対する意識を高めてきた。保護者に対して行った学校の安全に対する意識調査について、肯定的な認識が９０％を超えていた。コロナ禍の影響で、津波訓練は学年で行うなど、訓練の縮小も余儀なくされた中でも、子どもたちの安全に対する意識を高められるよう、絵本・映像・防犯ノートを活用しながら防災に関する教育を実施できた。 〇コミニティースクール会議において、保護者アンケートの実施・結果の分析を行い、多くの意見を得られることができた。そして、それらの意見をその後の教育活動に取り入れることができた。 〇学校だより・ホームページによる発信を充実させることができた。コロナ禍において、授業参観・個別懇談会・運動会などの学校行事について、保護者来校の方法を新たに設定し協力を仰いだ。それぞれの参加方法に賛同を得て、保護者との連携を図ることができた。 「学校は、教育活動の様子や情報をわかりやすく伝えていますか」【保護者アンケート結果89.9%】 「全体的に見て学校の教育活動に満足していますか」【保護者アンケート結果94.0%】	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	3
主な方策 成果と課題	〇６年生、５年生では、社会・理科・音楽・家庭・図工・書写・英語について、それぞれ担当する教師（専科や担任）がおり、一部教科担任制を行ってきた。「学年の子どもたちは、学年の先生で見ていく」という共通理解が進み、日々の情報交換を大切に進めてきた。学習面だけでなく、生活面等の情報交換も行い、子どもたちの学習面での課題や問題行動等に対して学年で取り組むことができるようになった。 〇特支CoやSC等が中心となり、校内のカウンセリングの充実を図ることができた。職員間での情報共有を定期的に行い、問題の早期発見・早期対応に役立てることができた。 〇継続的に支援や見守りを必要とする児童が年々増加している。関わった職員や外部機関の対応記録を次なる問題の未然防止に役立てていく。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	研究主題　学び合う授業の創造　～主体的・対話的に学ぶ子どもの育成～ ・個人目標を設定し、年間１回以上の提案授業 ・公開週間　６月と１１月 ・リクエスト研修を行い、主体的に学ぶ機会の設定 〇リクエスト研修の実施回数が増え定期的に開催できた。担当者以外の職員も講師になるなどして、主体的に研修に取り組むことができた。 〇コロナ禍でも、全体研を行うことができ、学びの機会を保障することができた。 〇つけたい力や目指すゴールをはっきりさせて授業をデザインし、系統性を捉えた課題設定を行うことの重要性を共有できたが、授業づくりの視点をしぼって学び合えるような研修体制を築くことが必要であった。 〇聴き合う関係や挑戦したくなる課題とはどういったものなのかを、全体でイメージが共有できるよう、研修委員中心でもっと取り組みを進めていく必要があった。	

２　改善方針

重点目標１　確かな学力の定着
　①独自の取り組みCRT検査や「みえスタディチェック」等の分析結果をもとにして、学習意欲を高める環境整備や授業改善に取り組み、課題の克服に向けた学習の充実を図る。
　②家庭との連携を進め、主体的な家庭学習の取り組みの習慣化や、充実した読書活動による読書力の向上を目指す。
重点目標２　こころとからだの健全な育成
　①人権教育・道徳教育の充実を図るとともに、深い児童理解に基づいた「なかまづくり」を推進していく。
　②体力向上につなげるため、体育科の授業改善による質の向上、休み時間を活用した運動量の確保に取り組む。
　③健康教育・食育の推進をしていく。
重点目標３　よりよい未来社会を創造する力の育成
　①社会性を身に付け、正しい判断力・責任感を育てる。
　②自分からすすんであいさつができる子、「さしすせそ清掃」を意識し働き続けられる子を育てる。また個々のよさが発揮できる場づくりと子どもが認め合える場づくりを進める。
　③安全意識の向上を目指し、必要性を理解し自ら行動できるよう、日常的な指導を継続するとともに、教職員の危機管理意識を高めるための研修に取り組む。
重点目標４　全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現
　①学びを支える指導体制の充実を図る。
　②特別支援教育の充実を図る。
　③「チーム学校」による支援の推進
重点目標５　学校教育力の向上
　①自身の授業公開や同僚の授業参観を積極的に行い、自らの授業実践に取り入れる。
　②研修会に参加し、学んだことを還流報告する。
　③学校運営協議会（コミニティスクール）を要として、学校と保護者・地域をつなぐ方策を検討していく。また、保護者や地域との連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実をはかる。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　内部小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	考える力の育成　～学び合う授業づくり～	3
主な方策 成果と課題	本年度も「子どもの気づきをつなぐ授業づくり」を研修テーマとし、力点を「ゴールの姿からさかのぼって考えるプロセス２の追求」として、子どもたちにつけたい力を具体的なゴールの姿として考え、そこを出発点としてプロセス２の教師の手立てについて考えてきた。 子どもたちの自力解決の土台をどこまでそろえると、気づきが生まれ、さまたげとならないのかと考えることができた。また、子どもたちが互いに学び合う課題づくりについても引き続き深めることができた。 ミニ研としてＩＣＴ関連、表現運動、音楽編集など、教師のスキルアップを図ることができた。	

重点目標２	人とつながる力の育成　ともに生きる仲間づくり	3
主な方策 成果と課題	生活指導の重点として「あいさつ」を進んで行う態度の育成があるが、学校アンケートの結果では、児童９０％、保護者９２％と高い肯定回答が得られた。また、「読書環境の充実」については、なのはな文庫の利用、学期１回読書週間の実施（おはなしｍａｍの読み聞かせ、図書委員会の活動など）を通して読書に親しむ児童の様子を多く見ることができた。 お互いに認め合える学級・学年集団づくりを進めてきたことで、学校アンケートの結果では、「自分のことを大切にしている」と児童の９０％が回答している。仲間づくりの研修会や打合せなどの情報共有を通じて児童の様子を共通理解し、今後も個の尊重、集団力の向上を図る取り組みを行っていく。	

重点目標３	健康で安全な生活をつくる力の育成　～健康なからだづくり～	3
主な方策 成果と課題	体育科の年間計画を作成し、系統性を踏まえた指導を進めてきた。これまでコロナ禍でできなかった活動の見直しを行い、少しずつ取り組みを行ってきた。今後も実情に合わせて工夫していく必要がある。 衛生に関しては、保健委員会が主体となって全校児童の手洗いを推進し、児童の意識を高めた。 学校栄養職員と養護が連携することで食育の学習が充実した。また、家庭の協力もあり、７９％の児童が給食を残さずに食べている。来年度以降も家庭と協力していく必要がある。	

重点目標４	家庭・地域とともに歩む学校	3
主な方策 成果と課題	学びの一体化の取り組みについては、今年度は公開授業を実施することができ、実際の児童の姿を通して研修することの値打ちを改めて感じることができた。 内部中学校ブラスバンド部が本校に来て行った内部っ子コンサートは３部制という形ではあったが、迫力があり、魅力的な音楽を児童が親しむ貴重な機会となった。 人権フォーラムはZoomを利用した形態で実施し、コロナ禍の制限の中、できる限りの活動を行うことができた。 保幼小中で交流ができる有意義な取り組みのため、今後も継続していきたい。	

２　改善方針

・コロナ禍においても少しずつ実施できる学校行事などが増えてきたことは児童にとってよかった。コロナ禍で精選してきた教育活動については、学力保障を図るとともに、児童にとって意義のある学習内容であるかの観点で検証し、形態を変えたり別の教育活動に変えたりして来年度以降も取り組みを進めていきたい。
・ICT機器やタブレットの活用については教師・児童が使いこなせるように整備されているが、引き続き教師間のスキル差が広がらないように計画的に研修を進めていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　小山田小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	めざす子どもの姿①　夢と志を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	○年度はじめより、授業の中での意見交流を行い、自分と違う意見も受け入れる土台づくりを行ってきた。また特別活動や道徳の授業でも、互いの良さに気付けるような取り組みを行っている。めあてをもって行事に取り組ませることで、達成感や充実感を感じる児童の姿がみられた。行事が終わった後、苦手なことにも挑戦しようと他の場面において意欲的に活動する児童も少なくない。多様な相手と協力する機会を設定することで、自分と違う意見も受け入れられる児童が増えてきている。今後、学校として系統性のある取り組みとしていくために、カリキュラムマネジメントを行い、さらに効果を高めていきたい。 ○高学年では、自然教室や修学旅行などの行事で、目標を設定しそれぞれがリーダーとして役割を果たすように取り組んだ。グループのメンバーと協力しながら責任をもって活動する経験をすることができた。また児童会活動では、学校生活の課題から子どもたちが取り組み内容を考えることで、主体的な活動とすることができた。 ○中学年では、社会科や総合的な学習の時間に「地域の安心・安全を守る」ための地域の仕組みについて学習した。消防団、消防で働く人々、駐在所で働く警察官、青山里会の方々などをゲストティーチャーとして招聘し、仕事の内容や仕事への思いに触れる経験をさせた。低学年では、3学期に「むかしのあそびの会」として、老人会の方々にけんだまやこままわしなどを指導・支援していただいた。他にも、サツマイモの栽培、米作りや、しめ縄づくりなど、地域の方に協力していただきながら、「小山田ならでは」の貴重な体験をすることができた。地域に関わる学習や体験地域の方との交流を通して、今後もふるさとに対する愛着心を育成したい。	

重点目標２	めざす子どもの姿②　確かな学力を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	○様々な教科で学習の振り返りを行うことで、子どもたちの学習への理解を深めることができた。タブレットを活用し、互いの学びをタイムリーに見合うことで、多様な考えやまとめ方に触れ、自分の学びに活かすことができるようになってきている。算数等では、習熟度別少人数授業や複数の教員による授業で個別指導を充実させ、基礎学力の定着を図ってきた。朝の学習「あさかぜタイム」や家庭学習で漢字、計算等をドリルパークなども活用し、継続的に取組み、基礎学力が少しずつ向上してきている。また習熟度に応じて宿題を調整し、家庭学習が習慣化するよう指導・支援している。サポートルームでの指導や支援員の配置など、児童の個性に合ったきめこまやかな指導を行い、学習への意欲向上とともに、文章の読み取りや漢字の習熟などの力をつけた児童もいる。 ○学年ごとに市内小規模校とのオンラインや直接交流する機会をもった。教科の学習を共に行うことで、子どもが多様な考えにふれるよい機会とすることができた。また交流内容を児童が考えることは、自分たちの地域や学校のよさを客観的に捉え直すことにもつながっている。 ○読書指導については、図書委員による読書啓発の取り組みや図書ボランテイア・ＰＴＡ役員による「あさかぜタイム」での読み聞かせなど、子どもたちが読書の幅を広げられるような取り組みを行ってきた。低学年では、毎週図書の時間に図書館司書の先生の読み聞かせを行ってもらっている。読み聞かせをしてもらうことで、自分では選ばないようなお話の世界に触れることができた。ただ中学年頃から、自分で本を読むことを苦手だと感じる子が増えてくる実態がみえてきた。一人ひとりの児童の読書傾向を把握し、図書館まつりなどの取組について今一度見直し、適切な手立てを行っていきたい。	

重点目標３	めざす子どもの姿③　健康な心と身体を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	○授業での運動量の確保や体力トレーニングのために、体育の授業で５分間運動を継続してきた。体幹を鍛えるメニューを継続したことで、４月当初に比べると身体のバランスを上手くとれるようになってきている。運動量が減る冬の業間には、かけ足やなわとびなどの業間活動に全校で取り組んだ。かけ足では、子どもが楽しみながら取り組めるようカードを工夫した。持久走が苦手な子にもめあてをもたせることで、時間いっぱい走り続けることができた。中には休み時間にも進んでかけ足に取り組む児童も見られた。 ○体育の授業でふりかえりを行うことで、自分の課題について、友だちと話し合い解決しようと運動に取り組む姿がみられるようになった。様々な運動のおもしろさを感じさせ「運動が大好き」と思える子どもが増えるように、継続して取り組みを行っていきたい。 ○保健指導では、生活習慣や心の健康、正しい食生活について授業を行った。日常生活を整えることが自分の将来につながっていくことを、栄養教諭、養護教諭が中心となり継続指導を行うことで、改善につなげることができた。食育についても、給食以外の食育を意識した取り組みを行っていく。 ○家庭での問題や友達関係での悩みをもつ児童については、保護者と連絡を密にしながら、SC、SSWとも連携し、担任だけでなく、学校の全職員で見守り、対応していきたい。	

２　改善方針

○学年、単元でつけたい力を明確にして、子ども自身がめあてをもち多様な方法で解決できるような授業づくりが大切である。授業で自分の考えを表現することや解決方法を身に着けられるように、実態に応じて指導・支援していく。 ○学習効果が大きい習熟度別少人数授業やTT指導を行い、児童の学力向上に努めてきた。児童・保護者のアンケート結果では、学習に取り組む姿勢について、昨年度より肯定的な意見が増えた。来年度も引き続き個に応じた教育を行えるよう工夫をしていく。 ○「家庭学習の習慣化」について、保護者アンケートでは肯定的な意見が昨年度より５％上がった。引き続き、宿題の内容や出し方を工夫するとともに、自ら進んで学ぶ習慣を身に着けるよう保護者にも働きかけながら取り組んでいく。一人ひとりに応じた学習を保障するために、人数の多い学年や、外国人児童に対する指導のために複数で関われるよう日課など工夫をしていきたい。 ○Q-U、いじめ調査、教育相談等を生かし、全職員で子どもたち一人ひとりにしっかりと向き合ってい。一人ひとり居場所があり、自分らしさをいかして活躍できる学校となるよう、異学年との縦割り班活動を活用していく。 ○保護者アンケートでは、多くの項目で昨年度を上回る評価をいただいた。今後も学校公開やHP、たよりを活用し、教育活動や指導について情報発信し、保護者・地域の期待に応えられるよう学校運営に努めたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　河原田小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ○　読書活動の充実 ・国語の授業、朝の読書、読書週間等を利用し、読書の習慣化を図る。 ○　ＩＣＴを活用した授業づくり ・効果的なタブレット・プロジェクターセット等の活用を図る。 【成果と課題】 ・月に一度、学級文庫を入れ替えることで、子どもたちの読書環境が整い、休み時間等に読書を進んで行う児童が増えた。 ・タブレットの効果的な活用について意識し、授業づくりに努めることができた。 ・児童の読み・書き・計算の力が弱いので、向上する取り組みを継続的に行う必要がある。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ○　他者をおもいやる心の育成 ・ＱＵの活用や教育相談を行い、いじめや問題行動の早期発見・早期解決につなげる。 ○　規律ある生活態度の育成 ・子どもの情報共有を積極的に行い、できるだけ多くの教職員が子どもの成長に関われるよう、生徒指導体制を充実させる。 【成果と課題】 ・いじめに関する情報を全職員で共有し、全てのクラスで、特別な教科道徳を中心に児童の実態に応じた取り組みや指導を行うことができた。しかし、いじめにつながる言動やトラブルがなくなったわけではない。今後も教育相談や情報交換を頻繁におこない、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努めていきたい。	

重点目標３	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ○　体育科の授業の充実と体力の向上 ・運動の中心となるおもしろさを大切にした体育科の授業づくりを進める。 ○　健康・安全意識の向上 ・養護教諭や栄養教諭と連携した保健指導や食育指導を進め、子どもの自己管理能力を高める。 【成果と課題】 ・主運動につながる５分間運動を意識して体育の授業ができた。今後も５分間運動が継続できるよう、体育主任を中心に、定期的に運動方法の情報共有を行いたい。 ・保健指導を年間通して行うことで、児童の健康増進に成果が得られた。また、栄養教諭を活用し、食育の授業や給食指導を進めることで、子どもたちの食育意識が高まった。	

重点目標４	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇　子どもの学びの保障につながる教師の力量の向上 ・算数の授業を中心とした校内研修・授業研究を進める。 〇　市教育委員会との連携 ・推進校として、ＩＣＴの効果的な活用について研究を深める。 〇　なめらかな接続につながる学びの一体化の推進 【成果と課題】 ・推進校として公開を行ったり、各教員1本以上提案授業を行ったり、授業研の前に事前研を行い授業研・事後研にしたりすることで、教師の力量の向上につながった。 ・学びの一体化公開校として全教員が授業をし、それぞれの指導案を見合うことで小中の系統を意識した授業づくりができた。 ・昨年度に比べると研修会の回数が増加した。	

重点目標５	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇　学校の公開と情報の発信 ・フリー参観等で、保護者・地域関係者の来校の機会を設け、また、学校通信や学校ＨＰを充実させ、学校の様子を積極的に公開する。 〇　地域との交流活動の推進 【成果と課題】 ・感染症対策を施し、年３回の学校公開を実施することができた。また、ホームページの更新をほぼ毎日行い、学校の様子を多く発信することができた。そのことで、学校の取り組みを家庭や地域に浸透させることができた。 ・各学年で地域学習や体験学習を行うことができ、地域の人の思いに触れたり、地域の良さを感じたりすることができた。	

２　改善方針

【重点１　確かな学力の定着】
・より質の高い学びにつながる課題づくりについて、各自が常に意識し考えるとともに、校内研修等でも学んでいく。
・言語能力を向上させるために、家庭と連携をとりながら、読書習慣の定着を図る。
【重点２　豊かな人間性の育成】
・「あいさつ」「廊下歩行」など、当たり前のことが当たり前にできる学校を目指す。そのため、全職員が同じ目線で取り組み、児童の意識を高めていく。
・自分を含めなかまを大切にする心を育むため、行事や道徳の時間を中心に、教育活動全体を通じて指導していく。そして、いじめや差別のない個性を大切にした学校を目指す。
【重点３　健康・体力の向上】
・本年度全学年で系統化された体育の内容を次年度にも引継ぐとともに，より質の高い課題づくりについて検討していく。
・コロナ対策として様々な方策をとったが、来年度以降も残すべきことは残し、子どもたちの自己管理能力を高めていく。
【重点４　学校教育力の向上】
・児童一人一人が授業に参加し、確かな学力が定着するよう研修テーマや取り組み、授業研での討議の柱を設定していく。
・研修会の回数が増加したため、必要な回数や実施方法を検討し効率的に研修会が行えるようにしていく。
【重点５　地域とともにある学校づくり】
・コロナ禍ではあったが、地域連携の取り組みはたくさん行うことができた。感染症対策も含め、今後も地域とのつながりを大切にし、地域学習や地域・保護者と連携した学習の充実を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　川島小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①「考える楽しさ」「できる喜び」を感じられる授業づくり ②主体的・探究的に学習を進める課題づくり ③ICTを活用した教育活動の充実 【成果と課題】 〇各学年で話し合いながら研修を進め、課題や発問の吟味を重点的に行い、授業改善を行うことができた。 〇各学年の指導の重点や学ばせる学習用語を意識しながら指導することができた。 ●児童アンケート「授業が分かりやすいですか」の肯定的回答率９３%に対して「自分から進んで学習に取り組んだり、自分の考えや意見を発表したりしていますか」の肯定的回答率は７２%であった。日常生活や教科の学習を通して課題を見つけたり、情報を整理して分析したりするような探究的な学習に、十分な時間を費やすことができなかった。 〇ＩＣＴを活用した教育活動を意識して行うことができた。定期的にタブレットを持ち帰ることによりタブレットを使った家庭学習が定着してきた。コロナ感染の濃厚接触等で登校できない児童に対してオンライン授業を行うことができた。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①各学年ごとに人権課題を設定し、年間を通して取り組む。 ②基本的な生活態度を定着させる。 ②いじめ調査・QU調査・教育相談を年間計画に意図的に配置する。 ③図書ボランティア、図書司書と連携強化を図る。 【成果と課題】 〇体験学習や交流活動（人との出会い）など、学習形態を工夫しながら人権問題を取り上げることができた。様々な立場の方の話を聞くことにより、課題に対して主体的に解決しようとする姿が見られるようになってきた。 〇調査や教育相談により子どもたちの状態を把握し、迅速に対応することができた。 〇人権教育カリキュラムにもとづいた授業実践を通して、子どもたちに人権課題に向き合わせ、いじめや差別を許さない態度の育成につとめた。また、「ピンクシャツ運動」「人権標語」「いじめ防止標語のぼり旗」など、それぞれの取り組みを連動させることで、子どもたちの気づく力を高めることにつながった。 〇学期に一回ずつの読書週間を位置づけ、家庭での読書週間づくりのために「夕読」を行った。感染症対策も考えながら、図書館ボランティア「ブックママ」による読み聞かせも行い、読書への関心は高まった。 ●年度当初より、「川島小のきまり」を配付し、きまりの趣意説明を含めた指導を行った。しかし、休み時間のあおり言葉や、遊具の使い方のトラブルなどもあった。放送での注意喚起や、運動場での教師の見守りを行い、子どもたちの状況把握と、指導を継続した。児童アンケート「学校のきまりを守っていますか」の肯定的回答率９５%（昨年度９６%）保護者アンケート「学校生活のきまりや社会生活のルールなど規範意識を身につける教育が進められている」肯定的回答率９１%（昨年度９５%）と減少した。	

重点目標３	健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①運動についてのアンケートを年２回行う。 ②防災及び安全教育に取り組む。 ③健康教育の充実 ④食育の推進 【成果と課題】 〇運動に対する興味・関心を把握し、体育科の授業や体育的行事に活かすことができた。 〇各学年の発達段階に応じた内容で交通安全教室を行い、交通安全への関心を高めることができた。また、今年度は全校で不審者対応訓練を実施し、職員の動きを確認するとともに改善点を見つけることができた。 ●体育館の改修工事の影響で、例年計画している室内での運動ができない部分があった。 ●表現運動の単元を運動会の学年種目の練習に充てたため、通常の授業としての活動や評価がしにくい学年があった。今後、年間指導計画を立てる際にも、表現運動を通常の授業内で行うようにしていく。 〇本校の健康課題に対し、保健指導や保健だより、保健室前掲示等を通して児童の意識向上や生活習慣の改善に努めることができた。特に視力低下予防のため、児童保健委員と学校医の協力のもと動画を作成し啓発をするとともに、学校保健委員会にて学校三師、PTA役員、CS役員、教職員で今後の取り組みに向けた討議を行うことができた。 ◯身長・体重を基に、推定必要量エネルギーEERを出し、残食調査も行うことができた。その調査を学校全体・学級・個人に応じて指導するための基礎データにすることができた。 〇栄養教諭と養護教諭、栄養教諭と学級担任が連携した食育に関する授業を定期的に行い、児童の食に対する関心の向上に繋がる取り組みを行うことができた。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	4
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①個々の教育的ニーズに応じた支援の工夫を行う。 ②関係機関や保・幼・中との連携を図り・教育相談を充実する。 ③相談支援ファイルを活用し、情報の共有を図る。 ④教育支援課との連携と不登校対策委員会の開催 【成果と課題】 〇特別支援委員会を月に一回行い、情報共有にとどまらず、「どのような支援が必要か」といった対応について、具体的に話し合い、関係機関につなぐことができた。 〇相談支援ファイルの書き方について、ミニ研を行うことで、経験年数の少ない教員もファイルの活用についても研修を深めることができた。 〇生指報告、様式３を活用し、不登校のみならず、不登校リスクの子どもたちの把握を全職員で共有することができた。 〇不登校対策委員会を月に一回行い、「子どもの様子」「保護者との情報共有の在り方」などを検討し、対応に活かすことができた。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①全職員が研修主題を意識した提案授業を１回は行う。 ②問題行動の早期発見、未然防止 ③コミュニティスクールとしての充実を図る。 【成果と課題】 〇年度当初から計画的に、全体研や学年研の授業を公開し、実践を深めることができた。 〇教育アドバイザーを活用しながら授業改善を行うことができた。 〇一昨年度から導入した見守り担当。目的は、「安全面・生活面において、対応できる環境づくりをし、子どもたちがより安心して過ごすことができる体制を整える」こととした。年々、人的配置が難しく実施が困難な所もあるが、職員の理解もあり、「トラブルへの迅速な対応」や「学習支援」などを進めることができた。 〇コミュニティスクールについては，新型コロナウイルス感染対策をとりながら，地域と連携した活動を復活することができた。しかし，本校のコミュニティスクール事業のメインでもある，夏季休業中に実施している「未来塾」については，北校舎の大規模改修工事のため，開催することができなかった。今後の「未来塾」のあり方についても，検討する必要が出てきている。	

２　改善方針

・子どもたちの言語環境が課題としてある。朝の会での担任からの声掛け、放送での呼びかけ、始業式での話といった多くの場面を活用し、気づきを促してきたが、まだまだ不十分であった。保護者による学校評価アンケートでは、「休み時間での運動場トラブル」「授業の受け方」について心配の声も一部いただいている。０次対応の視点で、「子ども、保護者に対する川島小のきまりの趣意説明」「問題行動に対する初動のスピード向上」「チーム対応」「なかまづくり」の具体的方法を教職員で情報共有し進めていく。 ・体育科の年間指導計画を立てる際、指導領域の一部を運動会といった行事の活動に重ねるのではなく、通常の授業の活動内で実践していくように指導部会を中心に話し合っていく。 ・タブレットなど環境は整備されているが、十分に活用できていない部分がある。ICTを活用した授業の学習会や校務のICT活用能力を高める研修会などを設定する。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　神前小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	同和教育の推進	4
主な方策 成果と課題	同和教育は、本校の人権教育の基幹と位置づけている。人権総合学習・生活科やなかまづくりに取り組むことで，差別をなくすための行動ができる子どもたちの育成をめざした。２月には「人権集会」を行い、取り組みを伝え合った。また、「なかまづくり」では、日記作文指導・QU調査等も活用して、子どもたちとの向き合い方を全職員で考察しながら進めた。子どもたちとの向き合い方だけでなく教職員自らが差別心と向き合い、互いに高め合うことも確認し合うことができた。 【児童アンケートの主な該当項目】（数字は４～６年児童平均　：後ろは昨年度） 〇自分や友だちを大切にしていますか。（3.6　3.7） 〇学校は、楽しい。（3.2　3.0） 【成果】「このクラスの仲間に自分のことを話したい」と思える子が出てきたのは，これまで積み上げてきた部落問題学習となかまづくりの取り組みの成果だといえる。（外国のルーツや悩みなど）人文教活動の学習会でも，集会所について熱心に考え，自分の立場と向き合おうとする子どもの姿もあった。 【課題】部落問題学習の授業公開を進んで行い、学び合う空気を担当として学校全体に浸透させることが出来なかった。	

重点目標２	学びを高め合う授業づくり	4
主な方策 成果と課題	今年度は「聴き合い、伝え合う」ことができる授業を目指してきた。コロナ禍の中でも少しずつ、小グループでの学び合いを設定してきた。この姿を実現するために、ICTを活用した授業の取組を推進してきた。また、グーグルクラスルームを使って授業実践を交流することに取り組んだ。 【保護者・児童アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は昨年度）】 〇お子さんは、思いや考えを伝える力が育っていますか。（3.1　3.1） 〇あなたは電子黒板やタブレットを使った授業を受けていますか。（3.8　　3.9） 【成果】多くの教科でICTを活用した授業の構築ができており、コロナ禍の中での授業スタイルとして一定の成果があった。 【課題】「聴き合い伝え合う」という姿の子ども像や授業像が明確ではないような気がする。研修で深められなかった。	

重点目標３	基本的な生活習慣の定着	3
主な方策 成果と課題	地域取り組みとタイアップしてあいさつ運動に取り組み一定の成果があると地域から評価を得た。また、生活リズムチェック週間を年間３回実施し、意識して規則正しい生活を送るように指導した。家庭で行う自主学習の取組みを全校児童が目にする場所の掲示板等を通して推進している。 【保護者アンケート該当項目（４段階評価平均、後ろは昨年度）】 〇元気の挨拶をする。（3.1　3.0） 〇家庭学習（宿題・自主学習・読書など）が身についていますか。（2.9 2.9） 〇きまりを守って生活をする（3.3　3.3） 【成果】各学期はじめに生活リズムチェックを行うことで、規則正しい生活を促すことができた。 【課題】保護者と相談し協力を求めてきたものの生活習慣・学習習慣を改善できずに、望ましい習慣が定着していない児童もいる。保護者が必ず目にするであろうＨ＆Ｓを活用し，啓発を行っていく。	

重点目標４	一人ひとりを大切にした教育	3
主な方策 成果と課題	支援が必要な児童を学びから遠ざけない支援体制等について，校内支援委員会で検討し生指・特支の面から全校体制で進めてきた。家庭訪問に重点を置き、保護者と連携を図る取り組みを推進してきた。教育相談の時間を大切にしてを個別にとり、児童に悩みがないか確かめ、支援をしてきた。 【保護者アンケート該当項目（４段階評価平均、後ろの数字は昨年度）】 〇学校は、保護者からの相談などにていねいに対応していますか。（3.6　3.5） 〇学校は、一人ひとりの違いを受け止めて、子どもの理解・支援を適切に行っていますか。（3.4　3.3） 【成果】子どものつぶやきや綴ったものから子どもの心の奥にある思いをつかむこと、家庭訪問等保護者とのかかわりを深めながら背景をつかむこと、を大切にしてきた。それにより、学ぶ意欲が高まったり、学校に来やすくなったりした子どもの姿がある。 【課題】支援員さんや介助員さんと子どもの姿の見取りや支援の方法など交流できる手段や機会があると良い。	

重点目標５	地域に学ぶ：人とつながる取り組み	3
主な方策 成果と課題	「人と出会い、地域の人から学ぶ」人権学習をテーマに、人と人とのつながりに学ぶ学校を目指してきた。コロナ禍の中でもコミュニティーかんざき運営委員会の方の全面協力をいただき、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動にご助力いただいた。 保護者児童アンケート該当項目（４段階評価平均） 〇学校は、保護者や地域の人たちから学び合う機会を積極的に持っていますか。 （3.5　3.5） 【成果】米作り，もちつき，もち米販売など多くの体験型学習を、コミュニティかんざきの皆様のご協力のもと，実施することができた。 【課題】コロナ禍により授業参観や学校公開が例年通り開催できないため、保護者に児童の学校での姿が届きにくい現状がある。保護者の理解を得て、学校サポートの輪を広げていきたい。	

重点目標６	安全・安心な学校づくり	3
主な方策 成果と課題	学校環境整備の面で、地域の人に関わっていただくことで地域との「つながり」が感じられる学校づくりを目指してきた。特に、コミュニティーかんざき運営委員の方々や老人会（仙寿会）の支援をいただき学校環境整備をしていただいた。また、仙寿会の皆様に児童の登下校の見守智をしていただくなど、安心・安全な学校づくりの確保に努めた。 【保護者児童アンケート該当項目（４段階評価平均、後ろの数字は昨年度） 〇学校は、防災や防犯について、子どもたちに自分に身を守るための方法を伝えていますか。　（3.4　3.4） 【成果】昨年度に増して、コミュニティーかんざき運営委員の方々やボランティアなど学校に来てくださる方々が多く、児童自身が地域の方を身近に関している。 【課題】防災の面では、まだまだ危機意識が薄いように感じている。普段の避難訓練でも真剣さが薄い場面も見られた。普段から防災指導を充実させていきたい。	

２　改善方針

６つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ」ことを本校の強みと位置付け、学校教育ビジョン実現を目指してきた。コロナ禍の中でも、多くの地域行事が再開される方向にある中で、学校もすべての教育活動について「やらなければならないこと」と「工夫すればできること」を精選しながら、地域や保護者の力を借りて全職員で取り組みを進めてきた。今後さらに多面的に人権・同和教育を基軸に据えた「学ぶことが楽しい学校」の実現・継続についてさらに取り組んでいく。また、学校の考えや子どもの姿が保護者や地域に届きにくい現状でもある。より多くの姿を伝えることで保護者・地域の協力をより得ることができ、保護者・地域も含めた地域とともにある学校になっていくと考える。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　桜小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	〇家庭学習や読書習慣や学習規律を定期的に指導していることで、習慣化につなげることができている。 〇朝学習の取り組みで、文章を読み取る機会を増やしたことは良かった。前の学年の文章を読むことで自信がついたため、今後も継続していく必要がある。 〇課題をしっかり考えて、授業づくりを進めるよう取り組みを行ったことにより、子どもたちが意欲的に授業に臨む姿が見られた。 【保護者】「お子さんは、学校の授業が分かると言っていますか。」（91%） △ICTを活用した授業も増え、子どもたちも機器に慣れ学習用具として確立してきたように感じる。その一方で、機器に親しんだ分、学習規律やリテラシー面での課題が明らかになってきている。マナーやルールを再度確認するとともに、更なる研修を深め、よりよく活用できる力を子どもにつけていきたい。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	〇新型コロナウイルス感染症の対策など制約があり活動時間が削減されたが、昨年度以上に改善して取り組むことができた。運動会（さくらっ子スポーツフェスティバル）5分間走・長縄チャレンジなど感染症対策を行った上で、行事として充実させることができ、児童の体力向上につなげることができた。 【保護者】「お子さんは、健康で安全な学校生活をおくることができていますか。」（98%） 〇家庭読書習慣のワークシートを定期的に取り組むことで、読書に対する抵抗感が少なくなってきた。 〇仲間づくりの研修会を年2回もち，桜小の人権課題を共通理解して取り組むことができた。 △マスクを外せない児童が増えた。そのことにより、運動量が減ったり、表情が読めず距離感がつかめなかったりする児童が増えてきた。	

重点目標３	未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	〇今年度は避難訓練を計画通り実施できたので、児童や職員の防災意識を高めることにつながった。 〇毎月子どもの様子を振り返り、重点指導が共有できたことで、規律やきまりなど統一した指導ができた。 〇「校区探検」等の地域学習、「米作り、陶芸、プログラミング、ラグビー」等の体験学習をコロナ対応を十分に行ったうえで進めることができ、児童の心身の育成につなげることができた。 △6年間を見通した防災・安全教育に取り組めるようにする必要がある。特に自由登校なため、交通安全教室は不可欠である。 △日々の指導から挨拶や言葉使い、人とのコミュニケーションが出来る児童も多いが、挨拶が出来なかったり、よくない言葉使いから友達とトラブルになったりすることがあった。 【児童】「自分から進んで、友だちや先生、地域の人にあいさつをしていますか。」（85%）	

重点目標４	きめ細かな教育の推進	3
主な方策 成果と課題	○報告シートを活用し、定期的かつ必要な時に校内支援委員会を行うことができ、児童や事例を焦点化して協議することができた。さらに、SC、SSWや関係機関とつないだり、その後に連携したりすることにより、より一層のきめ細かな児童支援を進めることとなった。今後は、出てきた課題について、どのような対策を取るのか、どんな支援や合理的配慮を行っていくのかをケース会議で検証等していきたい。 【保護者】「お子さんは、楽しく学校に通っていますか。」（95%） 【児童】「学校は、楽しいですか。」（92%） △ビジョンに沿って支援ファイルを活用した相談ができた面もあるが、より有効的な活用が弱かった。支援委員会の中で、その子の指導計画に基づいて協議していく。 △定例の会議時間が長くなり、その時に必要でより大事な支援についての共通事項が確認しにくくなってしまった。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	○いじめ防止対策委員会を年３回開催し、子どもが訴える内容についていじめとして認知し、解決・対策に努めた。その中で、SSWなどの関係機関と連携を取り、家庭に寄り添うことができた。 ○夏季研修会や校内研でニーズに応じた内容の研修会を実施することができた。また、それぞれが学んだことを回覧で還流するなど、学びを広げることもできた。 ○月に2回以上の学校HP更新、毎月発行の学校だより、定期的な学年通信等を通して、児童の様子を適切かつタイムリーに伝えることができた。 【保護者】「学校は、授業参観や学校行事、懇談会、各種通信・ホームページなどで、学校の活動や子どもの様子をよく伝えていますか。」（95%）	

２　改善方針

【学習指導部】
・学習規律で、各学年の重点項目を作る。
・ICTの活用をさらにしていきながら、タブレットの使い方やルールを徹底していく。そのために、定期的に児童に意識付けをしていく計画をたてる。
【生活指導部】
・全教職員で全児童を育てていくことを意識し、引き続き決まりや規律の指導を統一していく。
・問題未然防止のため、０次対応を心がけていく。
【健康安全部】
・新型コロナ感染症で制限される部分が多いが、引き続き、できることから取り組み、子ども達の体力強化に繋げていく。日頃から、家庭でも取り組める運動を指導していく。
・6年間を見通した防災安全教育に取り組んでいく。
【研修委員会】＆【校内特別支援委員会】
・ICTの活用を進めるためにも，ICT活用を含めた授業提案を年度はじめに提案したり，活用の研修会をもつようにする。
・支援ファイルを持っている児童についての協議では、その子の指導計画に基づいて協議し、より有効な活用をめざす。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　県小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	・全校で朝学習、家庭学習での反復学習に取り組み、基礎・基本の定着を図った。また、児童のつまづきを解消するためにタブレットドリルを活用し、基礎学力の定着に取り組むことができた。 ・授業の中でタブレットを子どもたちの思考の手立てとして使うにはまだほど遠く、操作が個人の中で完結していることが多い。今後は子どもたちの思考をつなげる協働的なツールとして活用する場面を増やしていく必要がある。 ・１人１台の活用により、子どもたちはタブレットの扱い方に慣れてきた。反面、自分勝手に操作したり、帰宅して動画等を長時間視聴しているという保護者の声を聞いたりすると、学校で改めて共通認識の上、使い方の指導をしていく必要がある。 ・各教員が「確かな学力」をどうとらえているか、再度、研修で確認していきたい。 ・予鈴を入れたことで子どもたちが時間を意識して行動するようになってきた。まだクラス間で差があるため、より時間を守って活動することを意識させていきたい。	

重点目標２	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	・校内書写展・図工展・あがたっ子学習発表会等の行事を通して、児童が学級や学年を越えて互いの作品や出し物を鑑賞をし合い、よさを認め合うことができた。 ・今年度からボランティアによる読み聞かせが再開され、子どもたちが本の世界を楽しむ様子が見られた。 ・道徳の授業では、各学年に応じて概ね子ども同士が考え合い、議論することができた。また学習の中で、自分たちの日々の生活を見直したり、自己や学級目標を振り返らせたりすることができた。 ・きょうだい学年での交流を通して異学年集団の仲間づくりを図った。特に上級生にとっては、自分達の役割を意識しながら下級生をを思いやるよい機会となった。 ・なわとび集会では、下級生が上級生の立派な姿を見たり、上級生が下級生の縄を回すお手伝いをしたりする場面が見られた。 ・あがたっ子委員会を中心にあいさつ運動や募金活動等に積極的に取り組むことができた。	

重点目標３	健康安全教育の推進	4
主な方策 成果と課題	・交通安全教室、防犯教室を今年度も計画通り進めることができ、それぞれの学年に応じた指導ができた。常に安全に気をつける意識を持って生活を送っていくことが大切であるため、指導を継続していく。 ・水泳指導、運動会、かけ足、業間縄跳び等、全校児童の体力向上に向けて計画的に進めることができた。一方、コロナ禍もあり学年を超えての交流の機会に制限があった。 ・食育・歯科保健指導は養護教諭、栄養教諭が各担任と連携して効果的に行うことができた。 ・あがたっ子の約束をもとにルールを明確にすることができたが、廊下歩行や登下校などでは課題が残り、安全面が少し心配なところもあった。 ・毎週末、地区担当と班長児童が通学の様子について話す時間を設けたことで、より子どもたちの様子を把握しやすくなった。	

重点目標４	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	・校内特別支援委員会を毎月定期的開催し、特別な支援を必要とする児童の把握や情報交換を行った。校内特別支援教育コーディネーターを中心に様々な視点から改善策を探り、支援について考えるとともに保護者と共通理解を図ることができた。 ・スクールカウンセラーには児童の観察、保護者との面談、校内支援委員会での助言等、専門性を生かして尽力いただくことができた。特に、放課後に担任と丁寧に情報交換の時間を行うことができたたことは、担任が普段気づくことができない児童の一面を知ることができたり、新たなアプローチの方法を学ぶことができたりと貴重な時間であった。 ・ICT機器を今後も使うことで、児童が主体的に取り組み理解できる授業づくりを進め、インクルーシブな教育を行うことが今後さらに必要となる。 ・予鈴を入れたことで、どの子にとっても今が何の時間なのか分かりやすくなった。	

重点目標５	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	・ICTについては、各学級によって大きく指導に差が出ることのないよう、校内研修等を通じて共通理解を図ることがこれからも大切である。加えて、教師自身が技術の習得をする必要がある。 ・毎年、不審者対応訓練を行っているが、その都度、新たな発見や課題が出て教師自身が防犯意識を高めることができている。 ・年度初めにエピペンやＡＥＤ研修を行うことで、全職員が緊急時の対応について再度確認し、危機管理意識を高めることができた。来年度は救急車要請時などの対応についてもこれらの研修の際に確認していきたい。 ・毎週情報交換会を行うことで、他学年の子どもたちの様子を知ることができ、学校全体で見守る体制作りにつなげることができた。	

重点目標６	家庭・地域と協働する学校	4
主な方策 成果と課題	・保健だよりを通じて、学校での体温調節を考えた過ごし方や感染症予防の具体的方策、また健康に過ごすための姿勢について保護者に発信することができた。 ・学校三師からは、学校保健委員会において『正しい姿勢』をテーマに助言をいただいたり、薬物乱用防止教室を養護教諭と連携して進めたりと年間を通して連携することができた。 ・あがたっ子の約束を全世帯に配付し、保護者と共に子どもたちの規範意識を高めることができた。新しく加わった約束（放課後音楽が鳴ったら帰宅する・ＳＮＳの扱い等）については、今後も継続した啓発が必要である。 ・登下校では、地域のボランティアや県四日市西警察署県駐在所の署員のと連携して、子どもたちの見守りができた。	

２　改善方針

学校づくりビジョンを日常的に職員が意識して児童の指導が進められるように、教育活動の反省を各学期末に実施し、職員が改善の意見を出す機会を確保した。保護者アンケート「学校の教育活動に満足していますか」では９４．６％（昨年度より－０．２％）から肯定的な回答をいただいている。また、児童アンケート「学校が楽しいですか。」の項目に「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が９６．６％と昨年度より０．７％増加した。 今年度もコロナ禍により教育活動は影響を受けたものの、読み聞かせボランティアの再開や社会科の地域学習等で子どもたちが外部の方との関わりを持つ機会も増えてきた。来年度に向けても、さらに保護者、地域の方々と連携を図りながら、児童一人ひとりの思いを大切にして、お互いに認め合える学校・学級づくり、授業づくりをめざしたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　三重小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	・言語活動の充実については「聞く・話す・書く・読む」力の定着を継続して図りたい。今年度は、「話す・聴く」の力の向上について重点的に取り組んだ。毎日の授業をはじめ、全校にスピーチをする機会を設け、学校全体で「話す・聴く」を意識することができた。また「書く」力の定着を図りたい。論理的な表現が苦手な児童も多くおり、それぞれの力をつけさせる取り組みを進めていきたい。 ・「問題解決能力向上プロセス（四日市モデル）を基本にした授業づくり」では、「仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成」を研修主題とし、「学ぶことが楽しい　もっと学びたいと思う子どもへ」を副主題とした授業実践を各学年に展開してきた。コロナ禍において学び合いの形が制限される中、タブレット端末を授業で活用することで友達の考えを確認できたり、自分の考えを全体に伝えることができた。 ・ICTを活用した学びの充実については、ミライシードや発表ノート、GoogleClassroomなど効果的に使用していくことができた。教員のクラスルームに「学びの広場」を作り、実践例を共有することができた。次年度に向けて、段階的に学年に応じたスキルアップ用の目標を設定していきたい。 ・少人数授業及び教科担任制による効果的な指導の充実では、３・４年生で３クラスを４クラスに分け、算数の少人数授業を行った。１クラスの人数が減り、個の課題に応じた学習指導が進められるようになった。また、学年の全クラスの児童を４人の教員で見る機会になり、学年の実態がつかみやすくなって、児童の傾向に応じた指導ができるようになった。 ・教科担任制では、学年の全児童に対し、同じ学習指導ができ、クラスによっての指導の差が見られなくなった。教員各々にとっても、全クラスの学習指導を行うことで、どのクラスの児童に対しても同じように生活指導を入れることもできた。ただ今後に向け、教員が教科の専門性をもっと高めていかなければならないと考える。また、クラスでトラブルが起きた時や行事関係等で、互いの授業時間の関係がうまくとりにくいときがあり、時間割については今後の課題である。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	・子ども一人ひとりが認め合うなかまづくりの推進では、友だちとのトラブルを見逃さず、その場ですぐに対話をすすめるよう心掛けた。トラブル解消の場を心の成長の場として生かすように指導することができた。 ・「考え、議論する道徳」の充実では、道徳の授業だけでなく他教科の授業においても必ず自分の考えを持ち、それぞれの意見が出せるような授業展開になるように努めることができた。 ・「三つのやくそく（あいさつ・そうじ・時間を守る）」を中心に捉えた規範意識の向上では、代表委員会を中心に毎月の目標を設定して学校全体で守ろうと意識させた。時間を守ることについては一定の成果が得られ、全校でチャイム着席、そして授業スタートを推し進めることができた。今後はあいさつ・掃除に関して、児童が自発的に動いていけるような取り組みを進めていく。 ・読書環境の充実と読書活動の推進では、年間を通して、朝の１０分間読書や、図書委員会による図書館まつりを中心に読書活動の充実を進めた。毎月、家庭での読書を推奨するために「読書デー」を設定し、年間を通じて読書カードを利用して子どもが記録することで意識を高めることができた。 ・生涯を通じて健康に生きるための体力の育成では、かけあし・縄跳び運動やボール投げ、5分間運動など学校全体で取り組み共通の運動を行うことができた。特にボール投げは年間を通して二度の計測に取り組み、一定の数値を出すことができた。来年度も児童の実態に合わせて体力の育成を図れるような取り組みを続けていく。 ・食育・保健指導の推進では、栄養教諭による食育指導を全学級、1学期ごとに1回行い、食の大切さや自分の体について知る良い機会にすることができた。保健指導では、学校保健委員会を軸に段階的に指導をすることができた。生活リズムチェックの結果から全校の課題を「睡眠時間の短さ」とし、それを分析して養護教諭を中心とした保健指導を各学年の発達段階に合わせて指導することができた。また、生活リズムチェックを行うことで、長期休暇に崩れていた生活リズムを家庭全体で取り戻せるきっかけにすることができた。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	・キャリア教育の推進に関しては、キャリアパスポートを活用したことで、児童が自分自身の成長を振り返るきっかけとなった。長期休みに入る前に家庭に持ち帰って保護者が一言コメントを書くようにし、家庭とも協力して取り組むことができた。 ・特別活動の充実については、委員会活動では、高学年が中心となり、学校をよくするためにそれぞれが責任をもって活動することができた。しかし、まだ活動に受け身な姿が見られ、もっと児童が主体的に活動できるような指導を全体で行っていきたい。 ・危険予測能力の向上（安全教育・防災教育の充実）では、登下校の交通安全教育を行った。廊下を走る児童も見られ、決まりを守る指導を継続して行っていく。また、今年度起きた給食室火災から職員全体として、防災計画の見直しを図り、その意識を高めることができた。しかし、訓練の様子から児童の避難に対する意識の低さがうかがえるため、安全教育、防災教育の充実を図る取り組みを進めていく。今年度行った「とみまつ隊」や「自主防災リーダー」との学習を今後も引き続き行い、防災・交通安全指導なども進めていく。 ・子どもと向き合う時間の確保については、教育課程の編成や担任の空き時間を確保できるようにして、児童と関わる時間がとれるように設定した。支援が必要な学級や学年など、一人の教諭に負担がいかないように支援できる人材をいれた。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現～子どもと先生の笑顔あふれる学校づくり～	3
主な方策 成果と課題	・校内サポートルームの活用と校内支援体制の充実に関しては、サポートルームを大いに活用し、困り感のある子へのサポートを充実することができた。また、校内支援体制としては、特別支援委員会を充実させ、支援の必要な児童の把握や支援方法についての協議を深め、全職員で対応することができた。一方で教員の空き時間は確保できていない現状がある。通常の学級での支援をより充実させるために、学級でできる支援方法を共有し、学校全体の特別支援教育の推進を図っていきたい。 ・関係機関と連携したチームによる教育課程への対応に関しては、教育委員会における関係部署や地域コーディネーター、通常学級との密な情報共有を進めることで、迅速な対応や効果的な取り組みができ、一定の成果を得ることができた。教育アドバイザーに、特別支援学級での授業だけでなく、他の学級での授業の様子を見てもらい、適宜アドバイスをもらった。一方不登校児童への対応の情報共有にとどまったので、学校全体で不登校児童への適切なアプローチを考える時間をとっていきたい。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	・生徒指導の充実（チームで取り組む０次対応）については、各担当が声をあげ、管理職を交えた先を見据えた指導を行えるようにしてきた。対応が、一部の教諭にのみ留まることがないようにデータで残し、どの教諭も確認できるようにしてきた。 ・家庭や地域と連携した安全・安心な学校づくりについては、家庭からの困り感に寄り添い、関係性を深めることに努めた。また、保護者の学習ボランティアを募り、学習の支援をしたり、地域の交通安全に協力してもらったりすることができた。 ・地域資源や外部人材を活用した教育の推進については、地域の郵便局や交番、市民センター、消防団、地域防災リーダー、図書館ボランティアなど、協力していただける地域の方が多くいる。「今年はどうですか？」と声かけをしていただくこともあり、地域と一体となって教育の推進を図ることができた。 ・教職員の資質・能力の向上（ＰＤＣＡサイクルによる効果的な研修）については、各教諭が自己目標を年度当初に立て、学期ごとに振り返りを行い、自己研鑽に取り組んだ。 ・学校における働き方改革の推進（自律的な業務効率化）については、定時大退日の設定、弾力的な勤務時間の設定をできる範囲で柔軟に対応できるようにした。	

２　改善方針

・一つ一つの学校のきまりを守れない児童が多くみられる。学校全体で取り組み、全職員が同じ目線で同じ指導ができるように徹底していく。ただ、指導するだけでなく、「なぜしてはいけないのか」の理由もしっかり伝えて行うようにしていく。
・定時退校日を設定してもなかなか全員が行うことができない。普段の授業での教材研究や事務仕事の時間を確保するために遅くまで仕事をするのではなく、教材資料のデータ化や教育アシスタントの活用、環境整備を行い、それぞれの教材研究の時間を確保できるように引き続き取り組んでいく。
・子どもの体力の低下がコロナ禍であった理由もあるが、学校全体で底上げしていく取り組みが必要である。5分間運動や主運動、休み時間など、子どもたちが運動に親しむ環境を作っていきたい。
・子どものためにと、何でも行うことで逆に負担になることもある。「例年行うからする」ということでなく、今の子どもたちに何が必要なのかを精査して、行事等を取捨していく必要がある。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立 大矢知興譲小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	・「四日市モデル」を軸とした問題解決能力向上のための授業づくりを行い、学習に問題解決の見通しを持たせるための「課題」と「ふりかえり」の習慣化を図る指導を行った。 ・本校の研修では、「四日市モデル」を土台としてとらえ、「第２プロセス」を原点として「第４プロセス」に重点を置いて取り組んだ。児童が主体的に活動できる授業を目指して、対話を通して多面的に考察し考えや思いを表現するために、ICT活用の視点から、全教科でタブレット端末を積極的に活動し効果的なICT機器の活用について模索してきた。 ・ビジョンの重点項目として、漢字学習と読書を設定し、ビジョンの達成状況をはかる指針の１つとした。 ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックを実施し、高学年の学習状況を図る指針として活用し、児童への教科指導で生かせるようにしてきた。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	・人権、同和教育、道徳教育の充実にといては、子どもが主体となる人権学習を行った。また、安心して過ごせる学級づくり、仲間づくりの推進を行った。人権学習では、各学年で重点課題を設定し、系統立てた学習を進めた。なかまづくりでは、「核となる子」の設定を行い、まわりの児童の変容に重点を置いた。道徳教育についても、年間指導計画に沿って履修できるように推進をはかった。保護者アンケートでは「人権を大切にし、いじめや差別を許さないように指導しているか」という項目で、児童アンケートでは「いじめや仲間はずれをせずに、友だちと仲良くしているか」という項目で、昨年度と比較して向上が見られた。 　職員全体でも、いじめ調査やＱＵ調査などを活用した教育相談の充実を行い、学年部や管理職などと連携して、安心して過ごせる学級・学校づくりの推進に努めてきた。 ・自尊感情の高まりを目指してきたが、アンケートの結果では下降が見られた。引き続き次年度も継続して取り組みたい。	

重点目標３	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	・校舎改修工事が終了し、運動場が元の大きさに戻った。それに伴って、休み時間の運動場の使用制限や、体育の時間の活動制限がなくなったため、活動量ももとに戻りつつある。タブレットの導入に伴って、天気の良い日でも教室でタブレットをする児童も一定数おり、声掛けは継続して必要である。 ・体育の授業においてもめあてやふり返りを意識する授業づくりをし、運動に対する意識を高めてきた。保護者アンケートでは体力向上に関する項目で１ポイントの上昇があったが、児童アンケートでは１ポイント低下した。今後も教師間での実践交流を進め、日々の指導にいかしていきたい。 ・火事や地震を想定した避難訓練を毎学期行うことで、より安全に避難できる体制を見直してきた。また、防犯教室を行い、警察の方からお話を伺うことで、意欲的に防犯を学習することにつながった。	

重点目標４	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	・校内研修は、各学年で計画し取り組み、ふり返りを毎学期行うことで、充実を図ってきた。それぞれの役割や得意分野を発揮しながら、力量や資質を向上することができた。学年間のつながりを広げることで、さらに学校力を高めたい。 ・夏季研修では、教員が講師役となり、ICTに関する使用法や、指導について交流をした。誰もがICTを使うことを目標にして、スキルアップをすることができた。また、昨年度に引き続き、三重大学の松浦教授にお話をいただいた。特別支援学級の教員だけでなく、全員が特別支援教育について学び、知見を深めることができた。 ・職員間のOJTである「ミニ研修」では、実施回数が減った。今後、専門性を発揮し、指導について共通理解をはかる場を持つ意味でも、積極的に進める必要がある。 ・業務アシスタントの活用により、子どもたちに向き合う時間の確保を行うことができた。職務内容の軽減にもつながり、働き方の意識改革にもなり、職場の活性化にもつながった。	

重点目標５	保護者・地域との協働	3
主な方策 成果と課題	・「家庭学習の手引き」を１学期の初めに配付することで、家庭学習の習慣化に向けた取り組みの推進を行った。低・中・高学年で系統性のある方針を示した。今後も加筆修正して周知を図り、保護者にも協力を得られるようにしたい。 ・学校についての様子を積極的に発信するために、校長だよりやHPで情報発信を行った。アンケートでは情報発信に関する項目では１ポイントの上昇がみられた。H&Sを活用した情報発信とも組み合わせて今後も開かれた学校づくりを目指したい。 ・学習支援ボランティアの活用により、効果的な地域人材の活用ができた。クラブや家庭科の学習等で地域の方との関わりを持つことで視野を広げることができ、子どもへのきめ細かな学習支援によって、達成感につなげることができた。 ・四日市版コミュニティースクールとして、「興譲協議会（学校運営協議会）」の充実を図ってきた。協議会で示された方向性を職員会議の場で共有することができた。 ・多くのボランティアや保護者の見守りにより、登下校の安全を確保できている。	

２　改善方針

〇重点項目１
・ICT活用実践推進校事業の３年間の取り組みが終了した。３年間で得られた学びをもとに、それぞれの教員がICT活用について整理し深められるようにしたい。
・読書について積極的な推進活動を行った。来年も継続して取り組むことで、学校・家庭のそれぞれで読書量を増やすようにしたい。
〇重点項目２
・いじめアンケートとそれに伴った教育相談を行い安心して過ごせる学級・学校づくりに努めた。次年度もアンケート結果の集約と共有を行い、より多くの視点で児童一人ひとりを見守りたい。
〇重点項目３
・体力の向上、健康・安全意識の向上をさらに目指したい。
〇重点項目４
・教職員のニーズに合わせた研修になるよう、OJT推進に向けたミニ研修等の充実を行いたい。
〇重点項目５
・「家庭学習の手引き」がさらに定着できるよう、年度初めの配付を行い保護者にも協力をお願いしたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　八郷小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①問題発見・解決能力向上のための授業づくりに取り組む。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を図る。 ③効果的な少人数指導・教科担任制等を行い基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ④言語活動を充実させ、読解力・表現力の育成を図る。 ⑤ICTを活用した教育活動、プログラミング教育や英語教育の充実に取り組む。 【成果と課題】 ・保護者アンケート「読み・書き・計算などの基礎・基本の学力を身につけさせようと努めている」（95%）「わかりやすい授業づくりに取り組んでいる」（91%）の項目については、昨年度同様、高評価であった。しかし、「自分から進んで家庭学習に取り組んでいる」（83%）、児童アンケート「自分から進んで家庭学習に取り組んでいますか」（79%）の項目で多くの児童が自分から進んで取り組んでいるものの、学習の意義や楽しさを感じられず進んで取り組めていない児童がいるという実態もある。今後としては、改めて児童に復習の意義や学ぶことのたのしさを伝えていきたい。 ・保護者アンケート「読書の推進により、本に親しむようになってきている」（83%）、児童アンケート「読書は好きですか」（79%）と読書に親しめていない実態が見られる。今年度は、学年ごとに内容を変えた「図書館まつり」の取り組みや、図書ボランティアさんによる読み聞かせも復活し、図書コーナーの充実も図っている。委員会活動として、児童による読み聞かせも行った。本をより子どもたちが身近に感じられるよう今後も継続して取り組んでいきたい。	

重点目標２	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①人権教育・道徳教育の充実により、多様な人権を尊重し差別やいじめを許さない子どもの育成を図る。 ②いじめ調査・QU調査等の実施により、誰もが安心して過ごせる学校・学級作りに取り組む。 ③自尊感情を高め、互いに支える仲間づくりに取り組む。 ④スクールカウンセラーや関係機関との連携のもと教育相談の充実を図る。 ⑤創意工夫による読書活動の充実、図書コーナーの充実により，本に親しむ子を育てる。 【成果と課題】 ・児童アンケートで「いじめは絶対にいけない」と考えている割合は、昨年度と同程度で97%であった。しかし、すべての児童が「いじめを許さない」という思いをもてていないという実態を真摯に受け止め、今後も「なかまづくり」研修やＱＵ調査、いじめアンケート等を通して、全職員が児童一人ひとりを見守り、些細なトラブルも看過せず、きめ細やかな対応を行っていきたい。	

重点目標３	健康な心とたくましい体の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①子どもが意欲的に運動に取り組むための、授業づくりや環境整備に取り組む。 ②学校保健委員会や学校三師等との連携などを通して、心と体の健康教育推進に取り組む。 ③栄養教諭や関係機関と連携し、給食指導なども含め、食に関する指導の充実を図る。 ④早ね・早起き・朝ごはん」を合言葉に、規則正しい生活リズムの定着を図る。 ⑤危険予測能力の向上をめざし、様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図る。 【成果と課題】 ・保護者アンケート「学校は子どもが意欲的に運動するための取組を積極的に行っている」の項目では、89%→83%と昨年度より減少している。今年度は休み時間に積極的に外遊びを推奨し、運動会の実施形態も最小限の縮小に留めた。体育の授業では、冒頭の5分間運動の実施など、コロナ禍の状況でも運動量を確保する工夫をし、運動の質を高める取組を進めてきた。だが、3年間も遊び方や運動内容が制限されていたことから、子どもたちに運動する習慣がついていないという実態がある。今後も外遊びを推奨しながら、いろいろな遊び方や体の使い方を教え、人や物との距離感をつかめるよう指導していきたい。その中で、体を動かすと楽しいという経験をさせ、体力の向上に努めていきたい。 ・児童アンケート「早寝・早起きに気を付けていますか」でも、83%→78%と減少している。これもコロナ禍により室内遊びやゲームに触れる機会が増えたことも原因かと考えられる。生活リズム向上の意識が高まるよう、今後も児童に指導するとともに、家庭とも連携し、協力を呼び掛けていきたい。	

重点目標４	家庭・地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①学校運営協議会を核として、保護者・地域と協働する学校づくりを進める。 ②学校支援ボランティアの参画による教育活動の充実を図る。 ③地域と協働し、地域の資源（自然・歴史・施設・人）を活かした授業に取り組む。 ④学校教育活動や、子ども達の様子の積極的な発信に努める。 ⑤実施したアンケートをもとに学校評価をいただき、学校経営の改善に努める。 【成果と課題】 ・学校運営協議会を中心とした地域・保護者との連携により、子どもの安全見守り・学習支援・体験活動・学校環境整備などを行うことができ、安心・安全な学校づくりができた。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①「チーム八郷」を合言葉に、目標を達成できるように教職員の力量・資質向上をめざす。 ②外部講師の招聘や先進校視察を通して、問題緒解決学習の授業づくりを積極的に取り入れる。 ③特別支援委員会、関係機関との連携を行うなかで、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 ④いじめ・不登校等の未然防止・生徒指導に対して、早期対応ができるよう体制の充実に努める。 ⑤働きやすい環境を整え、子どもと向き合う時間の確保に努める。 【成果と課題】 ・教員のICT活用能力の向上を目指し、タブレット端末を活用した研修会を実施した。定期的に取り組むことを通して、教員の活用力が向上した。 ・学校運営協議会を中心とした学習支援や学校環境整備支援により、教職員にゆとりができるとともに、子どもの自己肯定感を高めたり安心して学習に取り組める場の設定をしたりできた。 ・いじめ・不登校などの未然防止、生徒指導に対する早期対応のため、校内での報連相や情報交換を密にし、毎週の児童情報交換・毎月末の特別支援委員会・不登校対策委員会、関係機関との連携等を丁寧に行ってきた。しかしながら、時間外の家庭訪問、保護者懇談会、対応会議・打合せなどは減ることはなく、教職員の働きやすい環境としては課題が大きい。 ・教職員の業務の効率化のためにできるデジタル化の推進をより一層行う必要がある。	

２　改善方針

・ICT機器の活用については、児童が教員より手際よく活用できることもある一方、メディアにひそむさまざまな危険性に気づかずに使用している場合も多い。今後も教職員のICTに関する研修を続けていく必要がある。
・ＳＮＳといじめ関係は切り離すことはできない。そのために、子ども達には情報モラルの推進教育を、低学年の時から学期ごとに行っていく必要がある。同様に、保護者に対しての情報教育も必要である。
・児童一人ひとりの自己肯定感を高めるために、今年度と同様に引き続き、全教職員の共通理解のもと、個々を尊重し、なかまのつながりを大切にした授業づくりと、いじめを許さない風土をつくっていく。また、保護者や地域と連携して、社会的規範を身につけることができるように取り組んでいく。
・今年度もコミュニティスクールを主とした地域の方々から学習・行事・活動への支援や協力を得ることができた。家庭科ミシン学習支援や２年の算数学習支援だけでなく、３．５年生での図工科支援での協力も得ることができた。今後もますます、地域の方々の力を活用して、学力向上に取り組んでいきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　下野小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の育成・定着	3
主な方策 成果と課題	○研修主題である「主体的に問題を解決しようとする力の育成をめざして」を達成するための具体的な取り組みとして、授業づくり・授業改善を中心として研修を進めた。具体的な手立てとして、①タブレットの活用②思考ツールの導入③ドリルパークを活用した基礎的・基本的な知識技能の習得④「めあて」と「ふりかえり」の設定を授業の様々な場面で取り入れ、授業改善に取り組むことができた。児童アンケート「毎日の授業は、分かりやすいですか」の肯定的回答率は92.8%であった。引き続き、どの子にも分かる授業を目指して、授業改善に取り組んでいきたい。 ○5・6年の教科担任制や算数少人数の授業では、学年間の共通指導や学習進度の調整、算数での少人数指導や習熟度別指導等、学習効果が得られる取り組みができた。5・6年の児童アンケート「教科担任制や少人数での授業はわかりやすいですか」では、肯定的回答の割合が96%であった。高学年での教科担任制が定着し、教科の特性を踏まえた指導力の向上や授業改善につながっていると考えられる。 ○ＩＣＴを効果的に活用した情報活用能力の育成をめざし、1人1台のタブレットＰＣを活用した学習活動を行うことができた。自分が知りたいことをタブレットで調べたり、学習内容をプレゼン形式で発表したりする等、主体的、効果的に活用している。また、欠席児童に対してオンライン授業で、学習の遅れが生じないようにすることができた。	

重点目標２	特別支援教育の推進	3
主な方策 成果と課題	○特別支援コーディネーターが中心となり、支援が必要な児童に対しての支援体制や情報共有、定期的な校内特別支援委員会を行い、個に応じた支援体制を実施できた。サポートルーム（校内通級）、やまびこ学級（日本語教室）等、個別の支援を行うことで、学習活動に意欲的に取り組む姿があった。 ○スクールカウンセラーによる教育相談や児童観察を実施することで、児童や保護者の抱えている不安を察知し、不安解消や問題解決にあたることができた。	

重点目標３	地域とともにある学校づくり	4
主な方策 成果と課題	○本校の大きな特色である地域連携授業は、地域の人材を活用した体験型のキャリア教育である。地域の教育力活用についてのアンケート項目では、99.3%と非常に高い評価であった。「昔遊び」や「竹炭アート」「セコイア米づくり」「ようこそ先輩」等、地域の人から直接学ぶことができる貴重な学びの場になっている。地域の方々の理解と協力で成り立っているこの取り組みは、将来、地域を担う子ども達を育てるという視点でも今後も大切にしていきたい取り組みである。	

重点目標４	心の教育の推進	3
主な方策 成果と課題	○児童アンケートの「学校は楽しいですか」質問では、昨年度に比べ肯定的割合がわずかではあるが高くなっている。学校行事の縮小や制限あった中でも学校が授業や行事の中で、仲間づくりを大切にしたり、子どもが主体的に活動できるように内容を工夫しているからではないかと考えている。本校の研修の中心は授業づくりと仲間づくりである。日々の学校生活の中で、差別につながるような課題を明らかにし、差別を許さない視点で仲間づくりを進めることができた。今後も、道徳だけでなく授業の様々な場面で、児童の自尊感情を育み、人権感覚を高められる日々の実践を進めていきたい。 　また、生活指導部を中心に学校生活アンケートを定期的に行い、児童の実態を把握に努めたり、問題解決に迅速に対応することができた。さらに、児童報告会、不登校対策委員会を行うことで、学校全体の生徒指導問題に対し共通理解する場を設け、学校全体で対応できるような体制づくりに取り組んでいる。	

重点目標５	健康安全教育の推進	3
主な方策 成果と課題	○学校安全計画や防災計画に基づき、安全や防災に対しての知識や実践力を避難訓練や研修を計画的に実施することができた。また、職員への不審者対応訓練を警察署の協力のもと実施することができた。年度当初には、アレルギー対応訓練やＡＥＤ使用訓練等の緊急時対応訓練も実施している。児童には、薬物乱用防止教室・性に関する教育など，外部の方の協力も得ながら，効果的な教育を行うことができた。児童が安心して過ごすことのできる安全な学校づくりのため、今後も必要な訓練や研修に取り組んでいきたい。 ○昨年まで多くの制限がかけられていた体育的活動が少しずつ緩和され、運動会や水泳指導、基礎的な体力づくり等、児童が主体的に取り組むことができる内容に取り組むことができた。しかし、取り組み内容は、コロナ禍以前のようにできていない実態がある。	

重点目標６	教職員の資質の能力の向上	3
主な方策 成果と課題	○全教員が授業を公開し、事後の研修会では子どもの様子等について話し合い、より良い授業について検証をした。授業者は、授業の振り返りを書面で行うことで、成果と課題を明らかにし、その後の指導に生かすことができた。校内の「仲間づくり研修」や「ＩＣＴ研修」、教育委員会主催の夏季研修、教科別・専門別教育研究協議会等で研修することにより、個々の指導力向上や研究実践等により指導力向上を図ることができた。	

２　改善方針

○教員がＩＣＴの効果的な使い方を考え、スキルの向上に努めることでさらなる学習効果が得られるようにする。
○スクールカウンセラーとの連携をさらに強化し、特別支援コーディネーターや各担任、関係機関との情報共有や特別支援研修を行い、より良い支援や対応、問題解決に向けての取り組みができる体制づくりを進める。
○下野地区協力者と学校の情報交流を継続し、地域の方々に支えられている実感と感謝の気持ちが育まれるようにな豊かで充実した地域連携授業に取り組んでいく。
○体育の授業の充実や休み時間の外遊び推奨で体力作りを図るとともに、児童が達成感や満足感を得られたりする主体的な取り組みができるよう体育的行事や授業内容を工夫する。
○学んだことを教職員で共有し、研修報告会やミニ研修会を行うことで、指導力向上に取り組む。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　水沢小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の伸長	3
主な方策 成果と課題	○ICTを活用した授業改善やTTの効果的な活用を行い、児童の学力向上のための校内研修の充実を図ることができた。しかし、四日市に着任したばかりの職員もおり、ICTの活用度合いや活用スキルには、慣れている職員とそうでない職員で差が見られた。 ○校内研修で、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェック等で結果を分析・検討し、「読解力」定着のための手立てを授業や教材に反映することができた。 ○教職員同士の授業力向上や授業改善に向けたOJT研修、ICT機器の操作研修等、自主的に取り組むことができた。しかし、勤務時間外となってしまうことが多かった。 ○「ドリルパーク」や「こにゅうどうくんの部屋」など、タブレットを使った学習コンテンツを積極的に活用し、児童の基礎学力の定着を図ることができた。 ○生活リズムチェックシートに「読書の記録欄」を設け、家庭と連携しながら読書の活性化を推進することができた。また、学級文庫や図書館に新刊図書を入れ、読書に親しむ環境づくりをすすめることができた。さらに保護者啓発を図りたい。	

重点目標２	水沢と共に育つ子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	○地域の方や保護者と連携を図り、共に学べる機会を多く設定した。地域や保護者の方々をゲストティーチャーとして招き、積極的に人権教育や体験活動を導入することで、地域の産業や自然について再認識することができた。次年度は、地元の茶農協見学を実施したい。 ○今年度は、新型コロナ感染症拡大防止の観点から、縮小や取りやめになっていた行事を３年ぶりに実施することができた。地域の方々のご協力で「お茶栽培」「米づくり」「花いっぱい活動」「白寿会との交流」「SSピンポン体験」等の体験活動を工夫しながら実施することができた。	

重点目標３	確かな人間性とコミュニケーション能力の育成	4
主な方策 成果と課題	○全職員による週１回の児童の情報共有の時間を持つことで、一人ひとりの困り感を担任任せにせず、早期に対応・解決することができた。 ○月１回の特別支援委員会を定期的に設定し、SCさんにも出席してもらい、カウンセラーの立場でのご意見・ご助言や児童観察の視点を教えていただくことができた。 ○担任による教育相談の時間（学期ごと）を位置づけ、SCや関係機関との連携を図ることができた。 ○高学年を中心に、行事の司会進行を行ったり、全校集会や授業参観、保護者説明会等でプレゼンテーションをする機会を多く設定したりした。これらを年間継続して取り組むことで、「聴き手に分かりやすく伝える」ことを意識して話せるようになってきた。 ○３年生以上の社会見学では、めあてを意識し、事前学習をしっかりとさせることで、当日の見学先では自分が知りたいことをしっかりと質問することができた。	

重点目標４	地域と連携した安全・健康・体力の向上	4
主な方策 成果と課題	○地域やPTAと連携して通学路を点検し、要望を上げることで、児童にとってより安全な通学路の環境整備改善につなげることができた。 ○「交通安全・あいさつ運動キャンペーン」を毎学期実施・依頼し、地域関係者の方々、PTA、学校が連携して児童を見守ることができた。 ○「業間かけ足」や「業間なわとび」を継続して行い、運動場遊具やボールを整備することで児童の体力向上を推進することができた。 ○新型コロナ感染症予防をしながら「水泳指導」を実施することができた。また、ため池が多い地区の為、水難事故に備えた「着衣水泳」、１・２年生にはとみまつ隊、６年生には中学校自転車登下校に備えた交通安全教室を実施することができた。 ○地域の方と連携し、４年生は防災倉庫の役割について、児童の意識を高めるための「防災教育」に取り組むことができた。５年生は、自然教室の昼食時に防災用カレーを食べ、家庭科の調理実習では「防災パッククッキング」を体験した。 ○新型コロナウイルス感染症対策を全学年で継続し、２学期以降、学級閉鎖を回避することができた。	

２　改善方針

○ICT機器の効果について３年間研究を積み重ねてきたが、使用効果について引き続き学力向上の検証を市教委の支援を得ながら図りたい。 ○台風や雷、大雪時は、地域CSやPTA、近隣校と連携し、通学路安全点検の協力を依頼したり、登下校時刻変更や休校等、臨機応変に判断したりしたい。 ○学力や体力の向上を目指すための学校の取り組みを継続して行うとともに、挨拶奨励や読書推進のための保護者啓発に努めたい。 ○地域の実情に応じた「着衣水泳」「自転車交通安全教室」「防火・防災教室」を次年度以降も実施したい。「小規模校対策事業」については、教職員の勤務時間縮減を考慮しつつ近隣校との交流を継続したい。 ○新型コロナウイルス感染症対策を全学年で継続しながら、地域の教育力を活かしつつ、学校行事と地区行事のコラボを推進していきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　保々小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	主体的で、集団的・協働的な授業づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・主体的に探究したくなる授業づくり。 ・なかまの思いをきき取り、自分の思いを話すことができる子どもの育成。 ・本時の学びを振り返る活動を大切にした授業づくり。 ・授業をはじめ、様々な活動で「書くこと」を大切にする。 ・ICT機器を活用し、他者と協働的に課題を追求する活動。 （成果と課題） ・日々の授業においては、子どもの疑問を出発点として、めあてを設定することで、子どもが主体的に探究したくなる授業をつくることができた。「算数の学習内容はよく分かりますか」の質問に86.1%の児童がおおむね高評価を示している。 ・「書くこと」を研修のサブテーマに据え、自分を見つめられるように取り組んできたが、自分の思いをまわりになかなか伝えられない子どもの姿があった。 ・ICTの利用は高まっているが、協働的な学びとしての活用をさらに進めていく必要がある。	

重点目標２	支え合うなかまづくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・なかまの考えや思いをきき合い・語り合うことを通して、自尊感情を育む。 ・お互いを認め合う学級づくり ・委員会や係活動などの自主的な活動や掃除への取組。 ・ルールやマナーの順守など道徳心の修得。 ・人権問題を解決しようとする子の育成。 ・自分の生き方について学び合う人権総合学習・生活科への取組み。 （成果と課題） ・「自分の思いを相手に話せていますか」の質問に80.9%（前年比プラス4.5%）の児童が概ね高評価の回答であったが、約2割の子どもが話せていない。自尊感情が低い子どもの姿もある。 ・人権総合学習、生活科で人との出会いや体験を通し、差別をなくすために自分たちにできることを考え、学びを深められるよう取り組むことができた。しかし、日常の場面においては、まだまだ弱さも見られた。	

重点目標３	組織的かつ計画的な支援体制づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・場に合わせた挨拶ができる子の育成。 ・図書館の整備。朝の読書を通した読書好きな子の育成。 ・基礎学力充実タイムによる基礎学力の定着。 ・特別支援教育の充実。 ・家庭と連携した生活習慣（早寝早起き朝ごはん）定着、自主的な読書習慣、家庭学習定着の取組。 ・こども園小中高が連携した支援体制づくり。 （成果と課題） ・図書館まつりや朝の読み聞かせ等、読書に親しむ機会を増やしてきたが、読書をするることが好きと答えた児童は年々減少傾向にある。 ・保護者、児童ともに「すすんで挨拶ができていますか」の質問では、おおむね高評価の回答がともに減少した。	

重点目標４	地域の人、文化、自然に学ぶ・人がつながる学校づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人がつながる活動への取組。 ・人権総合学習・生活科の活動に地域の方に学ぶ・人とつながる活動の積極的な取り入れ。 ・フリー参観、懇談会、講演会、保々のつどい、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民の参画の更なる推進。 （成果と課題） ・コロナ禍の中、感染症対策を十分に行いながら保護者や学校運営協議会の方々に教育活動を公開し、子どもたちの様子を伝えることができた。また、自然に親しむ会や農工商アドバイザーの方に指導していただき、子どもたちの学習を進めることができた。学校は保護者や地域の方が授業などに参加する機会を設けていますかの保護者への質問では、91.1%の保護者がおおむね高評価の回答をしている。 ・学校行事においては人数を制限せざるを得ない状況もあり、地域の方への公開をすることはできなかった。	

重点目標５	安全・安心な学校づくり	3
主な方策 成果と課題	（主な方策） ・スクールカウンセラー等を活用し、子ども・保護者の心のサポートへの取組。 ・いじめ、なかまはずしのない学校を、子どもたちと共に創造。 ・学校・学年・学級だより、ホームページを通して、教育活動のねらいや子どもたちの姿、学校の様子を積極的に発信。 ・児童の安全意識・防犯意識づくりに取り組み、自分の命を守ることができる子の育成。 ・感染症対策に考慮した学校運営。 （成果と課題） ・年間３回のアンケート、教育相談を実施し、いじめや子どもの悩みの把握に努めることができた。いじめや仲間はずしはしていませんかの質問に、97.8%の児童がおおむね高評価の回答をしている。 ・学校における感染症予防に向けた約束など全職員で共通理解を図り、状況に応じて、常に協議をしながらすすめることができた。	

２　改善方針

・すべての学年において、様々な人権課題にせまりながら自身の生き方や考え方を問い直していく人権総合学習（生活科）を柱として、なかまづくりや学力保障の充実を図り、だれもが安心していきいきと学ぶことができる学校になるよう教職員の研修を積み上げていく。そして、子どもとともに学び、考え、反差別の集団になれるよう取り組んでいく。
・ICTの活用について、授業で積極的に活用し、子どもたちが操作を理解し、慣れていく取組が必要である。ICTを活用した協働的な授業づくりのため、教員の研修（ミニ研修や職場OJTの活用）を充実すると同時に、自分のスマホやゲームで間違った使い方（課金やゲーム依存、SNSを通した悪口等）をしないよう、学年に応じた指導に取り組む。
・児童の頑張りや思い、願いを大切にしながら活動を工夫し、思いをさせる環境をつくる。今年度の学校評価アンケートでは、「自分のよいところが分かりますか」「自分の思いを相手に話せていますか」などの児童の肯定的回答が減少傾向にある。つながりを大切にするとともに、教職員が、子どもの思いや考えを丁寧に聞き取り、背景を含めて理解することで、子どもたち同士が聴き合い語り合えるような安心できる環境を今後も引き続き作っていく。
・これまで通り、学校図書館司書を中心に、図書室の環境整備や蔵書の増数、図書館まつりや読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施を継続するとともに図書に関わる環境や啓発を行っていく。
・運営委員会のあいさつ運動を行い、保護者へも啓発していく。
・新型コロナウイルス感染症の制限が緩和されれば地域の方にも様々な学校行事を公開し、子どもたちの様子を見ていただき、地域とともにある学校づくりをすすめていく。
・いじめは、「どの子どもにも、どの学校にも起こりえる」という認識で、今後もいじめ防止のための積極的な取り組みと、いじめが起きた時には積極的認知と解消に向けた取組を進めていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　泊山小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇朝の学習における計算練習や漢字練習への取組 〇算数科における3年生のTT指導、４～６年生の少人数の習熟度別クラス編成 【成果】 ・各学年で用意したプリントを中心に進めることで、学習内容の定着や前日の学び直しにつながる学習にすることができた。 ・習熟度別のクラス編成の際には、レディネステストと児童本人の意向を合わせて考慮し、児童の実態に合わせたコースで学び、学習意欲を高めることができた。 【課題】 ・ICTの活用やミライシードの利用など工夫して、個々の課題にあった学習を進めるとよい。 ・学力の低い児童への個別指導に力を入れたが、授業を十分に理解している児童の学力をさらに上げる手立てが不十分であった。	

重点目標２	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇運動の面白さを体感できる体育科の授業づくり 〇食育・保健指導の充実 〇今日的な課題と特別活動や様々な教科等を関連付けた授業づくり 【成果】 ・感染症対策をしながら、子どもたちが「楽しい」「またやりたい」と思える授業づくりに努めることができ、その取り組みは保護者にも評価されている。 ・一人ひとりを大切にする学級づくりについて研修を進め、自尊感情が少しずつ高まりつつある。 【課題】 ・「安心して生活できる」学校づくりに関して、さらに研修や活動が必要である。子どもの心の声や生い立ち、家庭背景をつかむことをより大切にしたい。	

重点目標３	未来を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇主体的に取り組む清掃、当番、係、委員会活動等特別活動の推進 〇地域の人材と資源を生かした生活科、総合的な学習等の充実 【成果】 ・児童会、委員会活動で子どものアイデアを取り入れたり、子ども自身が自主的に動けるような取り組みを進めることができた。 ・梅ちぎり、梅林史、南部丘陵公園探検、防災教室等学年に応じた取り組みができた。 【課題】 ・学期ごとの自主的な活動を記録したり振り返ったりするツールとして、キャリアパスポートを活用することが出来ていない。 ・各活動にSDGｓの意識取り入れるために、年間を通じての活動の見通しをもつ。	

重点目標４	個の理解と伸長	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇生徒指導体制と特別支援教育指導体制の両輪化 〇登校や学習に苦戦する子どもの指導の工夫 【成果】 ・特別支援委員会に生徒指導の視点を取り込み、子ども一人ひとりの課題を多角的に捉える取り組みを進めることができた。 ・登校に課題をもつ児童を指導するにあたり、学校・家庭・地域で協力体制をとることができた。サポートルームを活用し、個別の課題をもつ児童への支援を充実させることができた。 【課題】 ・日頃からの保護者とのつながりや家庭訪問が少なく、その行動こそが0次対応につながるという意識が低い。 ・登校に課題をもつ児童の受け入れ態勢が組織として整っていない。	

重点目標５	地域との協働	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 〇コミュニティスクール運営協議会等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施 〇ホームページでの教育活動の内容や様子の発信 【成果】 ・教育活動アンケートで保護者から概ね肯定的な評価を得られ、泊山小学校の教育活動に対してご理解・ご協力していただいていることがわかる。 ・ホームページでは、毎日の子どもたちの様子を伝えると共に、行事予定やPTA活動についての記事も随時更新することができた。 【課題】 ・コロナ禍で中止や縮小されていた行事が復活しつつあるが、ビルド＆ビルドにならないよう、子どもたちに本当に必要な教育活動を中心に行事を組み直す必要がある。	

２　改善方針

【重点目標１】
・基礎学習の定着を図り、習熟度別の少人数教育におけるそれぞれのクラスの特性を理解したうえで、児童が主体的・対話的に課題に取り組めるよう授業改善を推進する。
【重点目標２】
・体を動かすことの心地よさや心身の健康の大切さを感じ、自ら工夫しながら成長していく自分を肯定的に捉えられるような活動を展開する。
【重点目標３】
・年度当初に学校や学年、学級のために主体的に活動できる場や時間の確保について教職員全体で共通理解し、見通しをもって計画的に進める。
【重点目標４】
・登校や学習に苦戦する子どもの居場所づくりを工夫し、誰もが安心して登校できる学校づくりを進める。
【重点目標５】
・コミュニティスクール運営協議会を中心としたボランティア活動について議論し、1年かけて準備を進める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　常磐西小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	１　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・問題解決能力向上のための５つのプロセスを意識した授業づくりに取り組んだ。プロセスの「深める」に重点をおき、「深める」とはどういう姿なのかを全職員で共有し、「どう深めるのか」「何を深めるのか」について考えることで、各プロセスの組み立てを行った。 ２　ICTを活用した教育活動の充実 ・ドリルパークを活用して個の学びに応じた学習場面を取り入れることができた。 ・調べ学習や発表、ふり返りに用いる等、授業の中で考えるツールとしてタブレットを使用する機会が増えた。 ３　学校教育活動全体における言語活動（読む・話す・聞く・書く）の充実 ・タブレット多用の反面、自分の考えを書く、人前で聴き手に伝わるように説明する、友達の意見を聞いて話し合うなどの言語活動をすべての教科に於いて大切にしてきた。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	１　人権教育・道徳教育の充実 ・各学年の発達段階に応じた人権教育を行うことができた。 ・人権的な課題に対しては、子どものサインを見逃さず、何か問題が起こったときは学年集団で対応を協議し、全職員で情報を共有しながら指導に当たることができた。 ・今後も、様々な人権課題を抱える子どもたちの様子を日々見逃すことなく把握するとともに、人権感覚を養う指導をしていく必要性を再確認した。 ２　読書活動の充実 ・図書ボランティア、図書委員、教師等による読み聞かせの機会を多く設定し、読書活動を充実させた。 ３　体力・運動能力の向上 ・全学年が体力調査を実施した。 ・授業のはじめに本時の課題を提示し、めあてをもって活動に取り組むことができた。また、授業の終わりにはワークシートを使って振り返りを行い、次の活動へと繋げていくことができた。 ・人との距離を保ちながらでも運動量が多くなるように意識して授業づくりを行い、体力の向上を図った。 ４　健康教育・食育の充実 ・栄養職員と連携しパワーポイントで動画やスライドを作成し、行事食の紹介を行った。 ・食に興味を持たせるために、日めくりカレンダーを作成し掲示した。また、よく噛んで食べることの大切さや食品ロスを減らすことを呼びかけ、食の大切さを意識せていくことができた。 ・月に一度「メディアチェックデー」を設定し、メディアの使用頻度を減らす啓発活動を行い、メディアの使い方を見直す機会となった。 ・養護教諭と連携し、全学級で歯磨き指導、保健指導を実施した。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	１　吉田山をはじめとした地域の特色を活かした学習・体験活動の推進 ・吉田山の環境を地域と方と共に整備し、生活科、理科の学習や総合的な学習での森林教育・環境教育など、豊かな自然を活用した学びを行うことができた。 ２　キャリア教育の充実 ・働く人との出会いを通して、思いや願いを知ることができた。また、今の自分にできることを考えることができた。 ３　防災・安全教育の充実 ・学期の始めには避難訓練を実施し、災害が起きた時の避難の仕方を確認することができた。また、防災教育も各学年で行い、防災ノートや防災みえから配信されている動画を活用して、授業時間外での避難の仕方について確認することができた。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現	4
主な方策 成果と課題	１　学びを支える効果的な指導体制の充実 ・基礎学力の定着を図るため、ぐんぐんタイムの学習内容を学年ごとに見直し、継続した取組を行った。 ・空き教室がなく習熟度別の授業ができない実態があるが、TTと打ち合わせを行い、個別の支援を行うことで学力の向上に努めることができた。 ２　特別支援教育・教育相談の充実 ・特別支援教育に関する研修会を年3回行い、特別支援教育に関する研修の充実を図ることができた。 ・各クラスにおいて教育のユニバーサル化を進めることができた。 ・養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、保護者・児童の教育相談を充実させた。 ・支援の必要な児童について、年度初めに共通理解を図り、不登校対策委員会とも連携し、組織的な対応をすることができた。 ・月1回の特別支援委員会では、日頃の児童の様子や支援の方法を共有した。議事録は全職員に回覧し、情報共有を図ることができた。 ・不登校対策委員会を定例化し、対応を担任任せにするのではなく学校として協議しながら進めていくことができた。 ・学期に1回いじめアンケートを実施し、生徒指導部会や校内いじめ防止対策委員会で情報共有を図り、早期解決に向けて組織的な対応をすることができた。 ３　安心して学べる学校生活の充実 ・担任は教育相談や学校教育アンケートやQU調査やシャボテンの入力結果（高学年）から一人ひとりの子どもの思いを汲み取るよう努めてきた。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	１　子ども一人ひとりの成長を支える支援の充実 ・基礎学力の定着を図るため、ぐんぐんタイムの学習内容を学年ごとに見直し、継続した取組を行った。 ・空き教室がなく習熟度別の授業ができない実態があるが、TTと打ち合わせを行い、個別の支援を行うことで学力の向上に努めることができた。 ２　地域と協働した学校づくり ・今年度も引き続きコロナ禍であったが、ゲストティーチャー等を招いての教育活動の継続に取り組めた。吉田山を活用した森林教育・防災教育・サツマイモ栽培・昔遊びなどで地域の方にご尽力いただき活動を進めることができた。今後も「学校・家庭・地域」のトライアングルを意識し、子どもたちのために協働して学校教育をすすめていきたい。 ３　ともに学び合う教師集団の確立 ・学年部を中心に教材研究を深めたり、指導方法を協議したりして、研究主題（「なかまとともに学び、自ら考え向上しようとする子をめざして」～確かな学力を育成する授業づくり～）を意識しながら研修を進めることができた。また、全教職員が年に１回は指導案を作成し、授業公開・事後研修会を持ち、教師力の向上に努めた。 ・学期に１回ミニ研修週間を設け、他の教職員の授業を見て互いに学び合うことができた。 ・授業でのタブレット活用についても、学年部を中心に効果的な活用方法を考えたり、夏季研修会を行ったりして、互いに学び合うことができた。	

２　改善方針

・習熟度別少人数学習を実施するための環境づくりやカリキュラム編成を行っていく。実施の際には、単元のねらいや子どもの実態に合わせてティームティーチングや少人数指導を効果的に組み入れていく。 ・ICTを効果的に活用する授業づくりについてさらに研修を進めていく。また、画面ではなく紙に書く・言葉で話すなどの言語活動についても引き続き力を入れて指導していく。 ・人権教育について、何気なく発してしまう日々の子どもの言動から人権感覚を養う指導の継続的必要性を感じている。 ・全職員で共通理解を図りながら一人ひとりの子どもを大切にした特別支援教育を進めていく。さらにきめ細かく保護者に子どもの様子を伝え指導の方向性などの共通理解を進めていく。 ・働き方改革の観点から、勤務時間短縮の意識を高める具体的な取り組みを継続して行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　三重西小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力を育てる	4
主な方策 成果と課題	①今年度も、３～６年生において習熟度別少人数授業（算数）を行った。習熟度別少人数授業では、単元ごとに児童自らが授業のコースを選択している。児童の実態に応じて、課題の与え方や、学習の進め方を工夫したことで、安心して授業を受けることができた。児童からも「少人数算数は楽しい」という声が多く聞かれた。 ②学校児童アンケート「授業は分かりやすい」の項目に係る肯定的な回答をしている児童の割合は９２％であった。とても、うれしい結果である。ただ、これからは、「教師がわかりやすく教える授業」から「自ら考え学びを深める授業」にシフトチェンジしていかなければならない。児童には、「自ら課題を解決し、それを周囲によりよく発信する」力が求められる。教員は、既存の授業スタイルを見直し（アップデート）、常に自らを再構築（ブラッシュアップ）しながら授業改善、授業づくりに取り組むことが次年度の課題である。	

重点目標２	こころとからだを育てる	4
主な方策 成果と課題	①学校児童アンケート「友だちや大人の人に進んであいさつをしている」の項目に係る達成度の経年変化に目を向けると、昨年度から若干の減少である。肯定的な回答をしている児童の割合は81.2%であった。約２０％の児童が「積極的にあいさつをしていない」という現状である。この傾向は、高学年になるほど顕著である。進んであいさつができる子どもを育成するためには、高学年になる前の段階である「中学年（３～４年生）」をターゲットにした重点的な取り組みをすることが効果的であると考える。次年度のテーマの一つにしたい。 ②今年度、学校児童アンケート「どんな理由があっても、いじめはいけないと思う」の項目に係る数値の向上を教員のテーマの一つに掲げた。「絶対にいじめを許さない学校にしよう！」という熱い思いで重点項目に設定した。結果は、0.1ポイントの上昇であった。微増ではあるが、これは、私たち教員にとってうれしいことである。否定的な回答をした児童の割合は1.2%（4人）である。「いかなる理由があろうともいじめは許されないのだ！」ということを子どもたちに伝えるのが私たち大人の使命である。道徳等の授業実践はもちろんのこと、日々の生活のなかでも子どもたちに伝え続けていきたいものである。 ③児童アンケートの結果より「高学年の外遊び離れ」が明らかになった。外遊び等を通して、体力の維持向上を図るため、外遊びの推奨に加え、体育科の授業改善を進め、運動量の確保を目指し、行事や児童会活動も充実させたいと考える。	

重点目標３	夢と志を育てる	3
主な方策 成果と課題	①今年度、総合的な学習の時間の観点に「自己の生き方」という項目を加えた。学びを通して、「常に自分の将来を意識させたい」という願いからである。社会見学・修学旅行・自然教室などの行事からも、自己の生き方を考えることができると考える。児童が、自らの将来に夢をもち、大きな志をもってこの地区から羽ばたくための素地を育みたい。今年度、諸々の行事等に係る感想を見ると、児童は、総合的な学習の時間や行事を通して、自らの生き方についても考えることができたようだ。消防署に行った3年生は「将来、消防士になってみんなの役に立ちたい」という感想を記していた。次年度以降も、単なる知識の習得にとどまらず、自己の生き方を深く考えることができる実践に取り組みたいと考える。 ②自らの将来を豊かにするためには、コミュニケーション力の向上は不可欠である。今年度、校内研修ともリンクさせながら言語活動の充実にも取り組んだ。日々の授業で言語活動を意識することで、自分の思いや考えを主張することができるようになりつつある。また、道徳の授業を中心にしながらソーシャルスキルトレーニングにも取り組んだ。すぐに成果が上がるものではないが、地道に取り組みを継続させたい。	

重点目標４	全ての子どもの力を伸ばす学校づくり	4
主な方策 成果と課題	①昨年度から本格的にスタートした「GIGAスクール構想」に係るＩＣＴ活用の授業づくりにも積極的に取り組むことができた。取り組みを通して、「個別最適な学び」、「協働的な学び」について活発な議論をすることができた。次年度は、教師が、分かりやすくていねいに「教える」授業スタイルから、今の時代の新しい授業スタイルへの意識改革・授業改革が求められる。議論を重ね熟成させることが次年度の課題である。 ②「教科担任制」も有効に活用することができた。専門性の高い教員が自ら得意とする教科の担当をしたり、担当する教科を深く集中的に研究・準備をしたりすることで、より質の高い授業が提供できると考えている。さらには、小学校の段階から多くの教員が授業に関わることで、「中1ギャップ」解消に向けても一助となるであろう。	

重点目標５	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	①地域のなかで育まれ、地域のなかで共に成長することで、自らの将来に夢と志をもってほしいと願っている。今年度は、コロナによる制約も少し緩和され「地域に学ぶ・地域から学ぶ」機会も増えたことがうれしい。『三重西地区里山を愛する会　しろやま倶楽部』の支援により3年生は「昔の遊び・昔のくらし」を、5年生は、「里山保全活動」について学ぶことができた。また、『図書ボランティア　どんぐりの会』の方々による読み聞かせの会も実施することができた。 ②「児童としっかりと向き合い、ひとりひとりに寄り添った教育活動をしたい」と考えるとき、日々の業務の多忙化が大きな課題となる。心にゆとりをもって児童に接するための働き方の改善が次年度以降も大きな課題になる。	

２　改善方針

①今年度、習熟度別少人数授業を行い、基礎学力の定着が見られてきた。しかし、算数科では学年が上がるにつれて内容が難しくなり、学力差が生じやすい。よりきめこまやかな指導をしていくためにも、中学年からの少人数授業が望ましい。そのための人員確保が必須である。
②子どもの体力向上に向けて、体育科の授業改善および児童会による外遊び企画の推進を継続させたい。
③「個別最適な学び」をキーワードにしながらＩＣＴを有効に活用した授業づくりに係る研修を一層推進したい。
④勤務時間の削減が急務であり、効果的な教育活動を検討し、業務の精選を行ないたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　大谷台小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	問題解決能力の向上	4
主な方策 成果と課題	〇タブレットを学習のあらゆる場面で活用できた。特に本校の研修課題である「書く」場面において、文章を組み立てる段階でICTを活用することで、何度も消して書き直すことが減り、楽しみながら取り組む児童の姿が増えた。 〇文章を書くときに、構成を意識する子が増えた。 〇校内の掲示板に、児童の書いた新聞や自主学習ノートを掲示することで、児童の意欲を向上させることができた。 △タブレットを学習ツールとしてどのように有効活用していくとよいかを、職員全体で共有していく必要がある。 △めあてと振り返りのある授業を定着させ、学力向上に向けて取り組んでいく必要がある。	

重点目標２	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	〇学校アンケート（児童）において、自己肯定感に関する項目で、肯定的回答が低中学年で大幅に増え、また、高学年でも昨年度と同じ数値結果が出た。自分に自信をもつ取組や子どもたち同士をつなぐ取組の成果である。 △「いじめや差別はいけないと思いますか」の項目で、肯定的回答が100%とならず、昨年度より下がっている。今年度、重大ないじめ事案がなかったことはよかったが、アンケート結果を真摯に受け止め、いじめ防止の徹底を図りたい。 〇生活指導の振り返りシートを活用し、チャイム席の呼びかけなどの生活指導を職員全体でで行うことができた。 △トイレスリッパの整頓、水筒の保管等、学校・教室の環境整備ができていないところがあった。全職員で意識統一し、環境整備を行っていく必要がある。 △読書量が減ってしまった。読書への教員の取り組み意識が弱かった。	

重点目標３	健康な体の育成	3
主な方策 成果と課題	〇体育の授業で、カードやタブレットを活用し、学習活動に生かすことができた。 〇給食中の黙食や手洗いの徹底を意識させ、感染症対策を意識づけることができた。 〇交通安全教室を今年度から再開した。外部との連携授業を行うことで、子どもたちの学びにつながった。 △登下校中や運動時のマスク着用について、臨機応変に対応することが難しかった。 △5分間運動を、単元に合わせて取り組むことが難しかった。 △安全な廊下歩行ができていない。走らないように声を掛けたり走らない工夫をしたりして子どもたちの指導に当たっている。 △清掃活動について、静かにできるように指導していく。 △病院への搬送が必要な怪我が多かった。子どもたちが落ち着いた学校生活を送ることができているのか振り返り、課題解決を図る必要がある。	

重点目標４	全ての子どもの能力を伸ばす教育の充実	3
主な方策 成果と課題	〇たんぽぽバザールを１年生と４年生で実施することができた。１年生には、たんぽぽの学級紹介を行い、たんぽぽの学級への理解が深まった。 〇校内支援委員会を定例化し、児童の情報を職員間で共有することができ、支援の必要な児童への支援体制を充実することができた。 〇算数において習熟度別少人数授業を行った。児童それぞれに合った対応をすることができた。 △少人数授業を担当する非常勤講師との打ち合わせをする時間がもてず、進度の調整が難しかった。 △人手が足りないため、通常学級の中で支援の必要な児童への手立てが立てられないことがある。	

重点目標５	家庭・地域との協働	3
主な方策 成果と課題	○４月に家庭学習の手引きを出し、家庭との連携を取り合いながら家庭学習を進めることができた。 ○学校HPの更新を学年ごとに１か月に２回以上することを目標に取り組み、継続することができた。 △地域人材を活用することは、授業の中では難しかった。	

重点目標６	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	○校内研修における提案授業では、実際に授業を参観する方法を工夫し、できる限りの形で研修を深めることができた。 ○大学の教授に来ていただき、指導助言をいただくことで、研修の内容を共通理解し、整理して研修を進めることができた。 △互いに授業を見合うことが少なかった。見に行ける時間の確保が難しかった。	

２　改善方針

・タブレットの活用方法等のミニ研修を行うなどOJTを活用し、高め合える教師集団を作っていく。
・読書の時間を増やしていく。学習内容と合わせながら、軽重をつけて設定時間を取っていく。読書への意識を高めるための意欲的な活動を取り入れる。教師による読み聞かせなど、工夫した取組を進める。
・いじめ防止にむけて、道徳科などで、仲間を大切にする取組をすすめ人権意識を高める。
・校内支援委員会・毎週の情報交換を丁寧に行い、全職員で子どもの状態把握をできるようにする。委員会等で決まったことは全職員が必ず取り組み、指導の一貫性を持たせる。
・算数における習熟度別少人数授業について、学力向上に向けて検証を重ね、さらに有効活用していく。
・積極的に地域の人材を活用していく。そのためには、教員が地域について学び知ることが大切である。
・互いに授業を見合う日を設定していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　桜台小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着（問題解決能力の向上と学び合いの授業づくり）	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①基礎的・基本的な知識と技能の定着　②思考力・判断力・表現力の育成　③問題解決能力の育成　④ICTを活用した授業創造 【成果と課題】 ・朝の学習、プラスワン学習などで、既習事項の習熟を行うことができた。 ・児童の思考が深まるような課題づくり、お互いの意見を聞き合うような授業づくりを進めることで、児童が多様な考え方をすることができるようになってきた。 ・ICTを活用することで、児童間での意見交流がより活発にできるようになり、難しい問題にも取り組もうとする姿勢が見られるようになった。 ・基礎的、基本的な学力の定着を図るために、継続して取り組んでいく必要がある。	

重点目標２	豊かな人間性の育成（人権教育を柱にした仲間づくりの推進）	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①なかまづくりの推進　②人権教育の推進　③道徳教育の推進　④特別支援教育の推進 【成果と課題】 ・運動会や修学旅行などの学校行事を通して、他者と関わりながら目標に向かって取り組むことで、豊かな人間関係の構築につながった。 ・人権週間を設け、人権に関する授業を行ったり、子どもの作品を掲示したりすることで人権教育に対する意識を学校全体で高めることができた。 ・人権プラザの先生に授業を見てもらい、児童の様子などから授業の進め方についてアドバイスをいただき、新しい気づきがあった。 ・校内支援委員会を中心に、教職員全体で支援・指導が必要な児童に関する情報を共有することで、学校全体で子どもの成長を見守ることができた。 ・問題行動や、トラブルがあった際に初期対応を心がけて対応することで保護者からも理解をしてもらうことができた。 ・必要に応じて、個別にケース会議を行ったり、保護者と担任で面談を行ったりして、きめ細やかな対応を行うことで、児童や保護者と良好な関係を築くことができた。 ・学習内容が日常生活に汎化されていない場面が見受けられたため、保護者と協力しながら多面的に指導を継続していく必要がある。	

重点目標３	健やかな体の育成（健康・安全についての意識の向上）	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①規則正しい生活リズム　②病気の予防（手洗い・うがい・歯磨き指導）や感染症対策　③体育科の授業を中心にした体力づくり（児童の実態に合わせて運動強度を考えた授業づくり） 【成果と課題】 ・日々の健康チェックカードに加え、自然教室や修学旅行にも応用したことで、子どもたち自身が自己の健康を把握することができた。教師側からとしても、生活リズムや体調の把握につなげることができた。 ・体育科の授業を中心とした体力づくりに加え、休み時間には教師もともに体を動かすことで、運動の楽しさを味わわせることができた。 ・運動の楽しさを味わわせることはできたが、自身の運動能力を向上させようとする主体性を育むまでには至らなかった。	

重点目標４	信頼される学校づくり（学校公開・情報発信の充実と地域連携）	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①学校の情報発信の充実　②PTA・地域との連携　③学校評価を活用した学校づくり 【成果と課題】 ・昨年度に比べ、保護者が来校する機会が増えた。 ・年間を通してHPや通信などで、保護者に学校や学級の様子を伝えることができた。 ・今年度もたくさんの地域の方々が、登下校の見守り、学校の環境整備、教育活動のボランティアとして積極的に活動いただいた。 ・地域の行事である「さくら人権大会」「さくら『見守り活動』情報交換会」に子どもたちが積極的に参加をし、学校の取り組みを発表したり日ごろの感謝を伝えることができた。 ・ボランティアの方の年齢が高齢化してきているので、新しくボランティアをしていただける方を募っていく必要がある。	

重点目標５	教職員の資質向上（課題とまとめを意識した分かる授業の実現）	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ①授業改善のための校内研修の充実　②目的意識を持った研修の推進　③OJTの推進　④学校業務改善の推進 【成果と課題】 ・算数科を窓口とした研修に取り組み、全職員が授業を公開することで、授業改善に努めることができた。 ・専門的知見を活かしたミニ研修を必要に応じて行い、学習活動や学級経営に生かすことができた。 ・年度初めに確認した研修主題を意識して、授業を組み立てることができた。全体研修会や学年部研修で授業を見合い、検討することで、個々の資質向上につながった。 ・ICTを活用しての授業づくりをすることができた。 ・仲間づくりレポートの作成を廃止し、子どもたちと接する時間が一番長い授業の中で仲間づくりの視点を持つようにした。焦点化児童を決め、その児童を授業でどう生かすかの視点を指導案などに明らかにし、焦点化児童を通して授業を行うことが周りの児童の変容にもつながった。	

２　改善方針

【重点①】
・授業でICTを効果的に使う場面の検証を行い、児童がICT機器を活用することで「協働的な学び」を充実したものにしていく。
【重点②】
・コロナ禍ということで、異学年で学びあう機会が少なかった。体力向上の観点からも、来年度はきょうだい学年での短縄活動などを実施できるよう検討していく。
【重点③】
・体育科でICTを活用できるように、年間計画などを把握し、効果的な活用の仕方を職員間で共有していく。
・「学びの一体化」の視点からも発達段階に応じた課題を明らかにし、系統的に課題の改善につなげていく。
【重点④】
・地域ボランティアと関わることで、子どもたちが感謝の気持ちを持ち、人間力を高めることができるよう、体験的な活動を通して、子どもの主体的な取組を展開していく。
【重点⑤】
・コロナ対策による日々の作業やICTの活用・管理など、日々の学校業務が肥大化している。教職員の負担を軽減するため、多忙期の日課を見直し、5限日課週間を設定していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　八郷西小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	学力を高める	3
主な方策 成果と課題	【考える子】【基礎基本の確実な定着】【ICT機器を日常的に活用する授業】 【学級に入る教員の複数化】 （成果） ・少人数授業によって基礎・基本の定着が図られつつある。 ・音読だけでなく文章を読むこと、作文や日記を書かせることで、読み書きを習慣づけ定着してきている。 ・ICT機器を活用した授業を行った。特にプレゼンテーションしたり、考えを交流するのに効果的に使うことができた。 （課題） ・自分の考えを自分の言葉で話せるように、話す機会をたくさん作ることにより、自分の思いを伝えることができるようになってきているが、学年に応じた力をつけるためのさらなる取り組みが必要である。	

重点目標２	心を育てる	3
主な方策 成果と課題	【きまりを守る】【仲間と協力する子】【キャリア教育の推進】 【読書活動の推進】 （成果） ・コロナ禍の中、感染対策を講じながらも仲間と協力して児童集会などの活動をすることができた。 ・実際に見たり触ったりする体験的な活動を多く取り入れ、子どもたちにとってとても充実した時間となった。 ・司書におすすめの本を用意してもらったり、図書係に学級貸し出しの本を選ばせたりすることで、子どもたちが本を手に取る機会を増やすことができた。また、読書週間を設けて学校全体で読書に取り組むことができた。 （課題） ・学校のルールを守って行動することを確認してきた。道徳の教材や身近な話題を提示しながら進めてきたが、遊びに夢中になったり、感情のコントロールがうまくいかなかったりして、指導が必要な場面が見られた。 ・読書活動については、子どもたちの興味関心にばらつきがある。良い本に触れる機会をたくさん設けてあげたい。 ・仲間意識を高めるため活動をさらに取り入れていきたい。	

重点目標３	健やかな体をつくる	3
主な方策 成果と課題	【自らすすんで命や体を大切にする子どもを育てる】【根気強くやり遂げる子】 （成果） ・なわとび週間や持久走など体作りの基本となるような取り組みを実施し、個のスキルアップにつながった。 ・毎月の生活目標や生活習慣の授業と関連付けて、健康な体をめざすために必要なことを話し合った。また、自分の命・周りの人の命を大切にする話は道徳の授業で行った。子どもなりの考えで、命の大切さを感じ取っていた。 ・代表委員会を通して、健康を意識できるような目標を子どもたちと立て、全校で取り組みを行った。 ・体育では、ワークシートを使い、自分の頑張りや伸びを記録できるようにした。苦手な技にも取り組む子が増えていった。 （課題） ・子どもたちが生活上の課題に自ら気づき、よりよく改善していくために、家庭での協力をお願いし、保護者と連携して進めていきたい。 ・運動への意欲を高め、日常的に運動に親しむための環境づくりを行っていく。	

重点目標４	教師力を高める	3
主な方策 成果と課題	【わかる授業づくりのための工夫】【個に応じた教育の充実】 【働き方についての意識改革の推進】 （成果） ・研修会によって人権や安全、授業作りなどの教師力が向上された。 ・児童とコミュニケーションを取ること、保護者との連絡を密にすることで、児童一人ひとりの実態を把握することを心掛けてきた。 ・議論し合える発問作りを意識することで、自分の考えを話そうとする子どもの姿が増えた。 （課題） ・授業公開週間の設定など、教職員同士が相互にスキルアップできる取り組みを考えていく必要がある。	

重点目標５	地域とつながる	3
主な方策 成果と課題	【コミュニティースクールを推進する】【単学級であることをメリットに】 【教育活動を地域に公開する】【地域の人とつながる場を工夫する】 【通信やHPによる情報発信の充実】 （成果） ・コロナ禍で中止となっていた行事や教育活動を再開し、地域に公開することができた。 ・通信やHPによる情報発信をすることができた。また、授業参観を通して、学級の様子を見てもらうことができた。 ・地域の方の来校時には、児童にたくさんの声をかけて頂いている。地域と学校のつながりは強い。 ・年間を通してグリーンボランティアの方に来ていただき、学校林で活動を行うことができた。 ・陶芸教室では、細かい部分まで地域の方に教えていただくことができた。 ・防災マップづくりでは地域や保護者の方の協力を得て、地区のことを知ることができた。 （課題） ・少人数ならではの行事や活動をさらに生かしていきたい。	

２　改善方針

・少人数授業によるさらなる学力の底上げを図っていきたい。来年度も同じような形で実施していく。 ・きまりを守る児童がほとんどであるが、きまりを守れない児童も一定数いる。きまりを守ることの大切さをしっかり教えていく。 ・学校の課題を全職員が知り、課題を解決するための方策を探っていく。全員が同じ目的意識をもつようにしていきたい。 ・小規模校のメリットを生かした、教育活動に取り組んでいく。様々な場面で深い学びにつながるよう、教師間での協力体制、保護者・地域との連携を図っていく。 ・体力の向上を図るために、子どもが外で遊ぶのが楽しいと思えるような活動を工夫する。また、目標を持って体力向上を目指す子どもの育成を考えていく。 ・ICTを活用した学習活動のさらなる推進を図っていく。 ・教職員間のコミュニケーション不足の解消および報告連絡相談の徹底を行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　三重北小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の向上	4
主な方策 成果と課題	○主体的・対話的で深い学びのある授業と協働的（聴き合える関係）な学びの創造 　全教員で「研修の日常化」を図り、互いの授業改善を進めてきた。全ての学級で、普段から、聞き合う関係を土台にした「わからない」を中心に据えた授業づくりを進め、児童一人一人に学びのある学習の実現を目指すことができた。そして、聞き合う関係を軸とした授業づくりの成果として、タブレットを介した協働的な学習を進めることができた。 ○学習習慣・読書週間の構築 　学校評価アンケートにおいて「家庭学習に取り組めている」という児童の回答が増えた。タブレットを使った宿題（ミライシード）を取り入れたり、自主学習ノートを掲示したりする取り組みの成果といえる。 　読書意欲の向上や本に出会う機会の増加を目指し、委員会が中心となって、スタンプラリーやビンゴを行ってきた。また、読み聞かせやブックトーク、読書会を定期的に行った。しかし、保護者アンケートから進んで読書をしている児童の減少も年々見受けられるため、家庭での読書の推進についても取り組みを考えていくべきである。	

重点目標２	健康・体力の向上	4
主な方策 成果と課題	○運動の中心となる面白さを大切にした体育科の授業づくりと運動の日常化につながる教育活動の創造 　授業のはじめを学びのはじまりとして捉え、新5分間運動を取り入れ、主運動とのつながりを意識した授業を進めてきた。また、体力テストの結果から、全学年で投運動に取り組み、体力向上を図った。 　運動の日常化を目指し、体育の授業を土台に、児童が「したくなる」「やりたくなる」活動（課題）の創造を大切にしてきた。今年度児童アンケートから、進んで外で遊んでいる児童の割合が減少した。引きつづき業間休みには教員も外に出て児童と遊ぶよう努めていくべきである。 ○家庭と連携した健康指導（生活リズム・姿勢教育） 　生活リズム向上推進校として、昨年度に引き続き今年度も取り組みを行った。保健指導後に「歯みがきがんばり週間」や「排便チェック週間」を実施したり、「正しい姿勢を身につけよう」というテーマで、保護者・高学年の児童を対象とした講演会を開催したり、家庭と連携した児童の生活リズム向上への取り組みを進めたりすることができた。特に今年度は姿勢に力を入れ、全学年に姿勢について保健指導を行ったり、立腰タイムを朝学習の前に取り入れたり、全校で正しい姿勢について考える機会を持つことができた。今後も、継続した取り組みが望まれる。	

重点目標３	豊かな人間性の育成 自己指導能力の育成	4
主な方策 成果と課題	○問題の早期発見・早期対応と自己指導能力の育成 　情報共有シート等を使い、全職員が日常的な児童の様子の共有、共通理解に努め、一貫した対応を目指した。また、学期ごとにいじめアンケートや教育相談を実施し、問題の早期発見・早期解決を目指した。児童の行動の問題や支援が必要とされる姿に気づいた場合は、担当職員が中心となっていじめ対策委員会やケース会議等を開催し、組織として対応策を検討することができた。学校生活上の問題では、単にルールを提示するのではなく、児童自身が自分を振り返る機会や問題の解決に向け考える機会がもつことに努め、児童の自己指導能力の育成を目指した。 ○豊かな人間性の育成とあいさつ運動 　児童会を中心に挨拶運動を行ってきた。「挨拶しなさい」ではなく、朝の登校の見守りや、ゲストティーチャー・ボランティアなど多くの地域の人に支えてもらっていることを知り、挨拶で感謝の意を伝えようとする豊かな人間性の育成を目指した。	

重点目標４	学び合う授業の追求	4
主な方策 成果と課題	〇研修の日常化（日々の授業公開、交流、教材研究） 　全体研修会や公開週間、日常的な授業を普段から教員同士で見たり、授業内容について話したりする文化を教職員間で広げることができた。単学級の学校なので、日常的に学年を超えて、共に教材研究を進める姿が見られた。そうすることで、系統性を意識した授業づくりを行うことができた。 〇「三重北モデル」の実践と深化 　小規模校のため教員の異動の影響が大きく、年度当初の課題は、「三重北モデル」の共通理解である。今年度も4月当初に、実際の授業に基づいて目指す授業や子どもの姿の共通理解を図った。そして、年間を通して全教員が学級を開き、研修会を重ね、大学連携を活用し、専門的な視点から助言をいただきながら三重北モデルの深化を図っていった。更に公開研究会では、今年度の本校の研究や「三重北モデル」について校外（市内・市外）の教員と意見交流を行い、教員としての専門性を高めた。しかし、共通理解を図れていない部分（ビジョンや理論）も見られるので、年度初めの時間を質の高いものにするために考える。	

２　改善方針

・タブレット等のＩＣＴを効果的に活用し、授業に活かすことができつつある。今後はＩＣＴ活用と管理を分け、授業改善や情報モラル教育の充実を図り、発達段階に応じた到達度目標を立て、実践を積み重ねていきたい。 ・意欲的に読書活動に取り組んでいる児童が増えてきた。今後は外部講師を招き、読書活動の充実を図っていくとともに、教科を通して学習内容と関わった本の紹介、読書週間の実施、朝読等日頃の取り組みを大切に推進していく。 ･「自分からあいさつできる」については大人が範を示し子どもに挨拶し、地域全体として取り組む必要がある。「あいさつ標語」の取り組みを地域にも広げ、様々な教育活動において取り組みを進め、自然に挨拶できる子の育成を目指していきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　羽津北小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	自ら学び、確かな学力を獲得する授業の構築	4
主な方策 成果と課題	【成果】 ・基本的な学習は反復練習を行わせたことで、児童に力を付けられてきている。 ・学年で指導法について常に話し合う時間を取り、児童に分かりやすい授業を行うことができた。 ・視覚支援を大切にし、工夫をして教材を作成し授業を行うことができた。 ・授業に話し合いを少しずつ取り入れ、学び合いができるようになってきた。 ・自主学習ノートの取り組みを学校全体で行わせ、友達のノートをお手本にして取り組ませたことで、児童のノートの質が上がってきた。 ・算数科では、ＴＴや少人数指導を行うことで、学力の定着を図ることができた。 【課題】 ・自主学習など、自ら進んで学習する態度が付いてきたが、常に「学びたい」と感じさせながら学習に取り組ませる工夫が必要である。	

重点目標２	こころとからだの健全な育成	4
主な方策 成果と課題	【成果】 ・学年間でこまめに情報共有を行い、協力しながら個に応じた指導に取り組んだ。そのことで、いじめを生まないクラスづくりができている。また、学年集団づくり、学級集団づくりに生かすことができた。 ・マラソンを学年で取り組み、個々のペースで走らせたことで体力の向上に繋がった。 ・児童の日記やふりかえりを通信などで紹介したことで、児童の相互理解が生まれた。また、相手をおもいやる心を育てられた。 ・道徳科の研修をすることで、たくさんのことを学ぶことができた。また、普段から人権に関する情報提供や問いかけをするなどして、児童の人権感覚を育てられた。 【課題】 ・夏には熱中症の心配があり、水泳の授業など、外で活動できない日も多くあり、児童が外へ出て活動する意識が低下してしまった。	

重点目標３	よりよい未来社会を創造する力の育成	4
主な方策 成果と課題	【成果】 ・避難訓練で、防災ノートを活用して様々な場面での防災意識を高めることができた。 ・校外活動や秋見つけで、地域の公園を活用し、自然を感じることができた。 ・児童が、校区に関わりのある「藤総さん」「清水さん」の話を聞く機会が持たせられた。また、見学・体験を通して地域に関心を持たすことができた。 ・コロナ禍の中、クラブや授業で可能な地域連携の体験学習を行った。また、ばんこの里に出かけたり額突山の竹明かりを製作したり、地域と繋がる取り組みができた。 ・子どもの将来を見据えて授業を組んだり、生活指導をしたりすることで、児童の未来につながる力を育むことができた。 ・不審者に対する訓練を行うことができた。 【課題】 ・教職員が、陶芸指導の研修機会を持てなかった。今後、誰でも陶芸の指導できるようになっていく必要がある。	

重点目標４	学びの保証	3
主な方策 成果と課題	【成果】 ・個に応じて、各関係機関と情報を共有し、支援を進めることができた。 ・担任だけでなく、様々な教員が協力をして、児童の様子を見ることができた。 ・不登校児童には支援員の存在が大きく、心の安定に繋がっている。保護者との対話を重ねたことで、課題はあるものの、児童が登校できるようになってきた。 ・学年で児童の様子を共有し話し合うことで、個に応じた指導や指導体制を充実させることができた。 【課題】 ・ＳＣ以外にも、保護者が気軽に相談できる所があるなど、より充実した指導体制が作れるとよい。 ・人手が少ないので、教職員や様々な専門家などの環境整備が必要である。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【成果】 ・学年だけでなく、学年部で協力をしながら、研修を進めることができた。 ・陶芸家の清水さんやクラブでの地域協力者の方々の協力を受けられた。 ・道徳科の授業において、学年全体で指導案検討や授業を行い、児童の反応を見ながら、より良い授業作りがてきた。また、道徳の授業展開や発問について考え合う教員の姿が見られた。さらに、教職員には、学年を越えて学び合う姿も見られた。 ・実効性のある業務効率化・削減案を提案実行することで、働き方改革の実現ができつつある。 ・心理的安全性を意識して指導に当たる教職員が増えてきた。 【課題】 ・働き方改革の意識が定着しきれていなかった。 ・問題が起きたとき、専門家などがすぐに入ってくれる体制が取れるとよい。	

２　改善方針

・自主学習では、児童自身が課題を見つけて、進んで取り組めるように指導・支援していく。
・新５分間運動などを積極的に取り入れ、休み時間に児童が進んで体を動かしたいと思えるような授業を展開していく。
・感染症対策を取りながら、地域の力を活用したり地域に発信したりしながら、様々な活動を実施していく。
・学年担任制を導入し、保護者が相談しやすい体制を取っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　内部東小　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	安全・安心で保護者や地域に信頼される学校	4
主な方策 成果と課題	○５年目になる、コミュニティスクールの取り組みが進んできている。外部の声を基にした取り組みが進められ、さらに効果的に協働できると良い。 ○保護者対象にアンケートを実施して、学校教育に対するニーズを把握したり、達成度の状況を確認したりすることで、学校教育ビジョンに反映させるなど教育活動を見直し、改善につなげることができた。また、米作り、クラブ活動、読書推進にかかる取り組み、采女城址の見学、学習の森やトンボの池の環境整備等の教育活動に、保護者や地域の方々の協力を得ることができた。今後も家庭や地域と協力しながら子どもを育てるという姿勢を大切にしていきたい。 ○学校だより、学年通信、ホームページ等で、学校からの発信について約９割の保護者から賛同を得た。さらに充実させていくと同時に、オープンスクールや懇談会等、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。	

重点目標２	一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行う学校	3
主な方策 成果と課題	○５・６年生において教科担任制を実施したことで教材研究の充実及び学年団で指導する体制が組めた。 ○３年生以上の算数科で、少人数教育、Ｔ．Ｔを実施したことで、算数に苦手意識を持っていた子どもたちに学習意欲を持たせることができた。 ○家庭学習に継続し取り組んだことで、基礎的な学力、家庭学習の習慣が定着した子どもが増えてきた。 ○職員会議、児童対応委員会、教育相談、カウンセリング等で、特別な支援が必要な児童について、共通理解と支援の方法を話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。 ○生徒指導委員会や代表委員会の子どもから、挨拶や学校生活のルールについて全校にはたらきかけを行ったことで、子どもたちへの意識付けになり、徐々に子どもたちの行動に表れてきているが、今後も継続した取り組みが必要である。 ○職員会議、児童対応委員会、打ち合わせを通じて、子どもの事態の情報を全職員が共有した上で指導する体制が構築されている。 ○保健委員会の活動の一環として、学校保健委員会を委員会の子どもが中心となって行った。感染症対策としてMeetでの開催となったが、テーマは「からだとこころの健康」と題して動画も交えながら、子どもの健康に対する意識を高めることができた。 ○基礎学力や学習習慣の定着が図れない子どもに対して個別支援に心がけた。	

重点目標３	子どもの学ぶ喜びにつながる研修を進める学校	3
主な方策 成果と課題	○子どもが学ぶ喜びを実感できる授業の創造を目指した。授業のめあてを指導者が子どもたちに伝え、最後にふりかえりを書かせる授業づくりに取り組んだ。 ○年間４回の全体、３回の学年部提案授業を行うことで、教材や指導方法についてより深みのある研修が実践でき、指導力の向上につなげることができた。 ○夏季校内研修会や日常的なミニ研修会、研修会後のふりかえりなど、自分たちで研修を進めたり、自分の実践につなげようと意識したりすることができた。 ○授業公開週間を通じて、時間を見つけてお互いの授業を見合うことができた。 ○年間に２回外部講師を招聘し、全クラスを参観していただき、講評していただいた。毎回コメントを送っていただきそれぞれの改善点を明らかにすることができた。 ○学校全体として、主体的、対話的な学び合いを目指し取り組む雰囲気ができつつある。さらに校内研修の取り組みを進め、授業の質の向上を目指したい。	

２　改善方針

【重点目標１　安全・安心で保護者や地域に信頼される学校】
・コミュニティスクールの活動の充実・拡がりを図る。新たに自主防災協議会・内部っ子はげまし隊・見守り隊と連携をし、「トンボ・ホタルの池」の管理や「学習の森」での取り組みなど児童とともに活動が活 発になるようにする。
・保護者や地域の連携を深め、学習内容をはじめとする教育活動全般の充実を図る。

【重点目標２　一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行う学校】
・学力調査やＮＲＴ検査などの分析結果をもとにして授業改善を行い、学習意欲が継続するような学習課題を設定する。
・子どもたちの家庭での学習習慣や基礎学力の定着に効果がみられた。今後も子どもたちの実態に応じて、課題の内容、量などを検討しながら取り組みを進めていく。
・少人数教育・習熟度別教育やＴＴについては、ＩＣＴの活用や学習集団編成や指導方法等、子どもの実態に応じ、より効果的な運用について研究していく必要がある。
・教育的支援を必要とする子どもについては、今後も児童対応委員会、職員会議等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係諸機関と連携をとりながら支援体制づくりに努める。

【重点目標３　子どもの学ぶ喜びにつながる研修を進める学校】
・児童にとっての課題を見極め、教師の力量を高めていく校内研修の充実を図る。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　中央小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	**確かな学力の定着** ① 新学習指導要領・新教育プログラムの確実な実施 ② GIGAｽｸｰﾙ構想によるすべての子どもたちの個性に合わせた教育の実現 ③ 論理的思考力を高める授業づくり ④ 小規模を活かした体験型学習等の充実 ⑤ 「読む・話す・伝える」読解力・表現力の育成	3
主な方策 成果と課題	・本校の研修テーマである『論理的思考力を高める授業づくり』について、全教員が様々な教科で研究授業を行った。授業後の研修会では、授業を通して学んだことを互いに交流したり、市教育委員会から招聘した講師先生の指導・助言をいただいたりする中で、学校全体で論理的思考力を高める授業づくりについて学ぶことができた。 ・日々の授業や家庭学習の中で、一人一台タブレットを活用することで、個に応じた学習に取り組ませることができた。今後は、より効果的な活用方法について校内で議論し、ＩＣＴを活用した情報活用能力の育成に向けた取り組みを推進していく。 ・小規模校の特色を活かし、少人数の中で一人ひとりが活躍できる場を設定し取り組みを進めてきた。「みてみて集会」では、がんばってできるようになったことや特技を全校集会で発表している。発表を通して、みんなから認められ、自信を得る経験を積み重ね、自尊感情を育むきっかけとなっている。 ・学期ごとに、授業づくりに関するレポートを作成し、日々の実践を個人で振り返ったり、全体で交流し合ったりすることができた。また、それらの活動で、学んだことを自分の学年の授業に活かすことができた。 ・朝の１０分間学習「チャレンジタイム」では、学年の実態に応じて習熟プリントやタブレットドリル等の学習に取り組むことができた。子どもたちも意欲的に取り組む姿が見られた。	

重点目標２	豊かな人間性の育成 ① 違いや良さを認め合い、支え合う子どもの育成をねらいとした人権教育 ② 自立と共生の基盤となる道徳教育 ③ 多文化共生社会に向けた教育実践 ④ 自己有用感・自尊感情に基づくキャリア形成（異学年交流活動・オンラインの活用）	3
主な方策 成果と課題	・年間を通したレポート作成やそれに関する研修会等を行うことにより、全職員で本校の強みや弱みを共有したり、一人ひとりの実践力を向上させたりすることができた。 ・６年生が人権フォーラムで学んだことを、他学年へ報告する取り組みや、代表委員会によるピンクくじら運動の取り組み等により、いじめに関する意識を全校で高めることができた。 ・授業力向上週間において人権学習の授業公開を行った。職員同士で授業を見合い、授業後には、校内で人権教育に関するミニ研修会等を持つなど、自分たちの人権感覚を高め合うことができた。 ・異学年交流（スマイル活動、縄跳びチャレンジ・ペア学年でのなわとび、学習発表等）により、様々な学年との関わりがあり、児童は、それらの活動を通して学ぶことが多くあった。 また、年間を通したペア学年での清掃活動は、高学年の子と関わりながら清掃の仕方を覚えていく低学年の姿があり、今後につながっていく成果を感じることができた。 ・各学期ごとにQU調査や学校生活アンケート、教育相談等を行い、子どもたちの様々な想いを把握し、素早い指導・問題解決につなげることができた。	

重点目標３	**健康・体力の向上** ① 体育・保健の見方・考え方を働かせる 学習過程の構築 ② 心と体を大切にし、前向きになる健康教育 ③ 安全意識・危機管理意識の向上（自分の命は自分で守る） ④ 基本的生活習慣の習得と定着	3
主な方策 成果と課題	・日々の授業の中で、運動の面白さを感じることができるような取り組みを意識的に取り入れた。 ・体力向上を意識した取り組み（水泳、なわとび、駆け足など）を、指導のねらいを全職員で毎回確認しながら取り組みを行った。 ・１月の土曜授業の際に、全校で学年に応じた防災学習に取り組み児童の防災意識を高めることができた。その学習の様子は、多くの保護者の方にも見ていただいた。 ・安全意識の向上について、今年度は、コロナ禍ということもありＤＶＤを使って映像を視聴することを通して、各学年の実態に合わせた指導ができた。今後は、警察の方等にも来ていただいての交通安全教室の実施を考えていきたい。 ・避難訓練や不審者対応訓練等を行うことで、児童の危機管理意識が高まった。また、災害時や不審者侵入時の子どもの動きだけでなく、職員の動きの確認も行うことができた。今後も訓練を行い、そこで出てきた課題については、その都度職員全体で共有・確認していきたい。	

重点目標４	**保護者・地域との協働** ① 「学校の今」の積極的発信・受信 ② 個に応じた家庭学習・自主学習 ③ 教育支援ボランティアの活用 ④ 社会に開かれた教育課程 ⑤ 地域資源を活用した体験活動	3
主な方策 成果と課題	・「学校の今」を伝えようと、学校での日常の様子をホームページに積極的に発信してきた。学校評価アンケート項目の『学校は、学校、学年の通信、ホームページなどを通じて、保護者へ情報を発信している』は、昨年度より、Ａ評価が１０％以上上昇した。今後も、学校の様子をホームページ上にのせ発信していくとともに、家庭とも連携しながらメディアリテラシー教育の取り組みの更なる充実を図っていく。 ・年度初めに「家庭学習の手引き」を家庭に配布し、学期に１回家庭学習チェック期間を設けることで、家庭と連携した取り組みを進めることができた。 ・地域の方をゲストティーチャーとして招く活動に意識的に取り組んだ。学校評価アンケート項目で『学校は、保護者や地域の人々へ学習を公開したり、地域の人々に教えてもらったりする機会を設けている』について、昨年度より、Ａ評価が１０％以上上昇した。この結果により、学校は地域の方と協働しながら運営していることに一定の成果があったと考える。	

２　改善方針

・本校の研修テーマである「論理的思考力を高める授業づくり」の実施、「家庭学習チェック週間」の取り組み、さらにはタブレット等の効果的な活用等を、今後も学校全体で推進していくことで、子どもたち一人ひとりに、より確かな学力を身につけさせていく。 ・オンラインや合同授業で他の学校と交流授業を行った。この取り組みは、小規模校であるために、多様な考えに触れにくいといった点を緩和するための取り組みである。交流を通して、普段の学校生活ではあまり見かけない姿が見られたり、多様な考え方に触れたりすることができた。今後も継続して取り組んでいく予定である。 ・異学年交流については、スマイル活動やなわとびチャレンジなどの行事以外に、日常の学習活動の中でも計画的に取り組みを進める学年が増えてきた。今後も、子どもたちの自主的な活動を促しながら、他者を思いやる気持ちを育てる取り組みを進めていきたい。 ・本校には鯨船や諏訪太鼓をはじめ地域に伝わる行事がたくさんある。少子化に伴い文化財を存続、継承していくことは難しい。今後は地域の人材活用を運営協議会からの発信により企画、運営するなど地域の参画をめざした学校づくりを行っていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　橋北小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・学習形態の工夫（少人数授業・TT）、さわやかタイムを活用した取り組み。 ・ＩＣＴを活用した授業改善および情報活用能力の育成 ・学力調査の結果から強み、弱みを把握し個々の課題の改善を図る取り組み。 【成果と課題】 〇児童アンケート「授業で習ったことがよく分かる」が８４．４％であり、少人数授業やＴＴによる取り組みの成果が見られた。プリントやＩＣＴを活用したくりかえしの学習により学力が定着してきた。 〇字数制限をしてまとめさせたり、キーワードを使って短文や振り返りを書かせたりすることで、伝えたいことを焦点化してまとめることができる児童が増えてきた。 ・家庭学習における時間（学年×１０分）の学習習慣を身につける。	

重点目標２	豊かな心の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・人権感覚・自尊感情を高める活動 ・スーパー橋北っ子に基づくよりよい学校生活を自ら作り出す活動 ・「考え・議論し、行動する」道徳の授業の推進 ・読書の意欲が高まる取り組みと読書環境の充実 【成果と課題】 〇児童会を中心に「スーパー橋北っ子」の取り組みを行った。児童アンケート「進んであいさつしていますか」については８４．４％であり、1年間を通した児童会の取り組みにより全校的に定着してきた。 〇道徳の授業を通して、自分の思いを伝えたり、自分ならどのように行動するかなどを考えたりして、多様な考えを学ぶことができた。 ・子どもたちの自尊感情が低い。子どもたちの価値観を広げていくために、日々、多様な価値観を意識づける多くの言葉かけを、まずは大人から発信していくことが重要である。 ・読書週間や長期休暇の本の貸し出し・学級文庫の蔵書の充実等、魅力ある図書館づくりを通して、どの子も本に親しむ機会を充実させることが必要である。	

重点目標３	健やかな体づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・めあてをもって取り組む体育的行事の推進、楽しく運動量のある授業づくり ・学びを支える体づくり、家庭と連携した生活リズムの定着、危機回避能力の育成 【成果と課題】 〇児童アンケート「健康や安全に気をつけている」は96.1%である。毎日の健康観察の実施により、自分の健康状態を知ることで健康管理の意識が高い。今後も生活リズムの定着を含め、体づくりの重要性を高める保健指導を考えていきたい。 〇避難訓練については、行動も早くなり、自分で考えて行動できる児童の姿が見られた。 〇「業間駆け足」「縄跳び強化週間」など体育科の授業と連携し取り組めた。 ・体育科の授業を通して様々な運動を体験し、体を動かすことの楽しさを味わうことができる授業づくりに努める。	

重点目標４	地域とともにある学校づくり	4
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・地域の資源や地域人材を活用した小規模の良さを生かした活動の推進（コミュニティスクール） ・橋北中校区内３校園と連携した取り組み（学びの一体化） ・学校、学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信及び地域や保護者からの情報発信 ・命を守る防災教育の推進 〇コロナ禍において、地域連携の取り組みを引き続き行うことができた。今後は少しずつ地域学習や地域・保護者と連携した学習の再開を進める。 〇保護者アンケートの情報発信については、91.5%であり、積極的にホームページの更新を進め、保護者・地域に発信することができた。 ・今回のアンケートで数値の低かった項目や学校運営協議会でいただいたご意見をもとに取り組みを強化する。	

重点目標５	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】 ・カリキュラムマネジメントによる教育課程の改善 ・高学年一部教科担任制による専門性の共有 ・チーム学校による組織的な対応の充実、業務改善 〇理科、英語などの専科教員による授業や中学年担任の理科と体育の交換授業などの取り組みを行い、より充実した授業を行うことができた。 〇中学年社会科と地域教材を連携させ、地域とともに学ぶ授業編成を図った。 ・会議や行事の精選・業務の見直しを図り、学級経営、生徒指導、児童と向き合う時間の確保に努める。	

２　改善方針

【確かな学力の定着】
・学力調査の結果から、本校の強みとなる単元、領域をさらに伸ばし、弱みとなる単元、領域については、ＩＣＴ活用や教科担任制等も活かし、授業改善を教職員で検討し共有する。
・家庭学習における時間（学年×１０分）の学習習慣を身につけるため、課題、自主学習の内容を指導し、家庭と協力して学力の定着に努める。
【豊かな心の育成】
・児童の自尊感情をより高めていくために、児童の価値観を広げることが必要である。そのため、大人がいろいろな日常の場面からその子らしさや、良い行動を認める言葉かけを積極的に発信する。
・スーパー橋北っ子の取り組みにおいて、「縦割り掃除」「委員会・学級活動」など自ら考えて行動できる力を育てる取り組みや児童の姿をホームページや通信、キャリアパスポート等で家庭に伝える。
【健やかな体づくり】
・運動種目に応じためあてを立て、取り組み途中にも振り返りを行い、自ら課題を捉え体力や技術の向上させる意欲を持たせる。
【地域と共にある学校づくり】
・学校教育活動アンケートの結果や学校運営協議会での意見を見直し、来年度に反映させる。
【学校教育力の向上】
・教科担任制の更なる充実を行うとともに、系統立てた教科指導や教員の強みを活かした指導力向上を進める。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　笹川小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・「学び合い」と習熟度別少人数授業の推進 ・誰もがわかりやすい授業の実現 ・英語コミュニケーション力の向上 【成果と課題】 ・今年度も対話的な学びやグループ学習を仕組むことに制限があり、学習の形態を模索した。その中で「誰もがわかりやすい授業」をめざし、授業のUD化に重点をおいて取り組んだ。外国籍児童の多い本校において、学習用語の獲得・理解に視覚支援・具体物操作を行うこと、授業時間内での習得・活用の時間を保障することに重点を置いて取り組んだ。 ・少人数授業を設定したことで、きめ細やかな指導をすることができた。 ・ＹＥＦとのＴＴを通して、児童が興味をもてる外国語活動を計画・実施できた。	

重点目標２	豊かな心の育成	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・多文化共生教育の推進 ・キャリア教育の促進 ・地域を愛する児童の育成 【成果と課題】 ・各学年が各教科、学活、総合的な学習の時間、道徳の中で、人権教育と関連させて多文化共生教育を取り組んだ。普段の学校生活の中で感じる「ちがい」について思いを伝え合うなど、本校の特色を生かした多文化共生教育をさらに進めていきたい。 ・代表委員会を中心に、「あいさつ運動」や「廊下を歩く」「時間を守る」「黙ってそうじに取り組む」等に取り組むことができた。 ・代表委員が考えたゲームで各学年が遊ぶ遊び集会を行った。ゲームを楽しむ姿を見て、代表委員たちが達成感や自己有用感を得ることができた。 ・いじめ防止強化月間を中心にして、授業等で各学級でいじめを許さない心を育てる授業に取り組んだ。 ・学習発表会を実施し、各学年で総合的な学習の時間・生活科を通して、キャリア教育や地域に関する学習を進めることができた。	

重点目標３	体力向上・健康増進	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・運動能力・体力の向上 ・健康の増進 ・学校危機管理体制の強化 【成果と課題】 ・昨年度同様、様々な制約がある中での体育授業となった。どのように運動量を確保するのか、活動内容の選択を吟味し、多様な運動を経験できるよう工夫した。水泳指導は感染対策を講じながらも、昨年度より時間数を確保して実施することができた。運動会などの体育的行事も工夫して行うことができた。引き続き、体力向上に向けた取組を進めていきたい。 ・健康増進の取り組み（睡眠）について、児童保健委員会を中心に行うことができた。養護教諭からのこまめな情報共有や注意喚起により、学校全体で健康への意識を高めることができた。 ・全校一斉での避難訓練は行えなかったが、フロアごとの訓練を行った。また、全校一斉の緊急引き渡し訓練は、3年ぶりに行うことができたので、来年度は、さらに改善に取り組みたい。	

重点目標４	開かれた学校づくり	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・家庭・地域との連携 ・笹川子ども教室との連携 ・通信・学校ＨＰ・Home&Schoolを活用した積極的な情報発信 ・児童・保護者アンケートや学校評価を生かした学校経営 【成果と課題】 ・コロナ禍で、地域や外部との交流は難しい面もあるが、地域行事への参加や、ゲストティーチャーを呼ぶなどの工夫をして、少しでも子どもたちが豊かな体験ができるようにしている。 ・学校評価アンケートでは、開かれた学校づくりの項目の肯定的な評価は約９５％であった。 ・子ども教室が、利用する児童の学習の定着に役立っている。今後、外国人児童の日本語学習に役立ち、地域の外国人保護者にも協力してもらえる場が作られるとよい。 ・H&Sなどを利用した情報発信が、軌道に乗りつつある。	

重点目標５	教職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	【主な方策】・教科担任制や教職員の協働を推進 ・中学校区学びの一体化による保幼中との連携 ・学校の教育課題を踏まえた計画的な研修 ・勤務時間及び業務の効率化を進め、教職員の力を最大限に引き出せる取組を推進 【成果と課題】 ・今年度も保幼中との交流は縮小されているが、対面での研修会も少しずつできるようになり、外国語科においては、中学校教員による乗り入れ授業ができた。 ・ＳＳＳや業務アシスタントの活用により、事務的な仕事にかける時間を縮小することができた。さらに、コロナ禍により、行事が精選され、子どもと向き合う時間の確保につながっている。 ・子どもと向き合う時間を大切にするための工夫をしながら、教科担任制を進めていきたい。	

２　改善方針

・外国人児童が増加する傾向にあり、日本語指導の確立や学級集団づくり、多文化共生教育の充実、学力向上に向けて、教職員が情報共有をしながら一丸となって指導にあたる。
・コロナ禍で学校運営の見直しを余儀なくされ、子ども同士の交流や体験的な活動は制限されてきた。今後、コロナ禍における感染症対策が見直される中で、子どもたちが協働的・主体的に学ぶことができるように、一層の工夫・改善を進める。
・一人一台のタブレットパソコンをより効果的に活用するため、教職員のＩＣＴ活用指導力を高め、児童に効果的な指導を行う。
・教職員が心身ともに健康で、子どもたちに対して、より充実した教育活動を行うことができるよう、学校運営を見直し、教職員の働き方改革を進める。教科担任制については、子どもの実態に合わせて導入し、より効果的な教育活動につなげていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　楠小　　学校

１　学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標１	豊かな心の育成 ～違いを認め合い、互いの気持ちを考えることができる子～	3
主な方策 成果と課題	「豊かな心の育成」 ・人権教育・道徳教育の推進　　・教育相談の充実 ・特別支援教育の充実　　・読書活動の充実 【成果と課題】 ・ SCがWISCなどの発達検査を実施可能であるため、その結果を用いて担任と相談・共有ができた。また、生徒指導委員会をSCが来校できる日に設定することで、専門的な視点から意見をもらうことができた。 ・昨年度同様、感染症対策をしながらの取り組みとなったが、図書委員による読み聞かせや図書館くじを使って、図書室の利用を促すことができた。図書館司書によるブックトークや読み聞かせをすることで、子どもの読書への意欲が高まった。図書館ボランティアの読み聞かせを前期も後期もしてもらえて、本への親しみをもつ児童が増えた。 ・人権教育の視点を学級づくりに生かしていけるように、各学年に応じた学びを積み上げ、「自分」と「友だち」を共に大切にしていく力を育んでいくことが大切である。	

重点目標２	確かな学力の育成 ～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～	3
主な方策 成果と課題	「確かな学力の育成」 ・「わかる」「できる」を大切にした授業づくり　　・コミュニケーション力の育成 ・情報活用能力を育成するＩＣＴ活用　　・少人数指導の充実 【成果と課題】 ・ミニ研修会を継続的に行ったことで、授業の前の集中力や関係づくりに役立つ力をつけることができた。 ・一人ひとりのニーズに合った配慮をすることで、「わかった」「できた」という実感を伴った学びにつながった。 ・サポートルームの研修を、年間を通して全学年部で実施したことで、どのように学ぶとよいか、どのような力をつけたいかを見極めることの大切さがわかった。認知行動等を視野に入れ、誰もが意識できる具体的な取り組みにつなげていくことが必要である。 ・授業におけるＩＣＴの活用を意識したことで、タブレットをどこでどのように使うといいのか、どんな力をつけたいのか意識することができた。 ・ＩＣＴ機器を使うことや、オンラインでの活動があったことでコミュニケーションの大切さを痛感した。人に伝える力（表現力）をつけるために、ＩＣＴや授業づくりを活用していくことが必要である。	

重点目標３	健康な心と体の育成 ～健康な生活を心がけ、体を鍛える～	3
主な方策 成果と課題	「健康な心と体の育成」 ・基本的な生活習慣やルールの定着　　・体力の向上 ・健康・安全意識の定着 【成果と課題】 ・生活リズムチェックや学校保健委員会、保健だより等を活用し、保護者や児童に取り組みを意識させることができた。（定着してきた）日頃の児童の様子を見ると、生活リズムに課題がある児童も少なくない。リズムに課題がある児童に対する働きかけが不十分だった。 ・残菜が他校よりも少ないことから、食育指導が充実している。児童によっては食べる量が極端に少ないことがあるので、個別に対応し手個別の支援をすることが必要。 ・今年度も新型コロナウイルスによって行事が制限されることがあった。体育的行事は比較的に実施できたが、不審者対応訓練や避難訓練などの防災教育について体験を伴わせることができなかった。今後、実感が伴う教育活動の位置づけを進めていくとともに、早期に体験を伴う訓練を実施する。	

２　改善方針

・教育相談では、学期ごとのあったかタイムに加え、普段から児童一人ひとりと話をする時間を確保し児童の小さな変化を見逃さないようにしていく。
・学校で決まっているルールを、その必要性も考えさせながら守らせていく。
・自分から挨拶をすることについて各学級で児童に考えさせ、全校で取り組んでいく。
・教育アドバイザーや授業公開等を通じて、個々の授業力を高める。さらに、四日市モデルを意識した授業づくりに取り組み問題解決型の授業づくりを意識する。
・ホワイトボードの使い方を基本とした伝える力をベースとし、発表ノートや模造紙を使ったプレゼンをさせることで表現力の育成をしていく。
・サポートルーム研修で学んだ内容を日々の授業に活用し、個別の支援が必要な児童への指導力をつける。
・生活リズムに関しては、継続して生活リズムチェック等を行う。児童の生活を把握し、指導を行う。保護者にも生活リズムの必要性を通信等でなぜ大切なのかを伝えていく必要がある。また、児童の実態に応じて、アンケート項目を精査していく。
・不審者対応訓練や避難訓練などの防災教育を早期に実施する。もし全校で行えない場合は、各学年で実施し、防災防犯意識を高めていく。